

えびの市埋蔵文化財調査報告書 第39集

草刈田遺跡

県営経営体育成基盤整備事業末永地区草刈田団地に伴う発掘調査報告書

2004

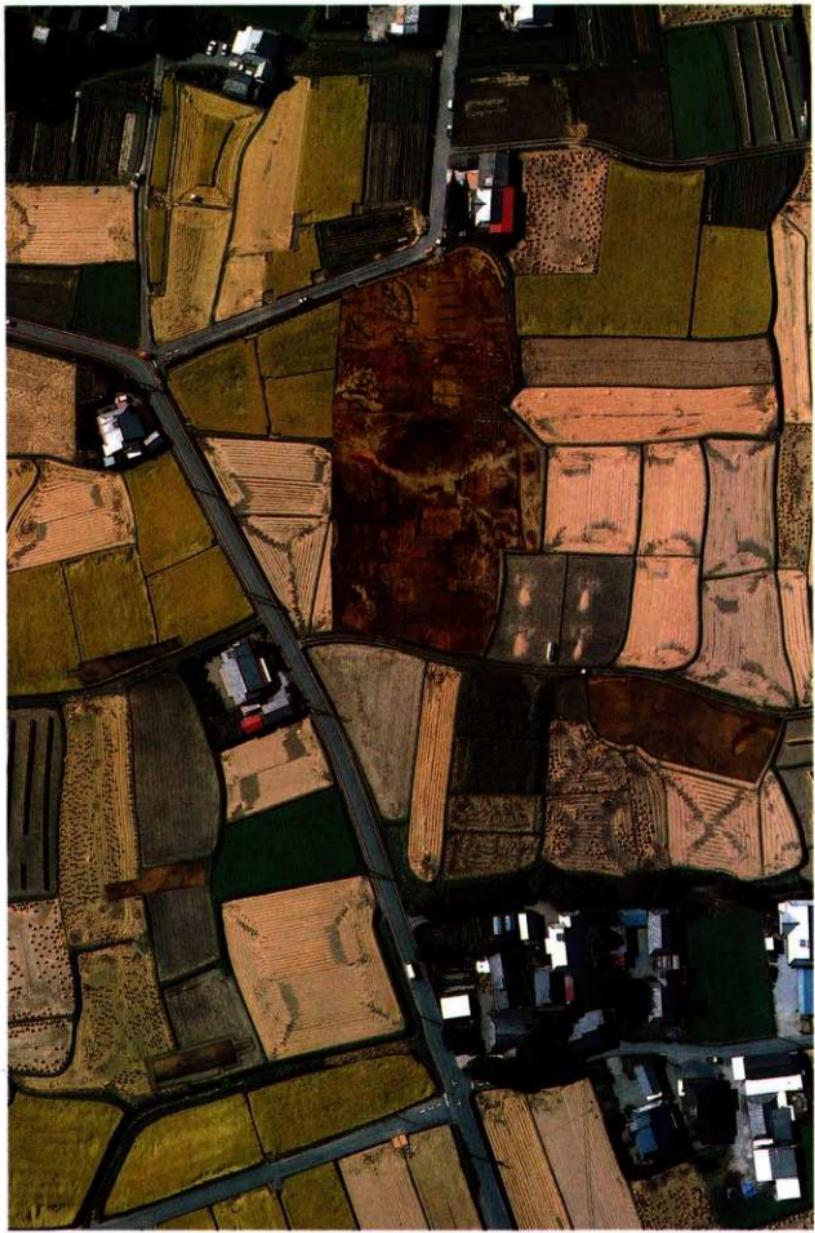
宮崎県えびの市教育委員会

草刈田遺跡

県営経営体育成基盤整備事業末永地区草刈田団地に伴う発掘調査報告書

2004

宮崎県えびの市教育委員会



草刈田遺跡 全景（俯瞰、集合写真、右が北）

序

えびの市は、宮崎県の西南端に位置し、日向・肥後・薩摩の分岐点にあたり、古くから交通の要衝として栄え、必然的に様々な文化や文物が混合した、独特の地域であります。

本市は、北の急峻な九州山地と南のなだらかな霧島山系に挟まれた狭長な盆地で、年間降雨量も多く湧水に恵まれています。大小20余の小河川は盆地中央を西流する川内川へ注ぎ、肥沃な土壌を運んでいます。沖積地は良好な耕作地として重要視され、中世には丘陵突端部に続々と山城が築かれ、重要性を物語っています。

本市の盆地南縁に位置する県道小林一京町線は、古代の官道を一部踏襲していることが近年想定されておりますが、このたびの圃場整備事業に伴う発掘調査において、そのルートを確認する機会を得ることができました。

本書は、平成14年度に実施した草刈田遺跡発掘調査の報告書であります。官道は典型的な構造ではありませんでしたが、今後の研究の一助となりました。また、弥生時代後期～古墳時代前期と古代末～近世の集落跡も存在した複合遺跡であります。当遺跡の調査によって、低地や微高地にも相当数の遺跡が包蔵していることをあらためて認識させられる契機になりました。

本書が学術資料としてだけでなく、生涯学習や学校教育の場で活用され、埋蔵文化財の保護に対する理解と認識が深まれば幸いです。

本遺跡の調査にあたりご指導・ご協力いただいた諸先生方や県文化課諸氏、調査に対してご理解ご協力いただいた西諸県農林振興局・県土地改良・工事関係者ならびに地権者・耕作者の諸氏、発掘作業・整理作業に従事していただいた作業員の方々に対しまして厚く御礼申し上げます。

平成16年3月

えびの市教育委員会

教育長 松 田 忠 信

例　　言

1. 本書は、平成14年度に実施した、県営担い手育成基盤整備事業末永地区に伴う草刈田遺跡発掘調査の報告書である。
2. 調査はえびの市教育委員会が主体となり、平成14年10月28日から平成15年2月17日まで実施した。
3. 本報告書作成のための整理作業は、平成15年度に実施した。
4. 遺構の全体図は、九州航空株式会社に委託し、1/50・1/200図を作成した。
5. 出土人骨の分析については、鹿児島大学の竹中正巳氏に依頼し、玉稿を賜った。記して感謝申し上げる。
6. 出土陶磁器については、佐賀県立九州陶磁文化館の大橋康二副館長に鑑定して頂いた。
7. 遺構および出土遺物の写真撮影は中野がおこなった。
8. 本文の執筆は中野が、浄書は入木がおこなった。
9. 調査の関連資料および出土遺物は、えびの市歴史民俗資料館に保管している。

凡　　例

1. 本書掲載の遺構は、S A：堅穴住居、S B：掘立柱建物跡、S K：土坑・土壙墓、S D：溝状遺構、S R：道路状遺構、S X：自然流路、S Z：用途不明として略している。
2. 掘図記載の方位は、国土座標軸の北を示す。
3. 遺構番号は、I～III区・IV～VI区で各々連続している。
4. 出土遺物観察表の胎土欄に記載した砂粒は、目測ではあるが、微砂：概ね直径0.5mm未満、細砂：0.5～1.5mm位、粗砂：1.5～2.5mm位とし、3mm以上を小礫としている。この基準は、断面層序図の土層注記にもほぼ対応する。
5. 同表の調整欄に記載した「工具ナデ」は、「ハケ」でも良いのであるが、ハケ目が明瞭でないことから区別している。また、「半ミガキ」とは、ハケ状工具で調整しているもののミガキ状に仕上がっていいる状態を表わす。
6. 写真図版の個別遺構と土層断面写真に写っているピンポールの長さは、すべて1mである。
7. IV・V区の航空写真の一部は、概要報告とは若干異なり、最終的な遺構ラインに加筆修正している。

調査組織

特別調査員 佐賀県立九州陶磁文化館 副館長 大橋 康二

古代交通研究会 会長 木下 良

調査協力・助言 鹿児島地名研究会 世話役 平田 信芳

佐賀大学 教育学部 教授 日野 尚志

長崎外国语短期大学 國際文化学科 助教授 木本 雅康

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科

先進治療学専攻神経病学講座歯科応用解剖学分野 助手 竹中 正巳

宮崎産業経営大学 法学部 講師 柴田 博子

鹿児島ラ・サール高校 教諭 永山 修一

鹿児島県姶良町歴史民俗資料館 下鶴 弘・深野 信之

都城市教育委員会 文化課 乘畠 光博 (以上 敬称略)

調査主体 えびの市教育委員会

教育長 松田 忠信

社会教育課長 馬越脇 泰二

文化係長 上加世田たず子

事務 下東嘉也

技師 中野和浩

平成14年度

発掘作業員 有馬セツ、有村ナナ子、今村ヒトエ、岩本優、櫻園スミ子、大木場登美子、上水流百合子、柿木照子、川畑フジ子、木原典子、草野徳、楠元よし子、黒木ナミ子、黒木博鎮、源嶋ミエ、里岡カズ子、白宮和幸、新原敏子、園田菊野、園出重義、大王サツミ、竹本キクエ、竹本文江、谷之木ミコ、出水一美、中川四四三、永田美智子、原内アヤ子、原内ツルエ、原口キミ子、東田幸子、東田政子、福山シズエ、測脇テツ、星指利江子、前田正治、益山政子、松岡ヨシ子、松下ヤエ子、松元一、水無口勝、宮崎みどり、宮原ミヨ、本坊福子、森政宏、山口清子、山崎フジ子、山下一男、山之口三子、山宮ミエ、山元洋子、米倉利子

整理作業員 入木和代、山内ミホ子

平成15年度

整理作業員 安藤紀代、入木和代、上水由喜子、大重泉、大田由美子、芝原由喜、末継さおり、野田幸子、原山征子、米倉千春

目 次

第Ⅰ章 はじめ	1
第Ⅱ章 遺跡の位置と歴史的環境	2
第Ⅲ章 発掘調査	
第1節 はじめ	4
第2節 基本的層序	4
第3節 I区の調査	6
第4節 II区	9
第5節 III区	15
第6節 IV区	16
第7節 V・VI区	27
第Ⅳ章 総括	144
付篇 宮崎県えびの市草刈田遺跡出土の中世人骨	149

挿 図 目 次

第1図 遺跡の位置と周辺の地形位置図	1	実測図	15
第2図 A地点模式図	4	第13図 IV区遺構分布図	17
第3図 調査区の位置と官道推定図	5	第14図 S B-01遺構実測図	18
第4図 I区遺構実測図、西壁層序図	7・8	第15図 P P-264・265・303ほか 遺構実測図	18
第5図 I区S R-01 1層出土遺物実測図	9	第16図 S K-01・02・06・09・11・14 遺構実測図	19
第6図 I区出土輸入陶磁器・近世国産陶磁器 実測図	9	第17図 S K-16・18・19・20・22・23 遺構実測図	20
第7図 II区出土土師器・土師質土器 実測図	10	第18図 S K-03・04・07・08・10・21 遺構実測図	21
第8図 II区出土輸入陶磁器・近世国産陶磁器 実測図	10	第19図 S K-13遺構実測図	22
第9図 II区遺構実測図、西壁・東壁 層序図	11・12	第20図 S D-01・02・S Z-01遺構実測図	22
第10図 III区遺構実測図、西・北・南壁 層序図	13・14	第21図 S R-01遺構実測図	23
第11図 III区S D-01出土遺物実測図	15	第22図 IV区南壁西端部断面層序図	24
第12図 III区出土輸入陶磁器・近世国産陶磁器		第23図 S Z-02遺構実測図	25
		第24図 S D-02・S Z-03断面層序図	25

第25図	IV区出土遺物実測図	26	第56図	S A -03出土遺物実測図	60
第26図	IV区出土輸入陶磁器・近世国産陶磁器 実測図	26	第57図	S A -04遺構実測図	61・62
第27図	V・VI区遺構分布図	29・30	第58図	S A -04出土遺物実測図（1）	63
第28図	S B -02遺構実測図	31	第59図	S A -04出土遺物実測図（2）	64
第29図	S B -03遺構実測図	32	第60図	S A -04出土遺物実測図（3）	65
第30図	S B -04・05遺構実測図	33	第61図	S A -05・06遺構実測図	67・68
第31図	S B -06遺構実測図	34	第62図	S A -05出土遺物実測図（1）	69
第32図	S B -07遺構実測図	35	第63図	S A -05出土遺物実測図（2）	70
第33図	S B -08遺構実測図	35	第64図	S A -05出土遺物実測図（3）	71
第34図	S B -09・10遺構実測図	36	第65図	S A -06出土遺物実測図、S A -07出土 遺物実測図（1）	74
第35図	S B -11遺構実測図	37	第66図	S A -07・08遺構実測図	75・76
第36図	S B -12遺構実測図	38	第67図	S A -07出土遺物実測図（2）	77
第37図	S B -13遺構実測図	39	第68図	S A -08出土遺物実測図	77
第38図	S K -61～67遺構実測図	39	第69図	S A -09遺構実測図	79・80
第39図	S K -55・56・71～79遺構実測図	40	第70図	S A -09出土遺物実測図	81
第40図	S R -02遺構実測図	41	第71図	S A -10遺構実測図	82
第41図	V・VI区出土土師器・土師質土器・黒 色土器・中世国産陶器実測図	42	第72図	S A -10出土遺物実測図	83
第42図	V・VI区出土輸入陶磁器・近世国産陶 磁器実測図	42	第73図	S A -11遺構実測図	85
第43図	S D -07出土錢貨実測図	42	第74図	S A -11出土遺物実測図	86
第44図	S A -01遺構分布図	45・46	第75図	S A -12遺構実測図	87
第45図	S A -01出土遺物実測図（1）	47	第76図	S A -12出土遺物実測図	88
第46図	S A -01出土遺物実測図（2）	48	第77図	S A -13遺構実測図	91・92
第47図	S A -01出土遺物実測図（3）	49	第78図	S A -13出土遺物実測図	93
第48図	S A -01出土遺物実測図（4）	50	第79図	S A -14遺構実測図	94
第49図	S A -01出土遺物実測図（5）	51	第80図	S A -14出土遺物実測図（1）	94
第50図	S A -01出土遺物実測図（6）	52	第81図	S A -14出土遺物実測図（2）	95
第51図	S A -01出土遺物実測図（7）	53	第82図	S A -15遺構実測図	97・98
第52図	S A -01出土遺物実測図（8）	54	第83図	S A -16遺構実測図	99
第53図	S A -02・03遺構実測図	55・56	第84図	S A -17遺構実測図	99
第54図	S A -02出土遺物実測図（1）	57	第85図	S A -18遺構実測図	100
第55図	S A -02出土遺物実測図（2）	58	第86図	S A -19遺構実測図	101・102
			第87図	S A -20遺構実測図	103・104
			第88図	S A -15～18出土遺物実測図	105

第89図	S A-19・20出土遺物実測図	105	出土遺物実測図	126	
第90図	S A-21遺構実測図	106	第112図	S K-40出土遺物実測図	126
第91図	S A-21出土遺物実測図	107	第113図	S K-42~45出土遺物実測図	124
第92図	調査区出土鉄器実測図	107	第114図	S K-47~49・55・57 出土遺物実測図	128
第93図	S K-28遺構実測図	108	第115図	S K-85・96~98・118遺構実測図、 S D-06断面層序図	129
第94図	S K-28出土遺物実測図（1）	109	第116図	S K-81~85出土遺物実測図	130
第95図	S K-28出土遺物実測図（2）	110	第117図	S K-101・118・119 出土遺物実測図	131
第96図	S K-29遺構実測図	111	第118図	S K-54遺構実測図	131
第97図	S K-29出土遺物実測図	112	第119図	深掘坑断面層序実測図	132
第98図	S K-39遺構実測図	113	第120図	VI区Ⅲb~IV層出土遺物実測図	133
第99図	S K-39出土遺物実測図（1）	114	第121図	V区Ⅱ~Ⅲc層出土遺物実測図	134
第100図	S K-39出土遺物実測図（2）	115	第122図	V区Ⅲc層出土遺物実測図（1）	135
第101図	S K-39出土遺物実測図（3）	116	第123図	V区Ⅲc層出土遺物実測図（2）	136
第102図	S K-39出土遺物実測図（4）	117	第124図	V区Ⅲc~Ⅳa層 出土遺物実測図	137
第103図	S K-41遺構実測図	118	第125図	調査区出土石器実測図（1）	138
第104図	S K-41出土遺物実測図	119	第126図	調査区出土石器実測図（2）	139
第105図	S K-47遺物出土状態、 遺構実測図	120	第127図	調査区出土石器実測図（3）	140
第106図	S K-80遺物出土状態、 遺構実測図	121	第128図	調査区出土石器実測図（4）	141
第107図	S K-80出土遺物実測図（1）	122	第129図	遺構変遷図	145・146
第108図	S K-80出土遺物実測図（2）	123	第130図	官道と駅推定図（1）	147
第109図	S K-80出土遺物実測図（3）	124	第131図	官道と駅推定図（2）	147
第110図	S K-33・40・42・44・45・59・82~84 遺構実測図	125			
第111図	S K-32・33・34・38				

図版目次

- 図版1 調査前 調査地とその周辺
- 図版2 調査地近景（東から）
- 図版3 調査地近景（西から）
- 図版4 I~Ⅲ区 完掘全景
- 図版5 A地点官道痕跡推定地現況、I区完掘、官道2次面遺物出土状態

- 図版6 I区S R-01北側2次面上面・遺物出土状態、底面検出・西壁層序
- 図版7 I区S R-01西壁沿いサブトレント掘込・西壁層序（南東から）、（北東から）
- 図版8 I区S R-01西壁北部断面層序、中央部、南側
- 図版9 II区完掘俯瞰、上層（S R-01埋没後）遺物出土状態、南西壁断面層序・遺物出土状態
- 図版10 II区S R-01完掘全景（北から）、（北西から）
- 図版11 II区北半部・東壁層序、S R-01最深部西壁層序、東壁層序
- 図版12 III区完掘俯瞰、全景、東半部全景
- 図版13 III区北壁層序、S D-01底面遺物出土状態、南壁層序、S D-01底面中央付近サブトレント断面層序
- 図版14 IV区 完掘 縮略
- 図版15 IV区S K-01断面層序、完掘・人骨出土状態、接写
- 図版16 IV区S K-02断面層序、完掘・遺物出土状態、S K-06断面層序
- 図版17 IV区S K-09断面層序、完掘・遺物出土状態
- 図版18 IV区S K-11断面層序、S K-14断面層序・完掘全景、S K-16断面層序
- 図版19 IV区S K-17断面層序、S K-18断面層序、S K-19断面層序・完掘全景
- 図版20 IV区S K-20断面層序、S K-22断面層序、S K-23断面層序、S K-13断面層序・遺物出土状態
- 図版21 IV区S D-02断面層序・遺物出土状態、S D-02・S Z-01断面層序、S Z-02断面層序・遺物出土状態
- 図版22 IV区S D-04遺物出土状態・南～西壁断面層序、南壁層序
- 図版23 V・VI区完掘俯瞰（合成写真）
- 図版24 V区全景 傾瞰
- 図版25 V区S A-01ほか完掘全景、S A-04・07・08・14ほか完掘全景
- 図版26 V区南東部遺構分布状態
- 図版27 V区北西部遺構分布状態
- 図版28 VI区全景 傾瞰、S A-17・S B-12ほか遺構分布状態
- 図版29 V区S A-15と掘立柱建物群ほか遺構分布状態
- 図版30 VI区南半部遺構分布状態
- 図版31 V区中央～東部近景、北半部近景
- 図版32 V区南半部近景、S A-13・04ほか近景
- 図版33 V区中央部近景、西端部近景
- 図版34 VII区西半部近景、東半部近景
- 図版35 S A-15完掘全景、S A-18完掘全景、S A-19ほか近景
- 図版36 S A-20・21ほか近景、S A-21ほか完掘全景、S B-09ほか近景

- 図版37 S B-09・10周辺近景、S B-09～13周辺近景、S B-13周辺近景
- 図版38 VI区深掘坑1北壁層序、深掘坑2南側東壁層序
- 図版39 VI区深掘坑3東壁層序、深掘坑4東壁層序
- 図版40 S A-01上層遺物出土状態、南半部
- 図版41 S A-01中～下層遺物出土状態（西から）、南半部
- 図版42 S A-01中～下層遺物出土状態（東から）、南半部
- 図版43 S A-01断面層序、南北セクション南半東壁層序
- 図版44 S A-01東西セクション南壁断面層序、東半部、完掘全景
- 図版45 S A-02・03遺物出土状態、S A-02遺物出土状態、S A-02・03南北セクション東壁層序
- 図版46 S A-01東西セクション南壁層序、S A-02遺物出土状態
- 図版47 S A-04上面遺物出土状態
- 図版48 S A-04南東部遺物、炭化材出土状態、断面層序、東西セクション中央部断面層序
- 図版49 S A-04断面層序、完掘全景、S A-05遺物出土状態
- 図版50 S A-05遺物出土状態、断面層序、中央部断面層序
- 図版51 S A-05底面遺物出土状態、S A-05底面・S A-06遺物出土状態
- 図版52 S A-07遺物出土状態、中央南東部
- 図版53 S A-07断面層序、南北セクション南半部東壁層序
- 図版54 S A-09遺物出土状態、断面層序、東西断面層序
- 図版55 S A-10遺物出土状態、完掘・断面層序
- 図版56 S A-11遺物出土状態、断面層序
- 図版57 S A-12遺物出土状態、断面層序、航空写真後再検出・掘込後断面層序・遺物出土状態
- 図版58 S A-12再調査遺物出土状態・断面層序、完掘全景
- 図版59 S A-13遺物出土状態、東西断面層序、南北断面層序
- 図版60 S A-14遺物出土状態、断面層序
- 図版61 S A-15遺物出土状態・断面層序、中央部断面層序
- 図版62 S A-15断面層序・実測風景、S A-16遺物出土状態、完掘全景
- 図版63 S A-17遺物出土状態・断面層序、完掘全景、S A-18遺物出土状態・断面層序
- 図版64 S A-18東南部南北セクション断面層序、S A-19遺物出土状態・断面層序
- 図版65 S A-19中央部断面層序
- 図版66 S A-20遺物出土状態・断面層序、中央部
- 図版67 S A-20中央底面遺物出土状態、S A-20・S D-09断面層序・遺物出土状態、S A-21断面層序
- 図版68 S A-21中央部遺物出土状態、S A-21・深掘坑5南壁・S D-09西壁層序
- 図版69 S K-28検出・東半部掘り下げ状況、上層遺物出土状態

- 図版70 S K-28中層遺物出土状態、下層遺物出土状態
- 図版71 S K-29上面遺物出土状態、上層遺物出土状態
- 図版72 S K-29中層遺物出土状態、S K-33完掘全景
- 図版73 S K-39上層遺物出土状態、中層遺物出土状態
- 図版74 S K-39南半部下層遺物出土状態、断面層序、完掘全景
- 図版75 S K-40遺物出土状態・断面層序、完掘全景、S K-41検出・上面遺物出土状態
- 図版76 S K-41遺物出土状態、S K-47断面層序・遺物出土状態
- 図版77 S K-47遺物出土状態、中央部高坏ほか南西部遺物出土状態
- 図版78 S K-42遺物出土状態、S K-44遺物出土状態、S K-45遺物出土状態、S K-59遺物出土状態
- 図版79 S K-61～67完掘全景、S K-70～78完掘全景、S K-80上～中層遺物出土状態
- 図版80 S K-80遺物出土状態、東半部下層遺物出土状態、断面層序
- 図版81 S K-82遺物出土状態、S K-83遺物出土状態、断面層序、S K-84遺物出土状態、S K-85遺物出土状態・断面層序
- 図版82 S K-95・96検出状態、S K-96遺物出土状態・断面層序、S K-97・98検出状態、断面層序
- 図版83 S D-06ほか遺構検出状態、S D-06断面層序・遺物出土状態
- 図版84 S R-02東端壁断面層序、中央西寄りセクション西壁断面層序
- 図版85 I区S R-01出土遺物、II～III層出土輸入陶磁器（外面）、（内面）、II区S R-01上層出土遺物
- 図版86 II区自然流路出土遺物、II～III層出土輸入陶磁器（外面）、（内面）、III区S D-01出土土師器（1）、（2）、須恵器
- 図版87 III区S D-01出土中世国産陶器、III区出土輸入陶磁器（外面）、（内面）、I～III区出土近世国産陶磁器（外面）、（内面）
- 図版88 IV区III層出土弥生土器、S Z-01出土弥生土器、S K-02出土土師質土器、S K-09出土土師質土器、S K-09・13・16・19、S Z-03出土土師器・土師質土器、S K-13出土中世国産陶器（外面）、（内面）
- 図版89 IV区出土輸入陶磁器（外面）、（内面）、S Z-01～03出土近世国産陶磁器（外面）、（内面）、V区S A-01出土遺物（1）
- 図版90 V区S A-01出土遺物（2）～（5）
- 図版91 S A-01出土遺物（6）、（7）
- 図版92 S A-01出土遺物（8）～（13）
- 図版93 S A-01出土遺物（14）～（16）
- 図版94 S A-01出土遺物（17）、（18）

- 图版95 S A-01出土遗物 (19) ~ (24)
- 图版96 S A-01出土遗物 (25) ~ (28)
- 图版97 S A-02出土遗物 (1) ~ (3)
- 图版98 S A-03出土遗物 (1) ~ (4)
- 图版99 S A-04出土遗物 (1)、(2)
- 图版100 S A-04出土遗物 (3) ~ (6)
- 图版101 S B-04上面出土遗物、S A-05出土遗物 (1)
- 图版102 S A-05出土遗物 (2)、(3)
- 图版103 S A-05出土遗物 (4) ~ (6)
- 图版104 S A-05出土遗物 (7) ~ (9)、S A-06出土遗物 (1)、(2)
- 图版105 S A-07出土遗物 (1)、(2)
- 图版106 S A-07出土遗物 (3)、(4)、S A-08出土遗物
- 图版107 S A-09出土遗物 (1)、(2)
- 图版108 S A-09出土遗物 (3)、(4)、S A-10出土遗物 (1)
- 图版109 S A-10出土遗物 (2)、S A-11出土遗物 (1)、(2)
- 图版110 S A-12出土遗物 (1)、(2)
- 图版111 S A-11·12出土遗物、S A-13出土遗物 (1)、(2)
- 图版112 S A-14出土遗物 (1) ~ (4)
- 图版113 S A-14出土遗物 (5)、S A-15出土遗物、S A-16出土遗物 (1)、(2)、S A-17出土
遗物 (1)
- 图版114 S A-17出土遗物 (2)、S A-18出土遗物、S A-19出土遗物、S A-20出土遗物、S A-21
出土遗物
- 图版115 S K-28出土遗物 (1)、(2)
- 图版116 S K-28出土遗物 (3) ~ (7)
- 图版117 S K-29出土遗物、S K-32出土遗物、S K-33出土遗物
- 图版118 S K-39出土遗物 (1) ~ (4)
- 图版119 S K-39出土遗物 (5) ~ (7)
- 图版120 S K-39出土遗物 (8) ~ (10)
- 图版121 S K-39出土遗物 (11) ~ (17)、S K-82出土遗物
- 图版122 S K-44出土遗物 (1)
- 图版123 S K-40出土遗物、S K-41出土遗物 (1)、(2)
- 图版124 S K-41出土遗物 (3) ~ (5)
- 图版125 S K-41出土遗物 (6)、S K-34·38·40·42~44 (2) 出土遗物
- 图版126 S K-47出土遗物、S K-48出土遗物、S K-45·47~49出土遗物

- 図版127 S K-80出土遺物（1）、（2）
- 図版128 S K-80出土遺物（3）～（5）
- 図版129 S K-80出土遺物（6）～（8）、S K-83出土遺物
- 図版130 S K-119出土遺物、S K-84出土遺物、S K-55・57・81・85・101・118出土遺物
- 図版131 V・VI区Ⅲc層出土遺物、V区Ⅲc層出土彩文土器（外面）、（内面）、V区Ⅱ～Ⅲ層出土遺物
- 図版132 V～VI区Ⅲc層出土遺物（1）、（2）
- 図版133 V～VI区Ⅲc層出土遺物（3）～（5）、VI区Ⅲc・IVa層出土遺物
- 図版134 V～VI区Ⅲc層出土遺物（6）～（8）、V区IVa層出土遺物、VI区IVc層出土遺物、SD-09出土遺物
- 図版135 PP-403出土土師質土器、SD-06出土土師器、PP-326・374・405・410出土土師器・土師質土器、V～VI区出土黒色土器、中世国産陶器（外面）、（内面）
- 図版136 V～VI区出土輸入陶磁器（外面）、（内面）、V区SR-03・II層出土近世国産陶器（外面）、（内面）
- 図版137 IV～VI区出土磨製石鎌、V～VI区出土器面調整具、刃器（A面）、（B面）
- 図版138 IV～VI区出土滑石製石鍋片・石鍋片再加工品、SK-41出土砥石兼敲き石、IV～VI区出土砥石
- 図版139 SA-09・11・13出土台石、SA-01出土台石、SA-05出土台石、V区Ⅲb・c層出土すり石・敲き石
- 図版140 V区SD-07出土銭貨、V～VI区SAほか出土鉄器

表 目 次

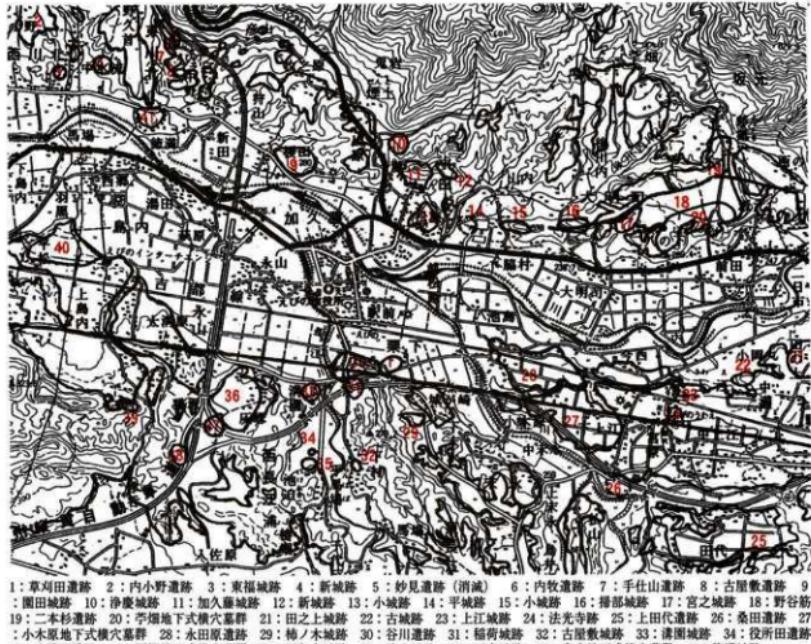
表1. I区出土遺物観察表（1）土器………	9	表10. V・VI区出土遺物観察表（2）	
表2. I区出土遺物観察表（2）陶磁器………	9	陶磁器……………	43
表3. II区出土遺物観察表（1）土師器・土師質土器………	10	表11. SA-01出土遺物観察表（1）………	58
表4. II区出土遺物観察表（2）陶磁器………	15	表12. SA-01出土遺物観察表（2）………	59
表5. III区出土遺物観察表（1）土器………	15	表13. SA-02出土遺物観察表（1）………	59
表6. III区出土遺物観察表（2）陶磁器………	16	表14. SA-02出土遺物観察表（2）………	66
表7. IV区出土遺物観察表（1）土器………	27	表15. SA-03出土遺物観察表………	66
表8. IV区出土遺物観察表（2）陶磁器………	27	表16. SA-04出土遺物観察表………	72
表9. V・VI区出土遺物観察表（1）		表17. SA-05出土遺物観察表（1）………	72
土器………	43	表18. SA-05出土遺物観察表（2）………	73
		表19. SA-06出土遺物観察表………	73

表20. S A-07出土遺物觀察表	78	表36. S K-39出土遺物觀察表（2）	118
表21. S A-08出土遺物觀察表	78	表37. S K-41出土遺物觀察表	120
表22. S A-09出土遺物觀察表	84	表38. S K-80出土遺物觀察表	124
表23. S A-10出土遺物觀察表	84	表39. S K-32・34・38・40・42・43 出土遺物觀察表	129
表24. S A-11出土遺物觀察表	89	表40. S K-44・45・47・48 出土遺物觀察表	130
表25. S A-12出土遺物觀察表	89	表41. S K-49・55・57・81・82 出土遺物觀察表	131
表26. S A-13出土遺物觀察表	90	表42. S K-83～85・101・118・119出土遺物觀 察表	132
表27. S A-14出土遺物觀察表	96	表43. II～III層出土遺物觀察表（1）	141
表28. S A-15・16出土遺物觀察表	105	表44. II～III層出土遺物觀察表（2）	142
表29. S A-17～21出土遺物觀察表	105	表45. 調査区出土石器觀察表	143
表30. 調査区出土鐵器觀察表	107	表46. 挖立柱建物跡一覽	143
表31. S K-28出土遺物觀察表（1）	110		
表32. S K-28出土遺物觀察表（2）	111		
表33. S K-28出土遺物觀察表（3）	112		
表34. S K-29出土遺物觀察表	117		
表35. S K-39出土遺物觀察表（1）	117		

第Ⅰ章 はじめに

平成12年10月12日、本市の中央南側に位置する栗下地区字草刈田地内において、圃場4.5haを整備する計画（事業名は末永地区）に伴う遺跡の照会があった。調査対象地域は周知の遺跡ではなかつたが、西隣の水田には官道の痕跡（A地点⁽¹⁾）が遺存していると推定されていることや、最低位段丘や微高地にも遺跡が包蔵している事例があることも判明しつつある。さらに西方100mの地点（B地点）において、中世の土師質土器や陶磁器片を探集している⁽²⁾ことから、古代～中世の集落跡の存在を留意していた。調査対象地域は、同一面の最低位段丘に立地し、当然のごとく遺跡の包蔵が予測された。

平成14年3月22日、県文化課と西諸県農林振興局・市耕地課・当局の4者で協議した結果、埋蔵文化財の有無を確認する試掘調査を県文化課が実施することになった。同年4月9日～11日、試掘溝23ヶ所を設定・調査した結果、柱穴や溝状構造の検出とともに、土師器や土師質土器・輸入陶磁器等の土器片が相当量出土した。同月30日、4者と地元土地改良の委員とで協議をして、工事計画図を照合し、発掘調査の必要地区を決定した。5月13日、地元地権の方々を交えて協議し、発掘調査の具体的な計画を決めた。



第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡位置図 (1 : 50,000)

遺跡を分断する県道の南側においては工事の切り盛りが殆ど無いが、埋没しているであろう官道の確認のため、工事計画道路・水路部分で実施することとし（I～III区）、北側においては、削平される地点（IV～VI区）約6,150m²を調査対象とした。

第Ⅱ章 遺跡の位置と歴史的環境

草刈田遺跡は、えびの市大字栗下字草刈田に所在する。本市の盆地中央を西流する川内川の2大支流である長江川と池島川に挟まれた丘陵の先端、東西700mの自然堤防～最低位段丘の北東部分に立地し、標高は234～237m程度である。北側は広大な氾濫原へと移行する。

背後の丘陵は、標高1,700mの韓国岳を主峰とする霧島山系から派生するもので、末端部には中世の山城が占地する。

旧石器時代

遺跡周辺では遺構・遺物は発見されていないが、4km北東に位置する東川北地区の3遺跡で若干の遺物が出土している。妙見遺跡（5、消滅）では、縄文時代早期の遺物と共に、ナイフ型石器12点のほか、剥片尖頭器1点、台形石器1点、三稜尖頭器1点、細石刃核4点、細石刃13点が出土している^⑤。妙見遺跡の南側直下に位置する内牧遺跡（6）では、古墳時代～古代の地層から、ナイフ型石器1点と細石刃1点が出土している^⑥。隣接する古屋敷遺跡（8）においても剥片尖頭器未製品1点と細石刃1点が出土している^⑦。九州山地を越えた熊本県球磨盆地では遺跡が散見されるため、将来的には増加するものと期待している。

縄文時代

早期の遺跡は、川内川左岸では極めて少なく、小木原地区遺跡群久見追B地区の微高地で押型文土器片等数点が出土した^⑧にすぎない。反面、右岸では増加しつつあり、二本杉遺跡（19）では若干の遺物のほか、20基余の集石遺構を検出している^⑨。妙見遺跡では13基の集石遺構のほか、数万点の遺物が出土している。手仕山遺跡（7）では、約5,000点の土器片等が出土している^⑩。

前期、確実な遺構は未発見であるが、内小野遺跡^⑪（3）等で若干の轟式・曾畠式土器が出土している。

中期の遺構も無いに等しく、遺物として阿高式土器等が若干出土しているにすぎない。

後期の遺跡は爆発的に増加し、上田代遺跡では円形の竪穴式住居10棟のほか数万点の土器片が、役所田遺跡^⑫（34）では不要品廐棄土坑数基のほか晩期前半にかけて8万点以上の土器片が出土している。市内における定住化は後期以降と言える。

晩期の遺構は少ないが、桑田遺跡（26）では円形土坑と溝状遺構を検出し、後者の覆土から熱帶性ジャボニカのプランツ・オパールが検出されている^⑬。

弥生時代

前期の遺構は未発見であり、上田代遺跡（25）で壺形土器片が、永田原遺跡（28）で挿入柱状片刃石斧が各々1点出土したにすぎない^{註1}。中期末、黒髪式土器が広く分布しているが、確実な遺構は未発見である。

後期の遺跡は急増し、竪穴住居は日向型間仕切り住居が主流となる。主として円形基調であり、二本杉遺跡で多く検出されたほか、内小野遺跡と古屋敷遺跡などで若干検出している。

古墳時代

前期の集落は方形基調の日向型間仕切り住居が主流で、中期頃から隅丸方形住居へと転換する。

墳墓群は多数発見されており、2～2.5kmの間隔で地下式横穴墓群が分布している。それらを造営した集団の集落は同一段丘面には無いことまではわかっているが、位置は殆ど特定できていない。

7世紀代の遺構・遺物は皆無に等しく、今後の発見が待たれる。

古代

8～9世紀前半の遺構・遺物も皆無に等しい。

9世紀後半、遺跡は爆発的に増加し、低位～高位段丘面の殆どに何らかの痕跡がある。最低位段丘の調査例としては永田原・口ノ坪遺跡の集落（中世～近世まで存続）がある^{註2}。上田代・馬場田遺跡^{註3}では、箱掘りの灌漑用水路を掘削するなど、大規模な開発が行なわれる時期である。住居は掘立柱建物へと変わるが、一部竪穴住居が残る遺跡もある。

中世

古代から継続する集落遺跡が多く、遺構・遺物は豊富である。

丘陵突端は山城が占地し、肥沃な盆地の争奪戦が繰り広げられる。飯野城と加久藤城（11）との連絡道^{註4}（野谷筋）や小木原遺跡群C地区^{註5}で中世後半の道路跡も検出されている。

註

- (1) 木下良先生は、平成3年頃から当地の存在を確認されているらしい。
- (2) 平成8年、8月11日、木下先生ほか、木本・柴田・永山先生等と共に現地とその周辺を踏査した。
- (3) 宮崎県教育委員会『野久首遺跡・平原遺跡・妙見遺跡』1994 所収
- (4) えびの市教育委員会『東川北地区遺跡群』概報II 2002 に写真のみ掲載している。
- (5) 同 上
- (6) えびの市教育委員会『小木原遺跡群・原田・上江遺跡群』1996 所収
- (7) 未報告である。
- (8) えびの市教育委員会『東川北地区遺跡群』概報I 2001 所収
- (9) えびの市教育委員会『内小野遺跡』2000 所収
- (10) えびの市教育委員会『長江浦地区遺跡群』2002 所収
- (11) 中野和浩「宮崎県えびの市桑田遺跡」『日本考古学年報43』日本考古学協会 1992
- (12) えびの市教育委員会『田代地区遺跡群・妙見原遺跡』1997 所収
- (13) えびの市教育委員会『永田原遺跡・小木原遺跡群櫻井地区・口ノ坪遺跡』1990
- (14) 前出(10)文献所収
- (15) えびの市教育委員会『福荷下遺跡』1997 所収
- (16) 前出(6)文献所収

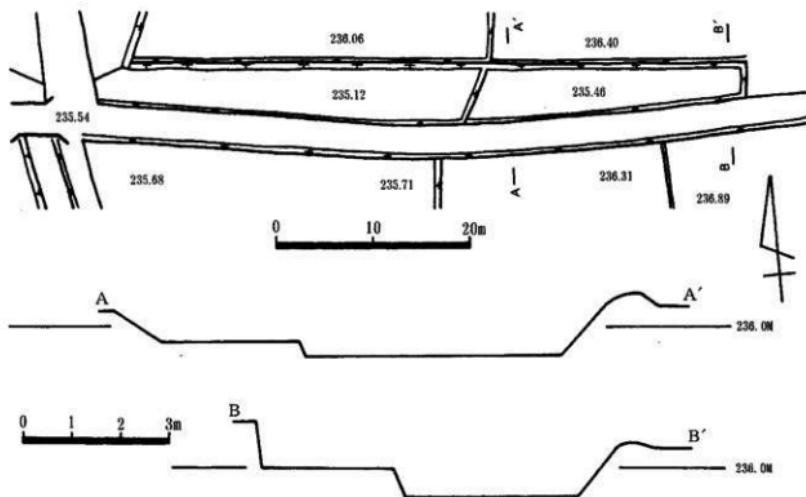
第Ⅲ章 発掘調査

第1節 はじめに

調査は、稲刈り・藁入れ後に重機を導入し、県道以南の西側から開始することにした。A地点の凹地（第2図）は水田2枚と農道であり、西の水田は標高235.12m・長さ約40m・幅3.4～5.2mを測り、北接する水田との比高は94cmを測る。

東の水田は34cm高く、長さ23m、幅2.5～5.2mを測り、北接する水田との比高は94cmを測る。

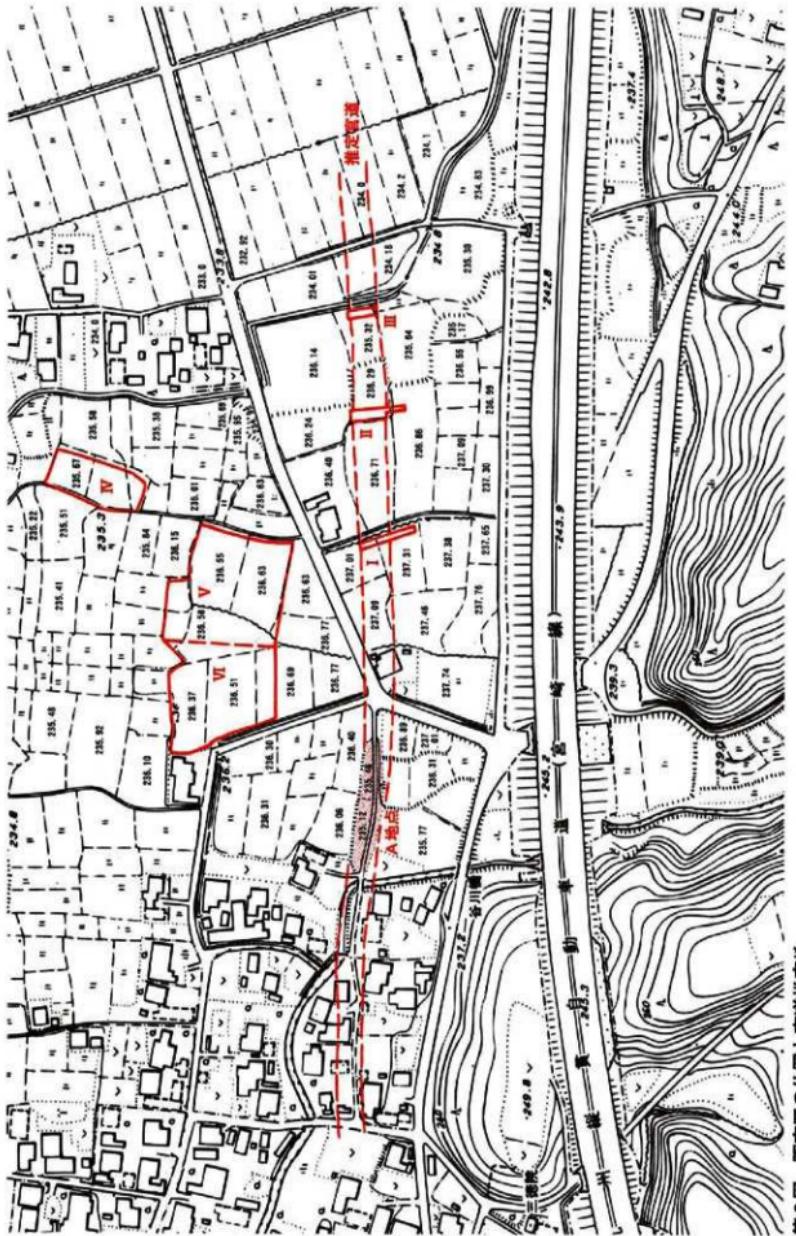
道路（市道）幅は2.7m前後で、市道を含む最大幅は約10.3mであり、埋没官道の掘り方の幅は12m程度と推定される。さらに両側に側溝を付設しているとすると、道路幅（側溝の芯々距離）は8～10m位と推定される。工事予定の第2号支線道路予定地とA地点延長線との交点をI区とし、第2号小排水路予定地をII区、第3号支線道路予定地をIII区とした（第3図）。



第2図 A地点 模式図

第2節 基本的層序

層序は上から、I層：水田耕作土、II層：床土・近世以降の客土や旧耕作土・旧床土・自然堆積土、III層：中世以前の遺物包含層で、a～c層に細分、IV層：主として弥生～古墳時代の遺構面形成層であり、段丘面に一般的なアカホヤ火山灰の2次堆積層に近似する、淡黄褐色微砂質土を主とし、a～d層に細分。弥生時代後期の遺物を含む。V・VI層：沖積土層で、砂質土と粘質土の互層である。VII層：疊層に分別した。VII層は最低位段丘堆積層であり、III区の一部でのみ確認している。



第3図 調査区の位置と官道推定地

地元古老の話では、昭和29（1954）年の井戸掘りの際、粘土を9尺掘ると疊層になって、さらに9尺3寸でシラスになったということである。

なお、基本的層序は、遺跡を形成する土壤であることからローマ数字で表わし、遺構の覆土は、2次の土壤であることから算用数字で表わしている。

第3節 I区の調査（第4図）

I区は、A地点東端から東へ105~110mの地点に位置した、長さ27.5m・幅2.9~5.8mの狭長な調査区である。北端の近世以降の搅乱以外は、IV層上面における幅20mほどの掘削道路跡として検出し、手掘りによる掘り下げを行なった。第1層を掘り下げるに第2層近似の層（第2層）が表われ、板の底面としたが、精査するうちに第3層が露出したため、第2層上面は2次面であると断定した。調査区の南側～南端部のIV層は若干削られており、掘り方も判然としないが、第2層への供給の結果と推定される。

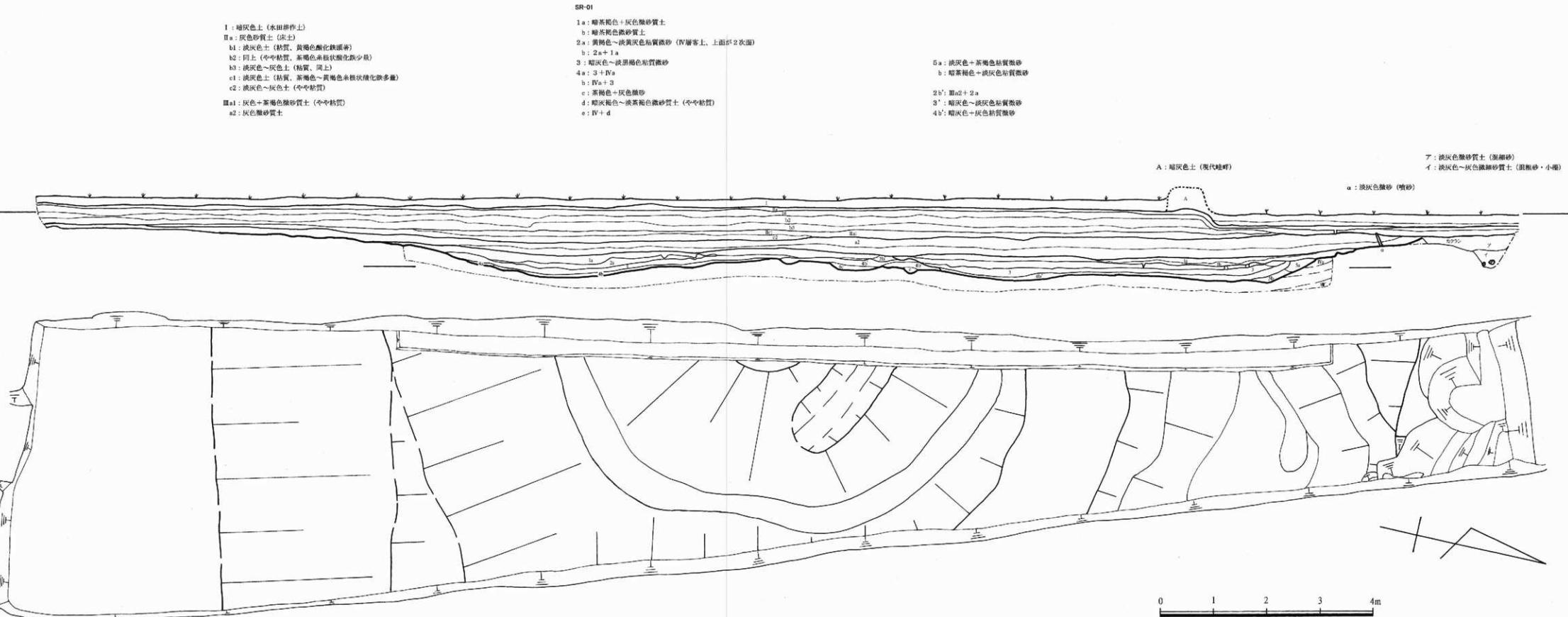
第3~4層を掘り下げた後、底面の確定の為のサブトレーンチを西壁沿いに設け、断面観察による官道跡の構築および使用状況を確認した。第2層が中央部で3m程途切れることや底面の状況から概ね北半部と南半部に分けられる。初期の掘削は、北半部で側溝のない掘り方の幅12~13m、深さ80cm、底面の道路幅5.4~6.7mのものが掘削される。北端は2~3cm低いが、明瞭な側溝は持たない。

硬化面が形成されぬまま初期の道路面は12~20cm埋没し、第2期の道路として、南側に幅11~12m・深さ75cm内外で掘削されるが平坦な底面は湾曲する溝状遺構のようになり、道路面は定かでない。北側西寄りには幅1m前後・深さ20cm内外の側溝状掘り込みがあるが、検出範囲の制約から、側溝であるかどうかは不明である。

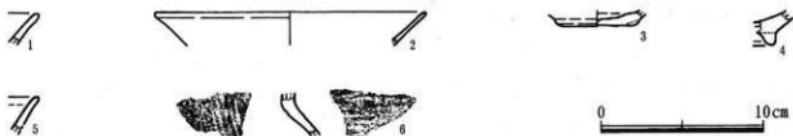
初期と同様、底面が12~18cm埋没すると、IV層土による客土（2層）が幅4.4m・厚さ4~16cm盛られ、2次面（第3期）となる。客土によって道路幅は7m程の平坦面となるが、側溝は構築されない。

第3期の面も硬化面が形成されぬままほどなく埋没し、北半部に幅7m・厚さ8~15cmのIV層土が盛られ、2次面（第4期）となる。この時、南半部が幅7mの余乗帯となっている。第4期の上面も硬化面が形成されぬまま埋没し、廃絶される。

出土遺物は1層と3・4層から土師器片が若干出土している（第5図）が、第1~4期にわたる道路の掘削から廃絶まで、極く短期間の使用と推定される。なお、記者発表および概要報告の段階では、南半部が初期で、北半部が再整備と言明したが、その可能性は薄れた。反面、南半部が完全に埋没した後に北半部を新たに掘り込んだ状況ではないので、埋没過程の地層の解釈によっては、当初から幅広く掘削していた可能性も残る。



第4図 I区 遺構実測図・西壁断面層序図



第5図 I区 SR-01 1層出土遺物実測図



第6図 I区出土輸入陶磁器・近世国産陶磁器実測図

表1 I区出土遺物観察表(1) 土器

No.	出土地	種類	器種	法量(cm)			調査		粘土	焼成	色調		備考
				口径	底径	器高	外面	内面			外面	内面	
第5回	SR-01上層	土器部	环	—	—	—	ナゲ	ナゲ	赤褐色少量	良	黄褐色	淡褐色	画面: マメツ
	SR-01上層	土器部	环	169	—	—	ナゲ	ナゲ	赤褐色少量	あまり	淡褐色	淡褐色	
	SR-01上層	土器部	直	—	52	—	ナゲ	ナゲ	赤褐色少量	良	淡褐色	淡褐色	
	SR-01上層	土器部	弧	—	—	—	ハケーナゲ	ナゲ	赤褐色少量	良	黄褐色	淡褐色	
	SR-01下層	土器部	环	—	—	—	ナゲ	ナゲ	稍良	ややあまり	淡褐色	淡褐色	
	SR-01下層	土器部	直	—	—	—	ヨコタキ	タテタキ	微細少量	良	暗茶褐色	淡褐色	

表2 I区出土遺物観察表(2) 陶磁器

No.	出土地	種類	器種	法量(cm)			調査・枚様		施釉	胎土色	色調		產地	年代・備考
				口径	底径	器高	調整	枚様			外面	内面		
第6回	II層	青磁	碗	—	—	—	側先邊文	—	淡灰	オリーブ	オリーブ	オリーブ	龍泉窯	15c 中~16c 前
	II層	白磁	碗	—	66	—	—	外底	乳白	乳白	乳白	乳白	中国	12~13c
	II層	白磁	直	—	78	—	—	盤付き	白	乳白	乳白	乳白	景德鎮	16c
	II層	朱付	碗	—	—	—	—	—	淡灰白	絶	絶	絶	肥前	18c

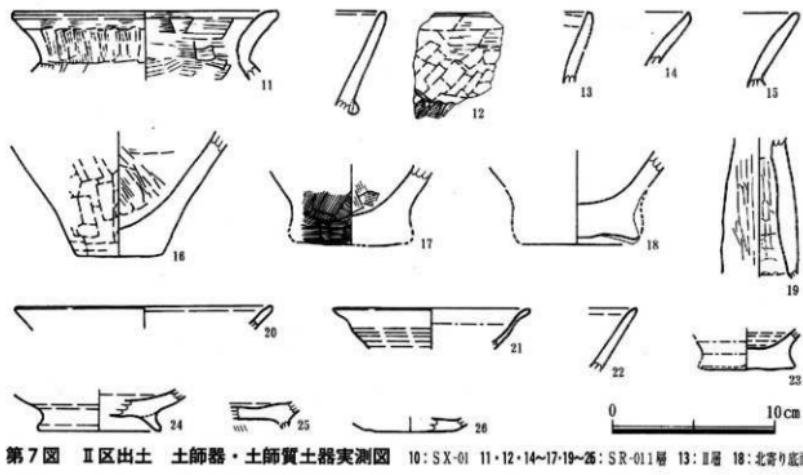
第4節 II区(第9図)

I区の東約60mに位置する。当地区は周囲よりも1段(西の水田との比高差42cm、南の水田とは57cm)低い部分とその南側を4m幅で表土剥ぎを行い、IV層上面の低い部分で幅20mの埋積土を確認した。また、北西側は耕作土直下がIV層もしくは官道覆土であり、工事施工時に影響があると考え、2.6m程を拡幅した。官道路以南は、自然流路のみで、人為的遺構は未検出である。

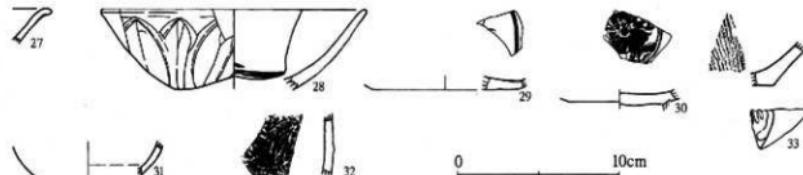
初期の掘削は幅20m・深さ80cm程で極めて緩やかな傾斜である。北の肩部から5m南に側溝が設けられている。側溝の幅は0.6~1.1m、深さ12~20cmを測り、東側が低い。道路面は幅1.7~2.7m、側溝の芯から計測しても2.14~2.64mしか無く、極めて狭い。硬化面は形成されないが、側溝の北肩部の長さ3m・幅58~86cmのテラスの部分と西端部には硬化が認められた。

側溝が埋没し、底面も6~15cm埋没した段階で、I区と同様、IV層土が客土として、幅3.2m・厚さ8~16cm盛られる(第2面)。この時、平坦面は5m程に広がる。第2面上面はI区と同様、硬化面も無く、短期間に埋没する。南肩法面には、幅10~20cm・深さ2~4cmの狭長な轍状凹みが2~3条断続的に並行する。

出土遺物は土師器片等が若干ある（第7図）が、I区と同様、極く短期間の使用と考えられる。なお、見かけ上の掘削幅はI区検出側と殆ど同じであり、当地區では、初期の官道は北寄りに側溝を伴って掘削され、再整備の官道は、南半部に浅く掘削されたと想定すれば、I区の調査結果と連続する構造になることも1つの解釈である。



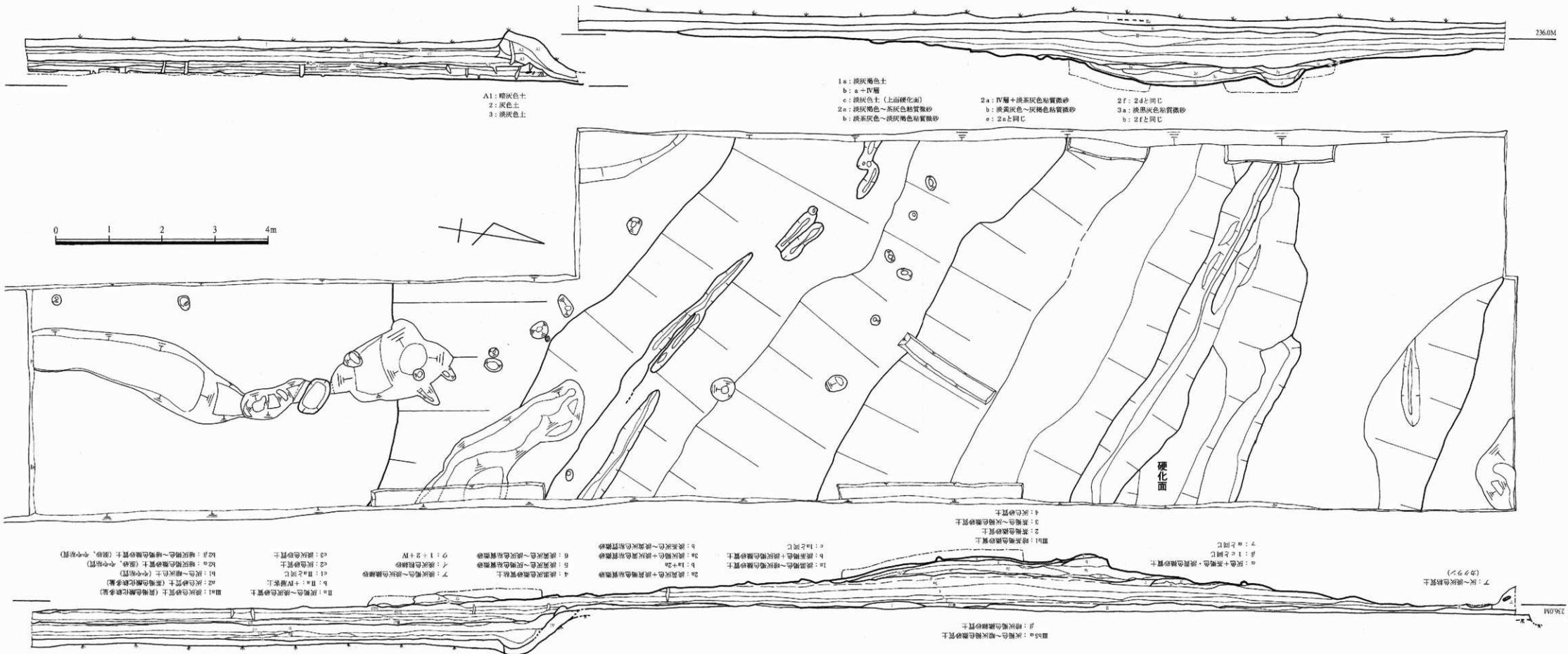
第7図 II区出土 土師器・土師質土器実測図 10: SX-01 11・12・14~17・19~25: SR-011層 13: II層 18: 北寄り底面



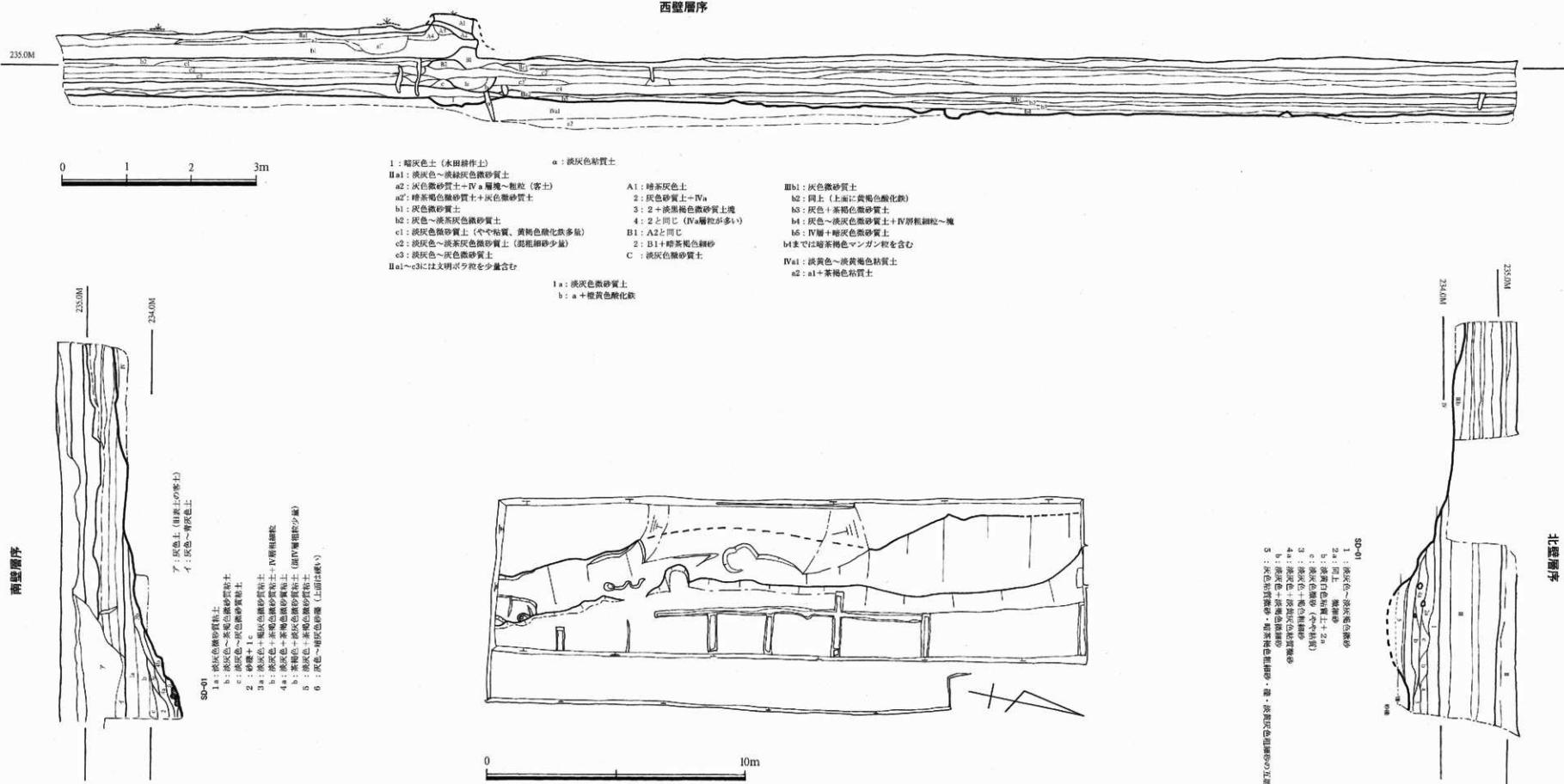
第8図 II区出土 輸入陶磁器・近世国产陶磁器

表3 II区出土遺物観察表(1) 土師器・土師質土器

No.	出土地	種類	器種	法蓋 (mm)		調 整		粘 土	燒 成	色 調		備 考	
				口径	底径	器高	外 面	内 面		外 面	内 面		
第7図 11	SX-01	土師器	甕	165	—	—	ヨコハケ チナ工ナダ	ヨコハケ	粗繊砂・ 赤褐色多量	良	暗茶灰～暗灰黑	暗茶褐～淡褐	外型: やや アラツ
12	SR-011層	弥生土器	甕	—	—	—	—	ハケ	微繊砂多量	良	淡褐～淡褐黑	暗茶褐	
13	SR-011層	土師器	甕	—	—	—	工具ナダ	ハーフナダ	粗繊砂少量	良	淡茶褐	淡灰～暗茶褐	
14	II層	土師器	甕	—	—	—	工具ナダ	工具ナダ	微繊砂や多い	良	茶褐～暗茶褐	茶～灰褐	
15	SR-011層	土師器	甕	—	—	—	ヨコハケ	ヨコハケ	粗繊砂少量	良	淡灰褐	淡灰～淡灰褐	
16	SR-011層	弥生土器	甕	—	53	—	工具ナダ	粗ハケ	微繊砂多量 青閃石微量	良	淡茶褐～淡灰	暗褐～淡黄	
17	SR-011層	弥生土器	甕	—	76	—	タチハケ	ヨコハケ	微繊砂多量	ややあまい	淡黃～淡綠黃	暗茶褐～淡黃	
18	SR-011層	弥生土器	甕	—	(88)	—	—	—	粗繊砂多量	ややあまい	黄褐～棕褐	黄褐～暗茶褐	
19	北寄り底面	土師器	高坏	—	—	—	ミガキ	ナデ	赤褐色多量 やや多い	良	褐	淡灰～淡褐	
20	SR-011層	土師器	坏	160	—	—	ナデ	ヨミガキ	粗繊砂 赤褐色多量	良	黄褐	淡灰～淡褐	
21	SR-011層	土師器	坏	122	—	—	ナダ	ナダ	粗良	ややあまい	暗褐～淡褐	淡灰～淡褐	
22	SR-011層	土師器	坏	—	—	—	ナダ	ナダ	白色紡錘粒 やや多い	良	淡褐	淡褐	外型: やや アラツ 上部: マメ ワツ
23	SR-011層	土師器	坏	—	61	—	ナデ	ナデ	粗良	良	淡褐	淡褐	
24	SR-011層	土師器	坏	—	76	—	ハケ瓦台: ナデ	ナデ	赤褐色少量 白色紡錘粒多量	良	淡黃白～淡褐	淡褐	
25	SR-011層	土師器	坏	—	—	—	ナデ	ナデ	赤褐色多量	良	淡黃褐	淡褐	
26	SR-011層	土師質土器	甕	—	57	—	ナデ	ナデ	良	良	淡棕褐	淡褐	外型: やや アラツ



第9図 II区 遺構実測図、西壁・東壁層序図



第10図 Ⅲ区 遺構実測図、西・北・南壁層序図

表4 II区出土遺物観察表(2) 陶磁器

No.	出土地	種類	器種	法量(cm)			調査・校様	露 始	胎 土 色	色 囲		產 地	年代・備考
				口径	底径	高さ				外 面	内 面		
36	II-Ⅲ-a層	白磁	碗	—	—	—	—	—	暗灰+淡墨灰	乳白	乳白	中国	12-13c
37	II-Ⅲ-a層	青磁	碗	164	—	—	撫應作文	—	淡灰	オリーブ	オリーブ	朝鮮	13-14c 戰
29	II層	青磁	碗	—	87	—	—	—	淡灰白	淡灰オリーブ	淡灰オリーブ	朝鮮	12-13c
30	II層	青花	碗	—	—	—	—	—	乳白	乳白	乳白	福岡古窯	16c 後
31	II層	絞釉四管小 壺	壺	—	—	—	—	—	淡褐	綠	綠	中國南部	明代
32	II-Ⅲ-a層	鐵燒陶器	袋物	—	—	—	内面: テタキ 外面下半: 海桃格 貝皿板	—	淡灰~淡黃灰	暗褐	—	肥前	16c 末-17c 17c 後-18c
33	II-Ⅲ-a層	陶器	捲体	—	—	—	—	—	暗紫灰	暗褐	暗褐	鹿児島	—

第5節 III区(第10図)

II区の東43mの位置で、II区の水田よりも97cm低い水田に位置する。事前に検土杖で南北の広範囲を探査した結果、古代の土壤は削失もしくは流失していることが判明した。ダメ押しのつもりで重機のバケット幅で長さ3m程深掘し精査したところ、中近世の還元土壤や粘土化したIV層と溝状落ち込みを検出した(第9図-S D-01)。そこで急遽拡張し、正式な調査区を設定した。

01号溝は調査区の大部分を占め、主軸は15°西へ傾く。推定幅は上面で8m、底面で1m、深さ1m以上を測り、東沿いの現代用排水路と並行する⁽²⁾。最下層は砂と粘土、微砂質土の互層が20~30cm堆積し、その上面は硬い砂礫面であった。出土遺物は少ないが、土師質土器の壺の完形品(第11図-34)や、白磁(第12図-38・39)青磁(41・42)等が出土している。



第11図 III区 SD-01 出土遺物実測図



第12図 III区出土 輸入陶磁器・近世国産陶磁器実測図 38・39・41・42: SD-01

表5 III区出土遺物観察表(1) 土器

No.	出土地	種類	器種	法量(cm)			調 査	胎 土	施 成	色 囲		備 考	
				口径	底径	高さ				外 面	内 面		
34	S D-01	土師質土器	壺	118	74	39	—	—	精良	あまい	淡褐色	淡褐色	同上: マツク 赤色
35	S D-01	土師質土器	壺	—	—	—	—	—	細胞色	淡褐色	淡褐色	同上: マツク 赤色	
36	S D-01	須恵器	壺	—	—	—	舟子目タタキ	—	微細子少量	ややあまい	淡褐色	淡褐色	
37	S D-01	須恵器	壺	—	—	—	ナデ	ナデ	微細少量	良好	淡褐色	淡褐色	
									淡褐色	良	茶褐色	茶褐色	

表6 III区出土遺物観察表(2) 陶磁器

No	出土地	種類	形態	法量(mm)			調査・紋様	露胎	胎土色	陶器		産地	年代・備考
				口径	底径	器高				外面	内面		
第1208 38	S D-01	白磁	碗	156	—	—	沈模	—	乳白	乳白～淡灰乳	乳白～淡灰乳	中国	12～13c
39	S D-01 F層	白磁	口巻き直	—	—	—	口萼	—	乳白	乳白	乳白	中国	13～14c前
40	II～III層	青磁	碗	—	—	—	刻花文	—	淡灰～灰	淡オリーブ灰	淡オリーブ灰	龍泉窯	13～14c
41	S D-01	青磁	碗	—	—	—	隔離弁文	—	淡灰	淡オリーブ	淡オリーブ	龍泉窯	13～14c前
42	S D-01	青磁	鉢か盤	—	—	—	隔離弁文	—	淡灰白	オリーブ	オリーブ	龍泉窯	13～14c
43	II～III層	青磁	碗	—	—	—	刻先端弁文	—	淡灰～淡灰褐	オリーブ	オリーブ	龍泉窯	13～14c前
44	II層	青磁	碗	—	47	—	—	露胎	淡灰白	暗緑	暗緑	肥前	15～16c
45	II層	白磁	直腹	44	10	14	—	—	白	乳白	乳白	肥前	15～16c

第6節 IV区(第13図)

1.はじめに

最低位段丘の北東縁付近に位置した地区で、中世の黒灰色土(Ⅲ層)が20～30cm遺存し、IV層上面が造構検出面である。Ⅲ～Ⅳa層および造構覆土から若干の弥生～古墳時代の遺物が出土しているが、当該期の造構は無い。

2.中世の造構と遺物

検出した造構は様々で、柱穴が約300基のほか、円形～楕円形の土坑・土壙墓が19基、大型土坑1基、溝状造構3条があり、覆土は全てⅢ層の淡黒灰色土系である。

S B-01 (第14図) 調査区の南端に位置した、梁行2間(2.82～2.91m)・桁行3間(5.95m)の南北方向の建物である。柱穴の規模は、直径20～34cm・深さ18～32cmを測る。主軸方位は、N 5°Eである。

P P-264・265・303～320 (第15図) 調査区の南東部・01号建物の北東部に位置する。柱穴20基余りが重複した状態の造構で、直径40～80cm・深さ45～78cmの大型柱穴が集中している。4～5m南の一群と関連した、大型建物が建っていた可能性がある。

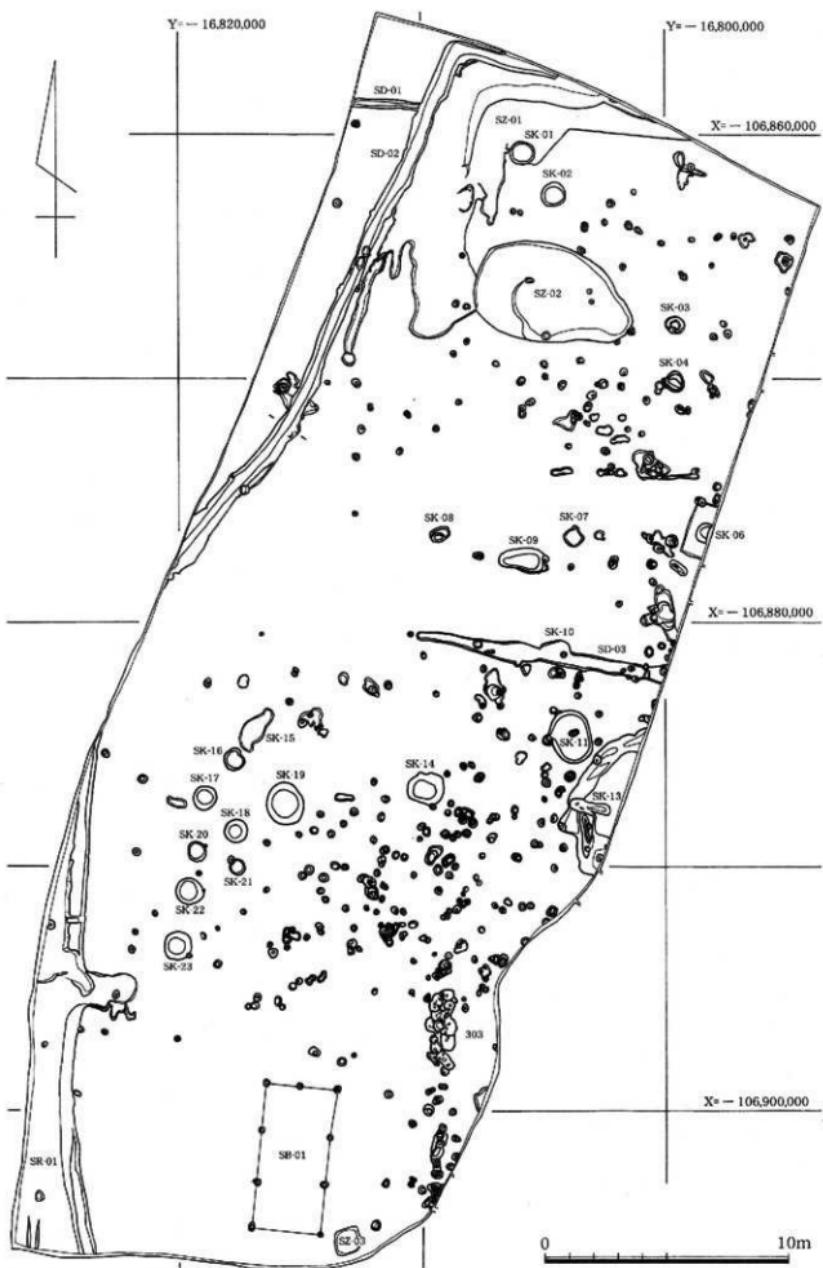
S K-01 (第16図) 調査区の北端付近に位置した、直径90～100cmの円形を呈する土壙墓で、深さは21～29cmを測る。中央部で、頭骨や四肢骨等の一部が遺存している。副葬品は無い。北頭位の横臥屈葬と思われる。人骨については付篇を参照されたい。

S K-02 (第16図) 01号土坑の南東1.5mに位置した、直径92～94cmの円形を呈する土壙墓で、深さは38cmを測る。人骨は遺存していないが、西端中位において2片に割れた土師質土器皿(51)を検出した。

S K-03 (第18図) 調査区の北東部に位置した、長径82cm・短径71cmの楕円形を呈する土坑で、深さは10cm前後である。2段目の穴は別造構である。

S K-04 (第18図) 03号土坑の南2mに位置した、長径87cm・短径75cmの楕円形を呈する土坑で最深部の深さは56cmである。

S K-06 (第16図) 調査区の東端北寄りに位置した、直径78cmの円形土坑であり、深さは26～30cm

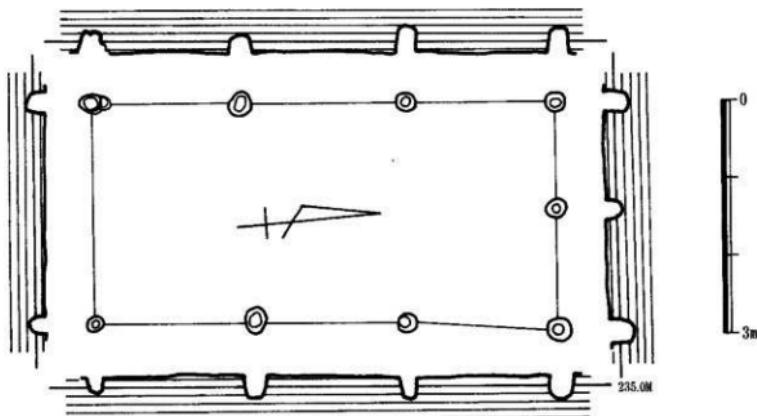


第13図 IV区 造構分布図

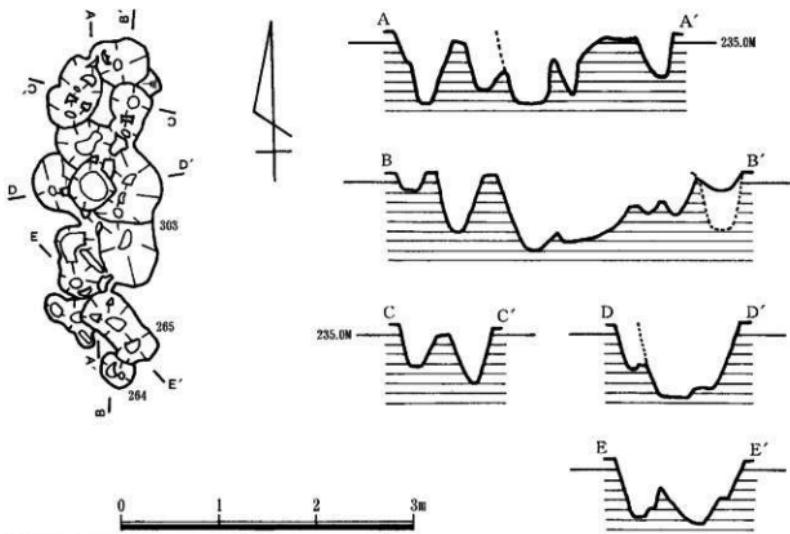
である。遺構面はIV層上面であり、覆土の1層はIII b層と同質である。

S K -07 (第18図) 06号土坑の西4.5mに位置した、直径68~73cmの円形土坑である。深さは、7~8cmである。

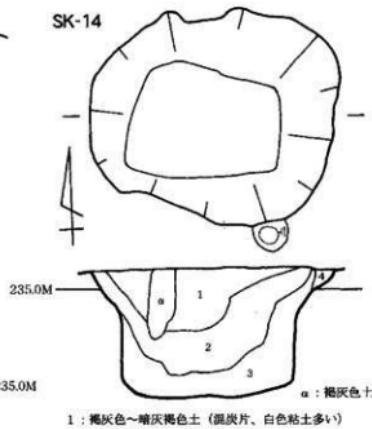
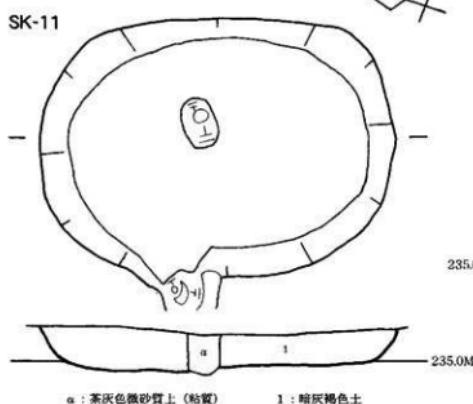
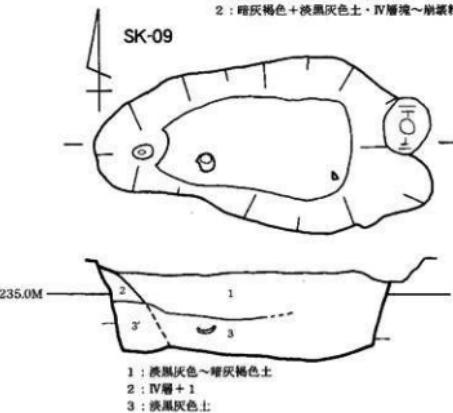
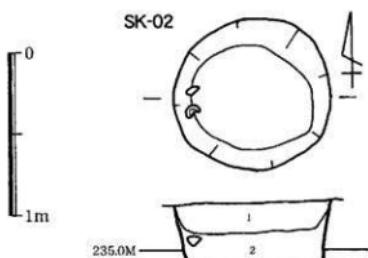
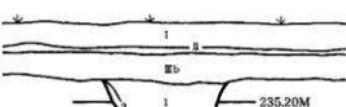
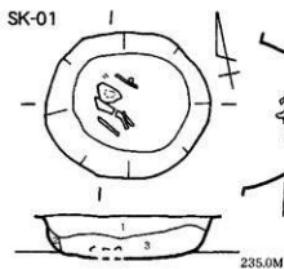
S K -08 (第18図) 07号土坑の西約5mに位置した、長径83cm・短径54cmの梢円形土坑である。深さは、9cmである。



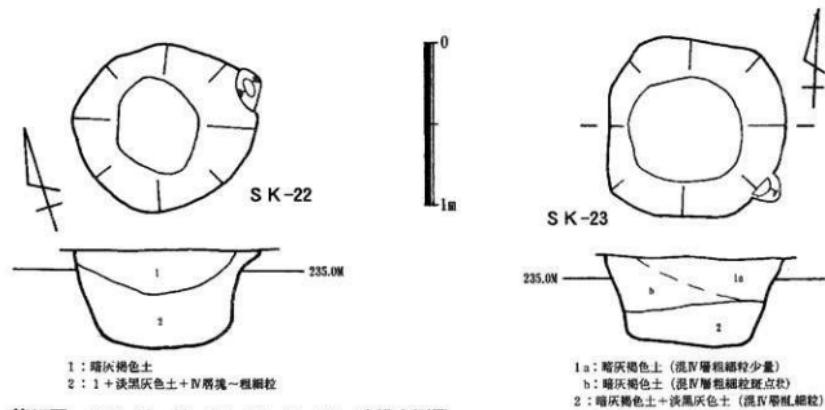
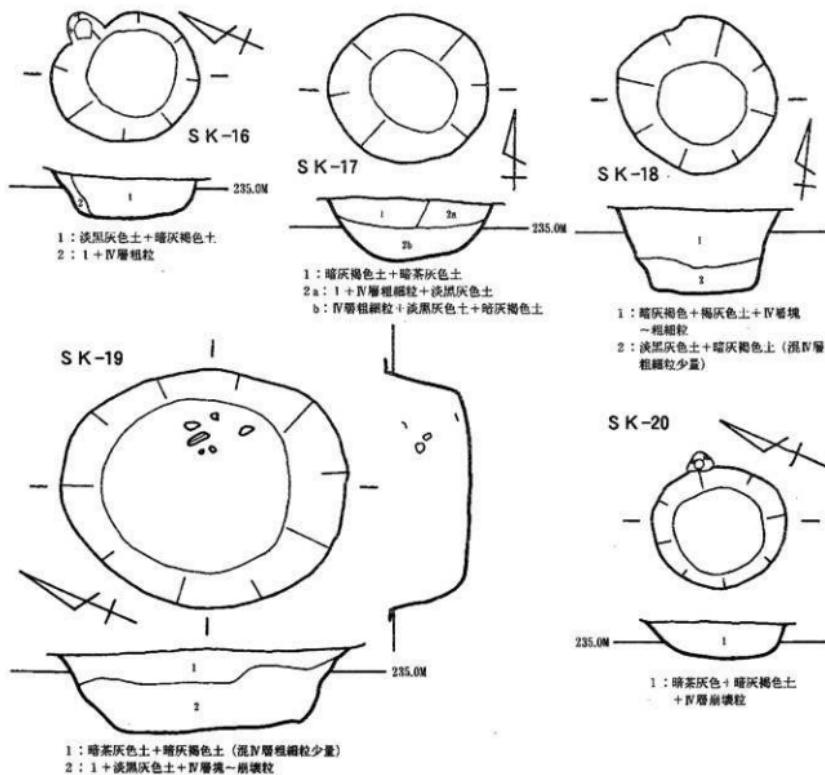
第14図 S B-01 遺構実測図



第15図 P P-264・265・303ほか 遺構実測図



第16図 SK-01・02・06・09・11・14 遺構実測図



第17図 SK-16・18・19・20・22・23 遺構実測図

S K-09 (第16図) 07号と08号土坑の間に位置し、長径1.81m・短径1.07mの不整椭円形を呈する土壙墓である。深さは53~61cmを測り、西南寄りに土師質土器皿が副葬されている。幅広い東側が頭位と推定される。

S K-10 (第18図) 調査区の中央やや東寄り、03号溝に切られた、残存長1.23mの椭円形土坑である。深さは、8~10cmである。

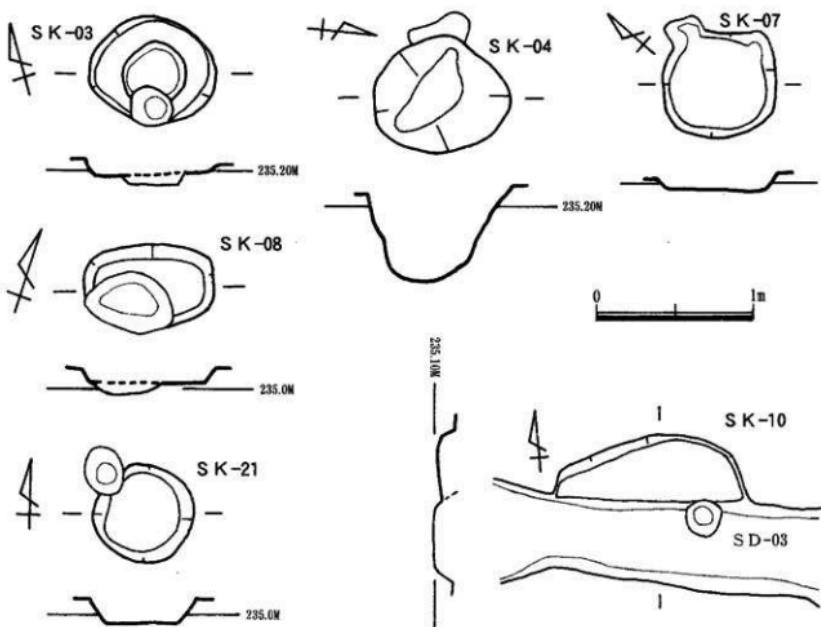
S K-11 (第16図) 10号土坑の南東2mに位置した、長径2.14m・短径1.58mの椭円形を呈する土坑である。深さは、22~28cmである。

S K-14 (第16図) 調査区の中央寄り、11号土坑の南西6mに位置した、長径1.48m・短径1.30mの不整椭円形を呈する。深さは、68~76cmを測る。底面は台形を呈し、西側が広い。覆土の埋積状況から、木蓋土壙墓の可能性がある。

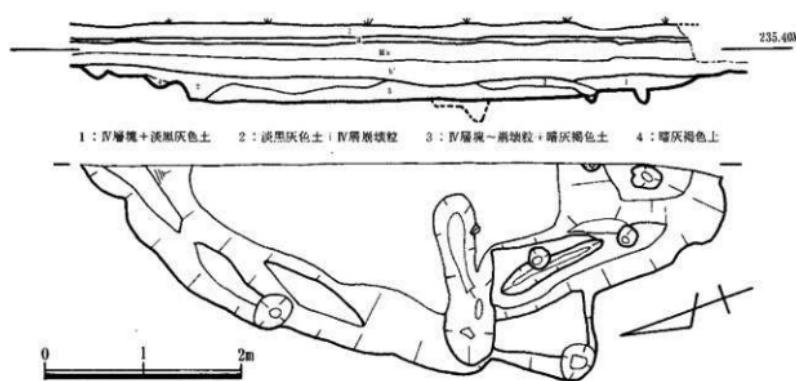
S K-16 (第17図) 調査区の南西部の土壙墓群の北端に位置した、長径88cm・短径79cmの円形を呈する土坑である。深さは20~27cmを測る。

S K-17 16号土坑の南1mに位置した、直径92~97cmの円形土坑である。深さは、32~39cmを測る。

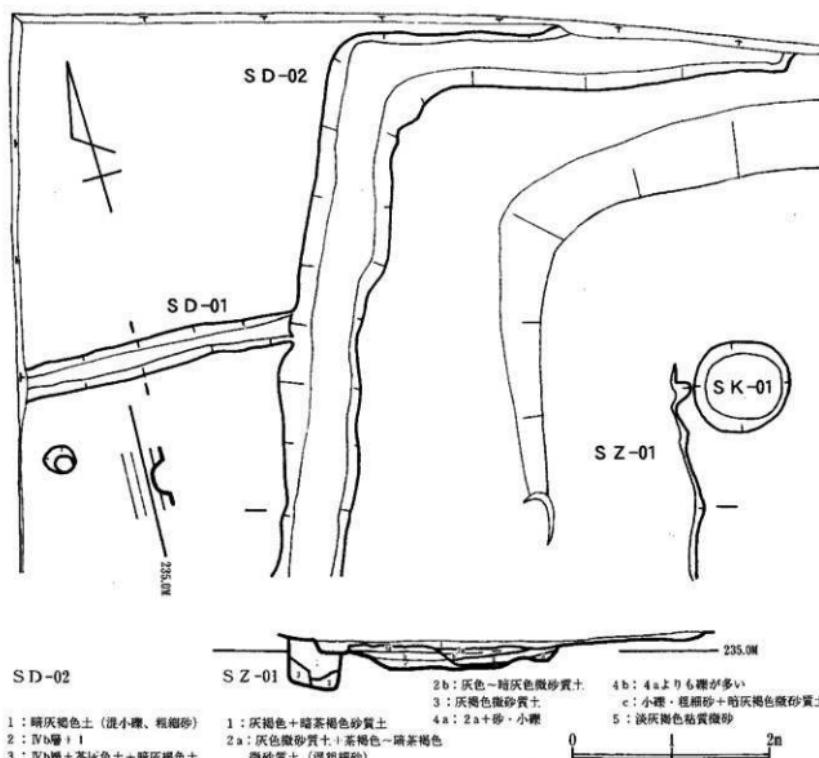
S K-18 (第17図) 17号土坑の南東1mに位置した、長径99cm・短径92cmの円形土坑である。深



第18図 SK-03・04・07・08・10・21 遺構実測図



第19図 SK-13 造構実測図



第20図 SD-01・02・SZ-01 造構実測図

さは、50~52cmを測る。

S K-19 (第17図) 18号土坑の北東1mに位置した、長径1.72m・短径1.36mの楕円形土坑である。深さは、46~50cmを測る。中央西寄りの中位で、土師質土器片と石錠片が出土している。

S K-20 (第17図) 18号土坑の南西1mに位置した、長径81cm・短径74cmの略円形土坑である。深さは、22cmを測る。

S K-21 (第18図) 18号土坑の南70cmに位置した、直徑63~65cmの円形土坑である。深さは、16~18cmを測る。

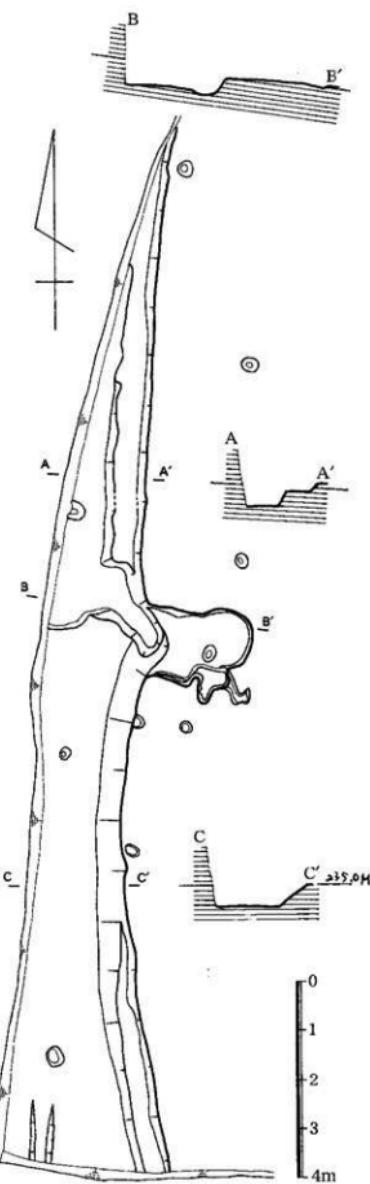
S K-22 (第17図) 20号土坑の南75cmに位置した、長径1.10m・短径0.98mの、ほぼ円形を呈する土坑である。深さは、55~61cmである。

S K-23 (第17図) 土壌墓群の最南端、22号土坑の南1.2mに位置した、直徑1.08mの略円形を呈する土坑である。深さは、1.0~1.05mを測り、東側が若干低い。

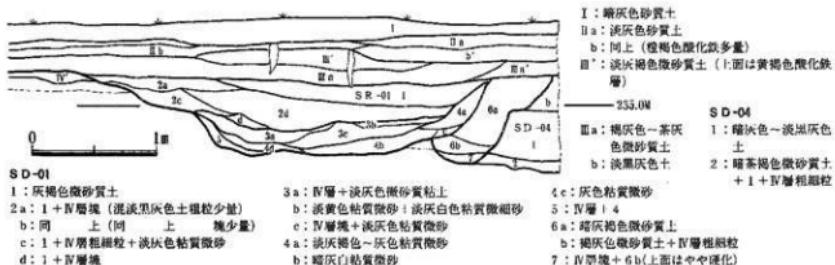
S K-13 (第19図) 調査区の中央東端に位置した、検出長6.5m・幅2.2m以上の楕円形もしくは円形を呈する大型土坑である。周壁には断続的にテラスがあり、南に小pitが集中する。出土遺物は少ないが、常滑(60)や青磁(65)から、14世紀代の遺構と推定される。機能を推定する土質変化や特殊遺物は出土していない。

S D-01 (第20図) 調査区の北西端寄りの、02号溝に合流する東西方向の溝状遺構で、幅30~40cm・深さ11~23cmを測る。出土遺物は無いが、01号溝と切り合っていないことから、同時期と思われる。

S D-02 (第20図) 調査区北西部から直角に曲がり、南西方向へ流れ、調査区中央部で西へ突出し南に方向転換して南西端に至る溝状遺構である。幅は0.35~1.0m、深さは50~68cmを



第21図 S R-01 遺構実測図



測り、南の方が若干低い。出土遺物は少ないが、13~14世紀代の区画溝と推定される。

S D-03 調査区の中央付近に東西方向に延びる溝状造構で、幅30~88cm・深さ5~13cmを測る。

覆土には砂粒を含まず、区画・境界溝と思われる。出土遺物は少ない。

S R-01 (第21・22図) 調査区の南西部から西壁沿い中央付近にかけて検出した道路状造構である。南壁でのみ規模が確認できた。上面の掘削幅は3.88mで、東壁はテラスを1段有し、底面へ至る。道路面までの深さは66cmである。平坦な道路面の幅は1m程度で、西側に側溝を設けている。側溝は道路面よりも8cm深く、長さ1.25mのみ遺存する。また最下層(7層)の上面はやや硬化しており、一時的に側溝を歩いたことが窺える。出土遺物は若干あるが、下層の色調が16世紀末~17世紀前半の特徴である青灰色系に近い反面、III b'層上面から掘り込んでおり、III a層に被覆されていることから、15世紀後半~16世紀前半の年代が推定される。覆土の3 a・c層はIV層塊を含んでおり、東側を削って埋めて2次面とした可能性が高い。

3. 近世

近世では大型土坑1基のほか、流路状造構1条、道路跡1条があり、覆土は淡灰色~灰色系である。

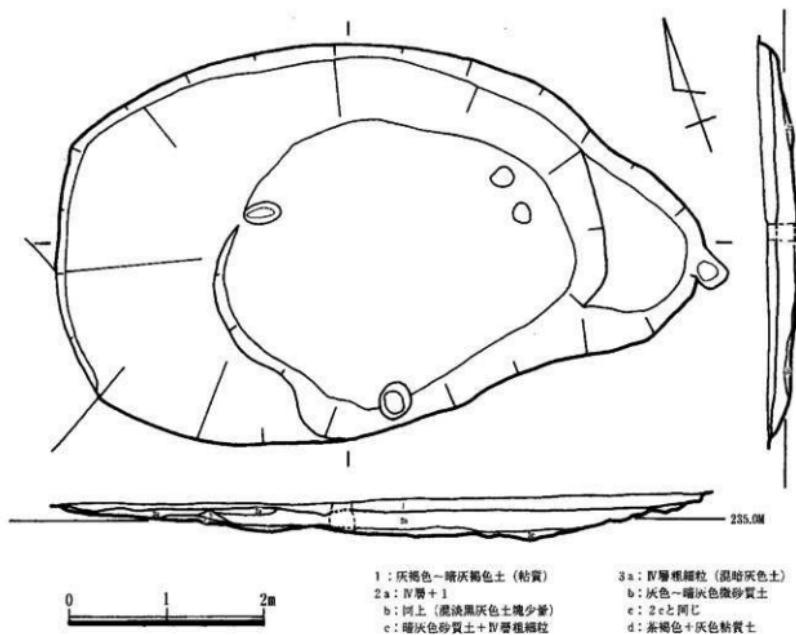
S Z-01 01号溝の北端屈曲部の、近世の流れ込み痕であり、覆土には粗細砂を含む。

S Z-02 (第23図) S Z-01とは同時期の、長径6.66m・短径4.04mの不整橢円形を呈する土坑である。深さは28~42cmを測り、底面は長径3.6m・短径2.8mの橢円形を呈する。出土遺物としては古代~中世の土師器や輸入陶磁器・近世国産陶磁器(69~72)などがあるが、機能は推定できない。

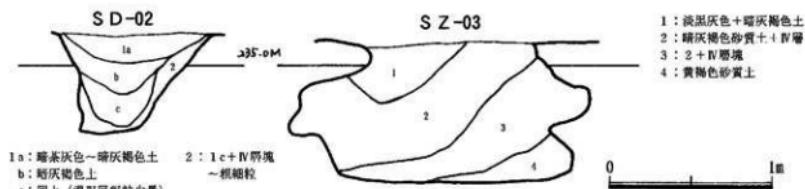
S Z-03 (第24図) 調査区の南東部で不明瞭な略隔丸方形のプランを検出した。壁面はオーバーハングし、人為的ではないことから、自然陥没坑と判断した。覆土から、近世前半の国産陶磁器2点(67, 68)などが出土している。

4. 小結

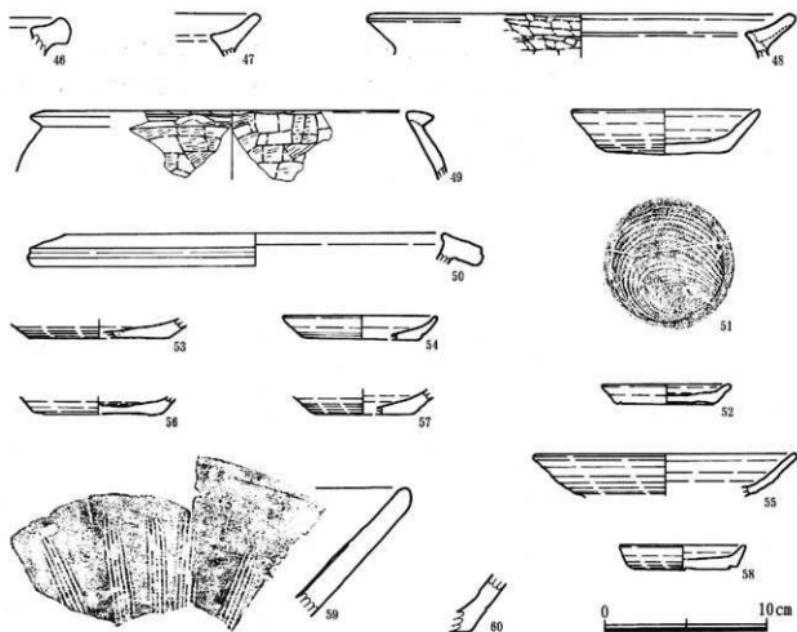
当地区では、中世前半を中心とする集落跡で、区画溝による地区割りもされていたようである。さらに掘立柱建物跡は3~4棟、柵状遺構は2~3例ありそうであるが、推定の域をでないので、復元は割愛している。円形土坑の殆どは幼児~子供の墓と推定され、この土壙墓群は主として13~14世紀に、溝で囲まれた敷地の北~西縁に営まれた様子が窺える。



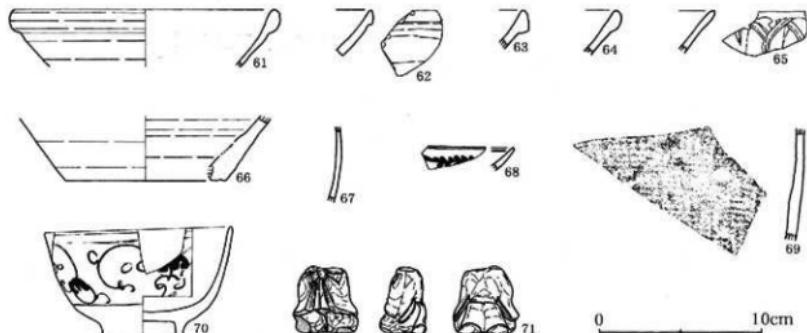
第23図 S Z-02 遺構実測図



第24図 S D-02・S Z-03 断面層序



第25図 IV区出土遺物実測図 51: SK-02 52・53: SK-09 54: SK-16 55~57: SK-19 58: SZ-03
59・60: SK-13



第26図 IV区出土 輸入陶磁器・近世国産陶磁器実測図 62・67・68: SZ-03 63: SD-03
64: PP-130 65: SK-13 66: SZ-01
69~71: SZ-02

表 7 IV区出土遺物観察表(1) 土器

No	出土地	種類	器種	法量(cm)			調査		焼成	色調		備考
				口径	底径	高さ	外面	内面		外面	内面	
45	Ⅲ層	弥生土器	甕	—	—	—	工具ナデ	ハケ	陶粒石灰多量 角閃石少量	良	茶灰~暗灰褐色 淡茶褐色~淡灰褐色	灰褐色~淡茶褐色
47	Ⅲ層	弥生土器	甕	—	—	—	ナデ	—	角閃石や多い	良	淡茶褐色~淡灰褐色	淡灰褐色~淡黃色
48	S Z-01	弥生土器	甕	265	—	—	工具ナデ	ナデ	角閃石や多い もろ岩頭の多い	良	淡黃褐色~淡青	淡黃褐色~暗基灰色
49	Ⅲ層	弥生土器	甕	349	—	—	工具ナデ	工具ナデ	角閃石や少 粗粒砂利や鐵	良	淡茶褐色~茶褐色 修復半分は茶褐色	灰褐色~淡灰褐色
50	S K-13	弥生土器	甕	233	—	—	工具ナデ	工具ナデ	粗粒砂利や鐵	良	淡褐色~淡青	淡褐色
51	S K-02	土師質土器	甕	117	68	28	ナデ~工具ナデ	ナデ	精良	ややあまい	淡茶褐色~淡褐色	淡褐色
52	S K-09	土師質土器	甕	79	62	13	ナデ	ナデ	精良	あまい	淡褐色	淡褐色
53	S K-09	土師質土器	甕	—	86	—	ナデ	ナデ	茶褐色粒少量	ややあまい	灰褐色~暗灰褐色	淡褐色~淡褐色
54	S K-16	土師質土器	甕	96	74	15	—	—	赤褐色粒少量	ややあまい	淡灰褐色~淡橙褐色	淡褐色~淡褐色
55	S K-19	土師質土器	甕	163	—	—	ナデ	—	赤褐色粒少量	ややあまい	淡褐色~黄褐色	淡褐色~黄褐色
56	S K-19	土師質土器	甕	—	80	—	—	—	赤褐色粒少量	良	灰褐色~淡灰褐色	淡褐色
57	S K-19	土師質土器	甕	—	64	—	—	—	精良	ややあまい	南~淡黃褐色	暗褐色
58	S Z-03	土師質土器	甕	78	58	15	ナデ	ナデ	良	ややあまい	淡褐色~淡褐色	淡褐色~淡褐色
59	S K-13	圓筒形系か 縦縫	甕	—	—	—	ハケ~耐ナデ	ナデ	赤褐色粒や多い	良	灰褐色~淡灰褐色	淡褐色
60	S K-13	常滑か 垂壺類	甕	—	—	—	ナデ	ナデ	石英少量	良好	暗褐色	淡青褐色

表 8 IV区出土遺物観察表(2) 陶磁器

No	出土地	種類	器種	法量(cm)			調査 鏡裏・枚様	露胎	胎土色	物調		床地	年代・備考
				口径	底径	高さ				外面	内面		
61	Ⅲ層	白磁	碗	165	—	—	—	—	淡灰白色	乳白	乳白	中国	12~14c 前
62	S Z-03	白磁	碗	—	—	—	—	—	乳白	乳白	乳白	中国	12~13c
63	S D-03	白磁	碗	—	—	—	—	—	淡灰白色	乳白	乳白	中国	12~14c 前
64	PP-130	白磁	碗	—	—	—	—	—	淡灰白色	乳白	乳白	中国	12~14c 前
65	S K-13	青磁	碗	—	—	—	鏡裏外文	—	淡灰~淡灰白色	オリーブ	オリーブ	龍泉窯	13~14c 前
66	S Z-01	褐釉陶器	瓶頸類	—	98	—	—	譽付き	淡灰~灰	暗綠褐色	暗綠褐色	中国	12~13c
67	S Z-03	褐釉陶器	袋物	—	—	—	タキ	内面半上	灰~灰青	暗褐色	黑漆	慶應小	17c 初
68	S Z-03	染付	皿	—	—	—	—	—	白	白	白	肥前	17c 初~18c 初
69	S Z-02	陶器	甕	—	—	—	硝子目タキ	—	外面: 暗褐色、内面: 硝子目	暗紅茶 白	—	肥前	17c 中~18c 中
70	S Z-02	染付	碗	115	50	68	硝目	誉付き	淡褐色	白	白	肥前	1610~1640年 代
71	S Z-02	土製品	土人形	—	—	(42)	製造り	—	—	—	—	関西か	關東古文化 18~19c

第7節 V~VI区(第25図)

1.はじめに

便宜的にV区とVI区に分けたが、遺構番号をIV区から継続したため、一括して記述する。

土層の堆積状況は、IV区と一見同じであるが、III層に含まれる遺物の殆どは弥生時代後期~古墳時代前期の土器片である。中世の遺構面は、III層上面である。VI区の南側からは、幾筋もの自然流路が砂礫層となって入り込んでいる。遺構面となるIV層も、上面へ上層(IV a層、10~15cm)には相当量の遺物を含む。

2. 調査方法

重機によって漸移層(III c層)もしくはIV a層上面まで剥ぎ、遺構検出を行ない、明瞭に検出できる古代~中世の溝状遺構や柱穴群・土坑および弥生~古墳時代の土坑の調査から開始した。V区では、それと並行してIII c層を掘り上げ、竪穴住居として予想される直径数mの淡黒灰色土が点在

する所は、十文字にトレンチを設けて遺構面と床面・壁を確認して、その範囲についてはIVa層を掘り下げて、プランを検出した。この段階では01・02・04・05～09号住居を確認し、追確認のトレンチ調査で10～14号住居を検出した。12号住居については、航空写真終了後再調査した結果、北～西側が大きく広がった。

VI区の北側約20mの範囲は、III層（遺物包含層）の調査から入った。柱穴群を除く南側についてはIVa層を全面掘り下げた。この段階では15・17・18号住居の3基のみ検出したが、追確認で16・19号住居を検出した。

全ての遺構を調査した後、遺構覆土に類似する土壤が広がる部分についてはトレンチ掘りで有無を確認した。また、基本的層序や下層の年代確認のために深掘坑を5ヶ所設定し、掘り下げ途中で20・21号住居と09号溝を検出した。

3. 古代末～中世の調査

掘立柱建物跡11棟を南東部と中央北側～西縁にかけて検出したほか、溝状遺構2条（S D-06・08）、土坑群などがある。

S B-02（第28図） VI区の東寄り中程に位置した、梁行2間（4.57～4.60m）・桁行2間（5.73～5.76m）の南北方向の建物である。柱穴の規模は、直径14～22cm・深さ10～53cmを測る。主軸方位は、N 3°Eである。

S B-03（第29図） 02号建物の1.5m南に位置した、梁行2間（4.87m）・桁行3間（8.10～8.48m）の南北方向の建物跡であり、当遺跡で最大の建物跡である。柱穴の規模は、直径26～32cm・深さ42～76cmを測る。主軸方位は、N 8°Eである。

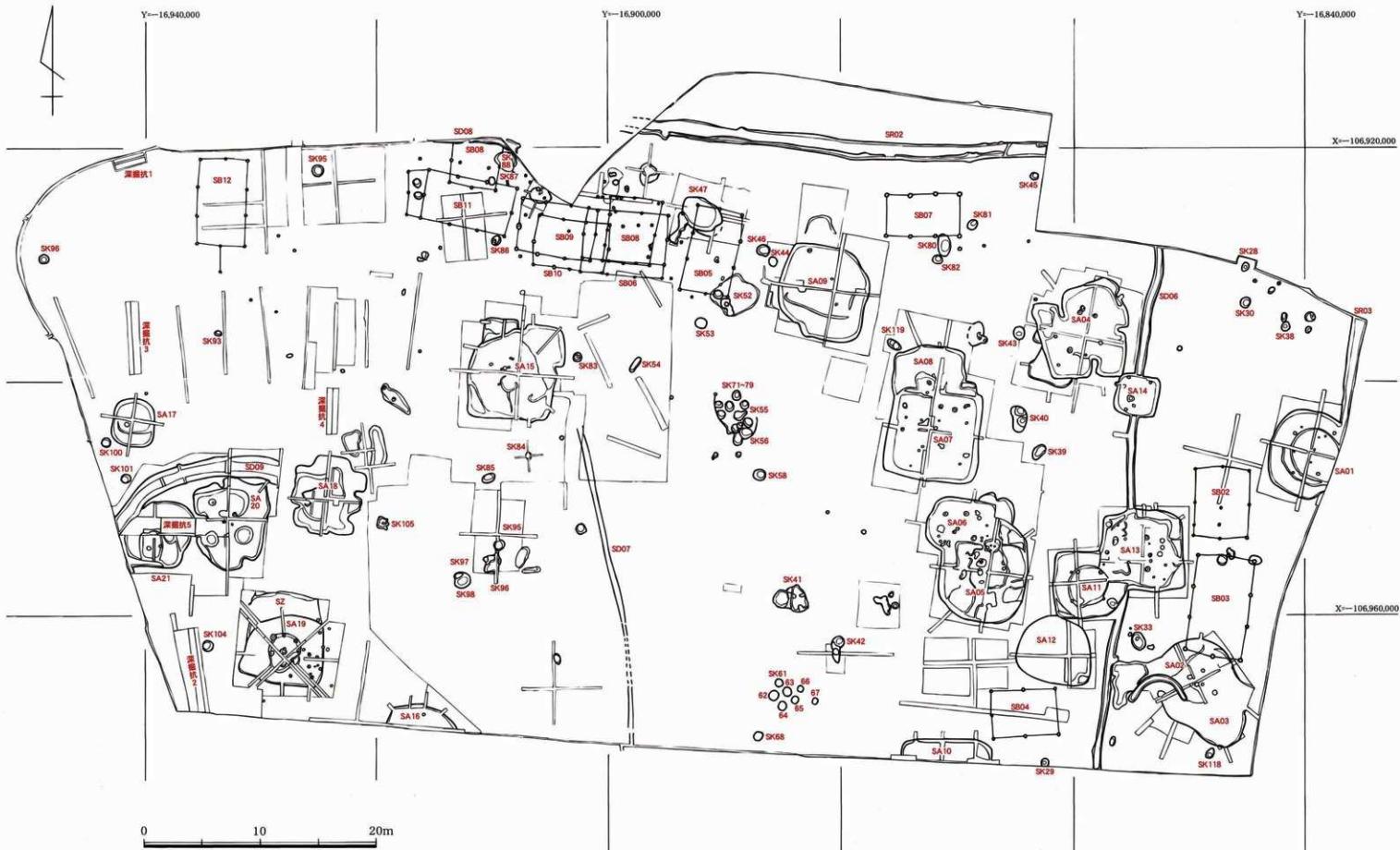
S B-04（第30図） 02号建物から12mほど西南西に離れた位置にある、梁行2間（3.96～4.07m）・桁行2間（5.50～5.66m）の東西方向の建物である。東梁中央の柱穴は、試掘調査時に削失したと思われる。柱穴の規模は、直径17～30cm・深さ26～34cmを測る。主軸方位はN 85°Eである。

S B-05（第30図） 調査区の北側中央部に位置した、梁行2間（3.94～4.13m）・桁行3間（7.11～7.41m）の南北方向の建物である。柱穴の規模は、直径20～31cm・深さ17～50cmを測る。主軸方位は、N 12°Eである。

S B-06（第31図） 05号建物の西約2m・08～10号建物と重複した、梁行2間（4.25～4.28m）・桁行3間（6.88～7.12m）の東西方向の建物で、南面に幅半間の扉を有する。柱穴の規模は、直径18～30cm・深さ20～47cmを測る。主軸方位は、N 85°Wである。北東隅の柱穴から、白磁碗の破片（84）が出土している。

S B-08（第33図） 05号建物の西桁の5m西で並行する、梁行2間（4.08～4.44m）・桁行2間（5.50～5.54m）の南北方向の建物である。柱穴の規模は、直径16～21cm・深さ10～42cmを測る。主軸方位は、N 8°Eである。

S B-09（第34図） 08号建物の1m西に位置した、梁行2間（4.34～4.38m）・桁行3間（6.44



第27図 V・VI区 造構分布図

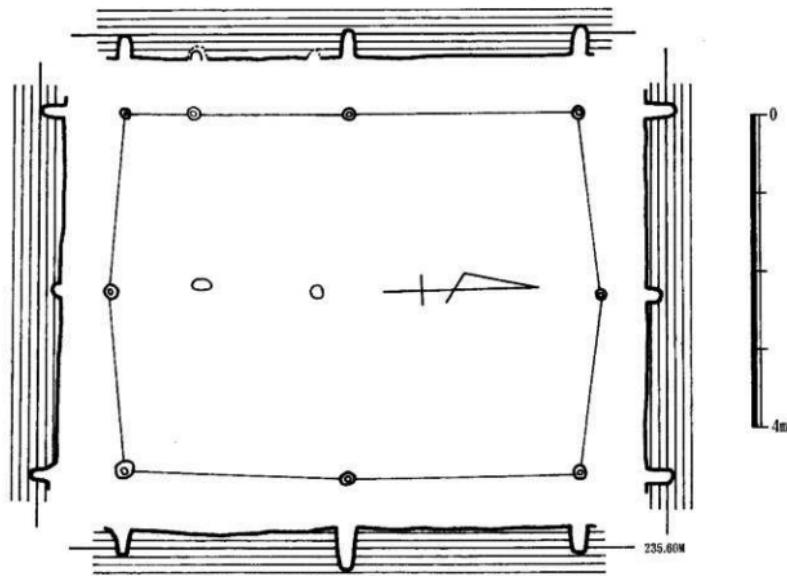
~6.48m)の東西方向の建物である。柱穴の規模は、直径22~64cm・深さ40~68cmを測る。主軸方位は、N81°Wである。北面桁行の東から2番目の柱穴から土師質土器皿(75)が、南西隅の柱穴から白磁碗の破片(88)が出土している。

S B-10(第34図) 09号建物の1m強南東に位置した、梁行2間(4.20~4.27m)・桁行3間(6.03~6.20m)の東西方向の建物である。柱穴の規模は、直径19~27cm・深さ18~41cmを測る。主軸方位は、N83°Wである。

S B-11(第35図) 09号建物の西1mに位置した、梁行2間(4.15~4.18m)・桁行3間(7.30~7.72m)の東西方向の建物である。柱穴の規模は、直径22~29cm・深さ38~84cmを測る。主軸方位は、N78°Wである。西梁には、幅1.25~1.74mの瘤が付くかもしれない。身舎の北西隅の柱穴から土師質土器皿(72)と白磁碗の破片(85・89)が出土している。

S B-12(第36図) 調査区の北西部に位置した、梁行2間(4.01~4.03m)・桁行3間(7.24~7.38m)の南北方向の建物である。柱穴の規模は、直径15~22cm・深さ26~43cmを測る。主軸方位は、N2°Eである。南梁には、1間(2.23m)南に独立棟持柱を有する可能性もある。

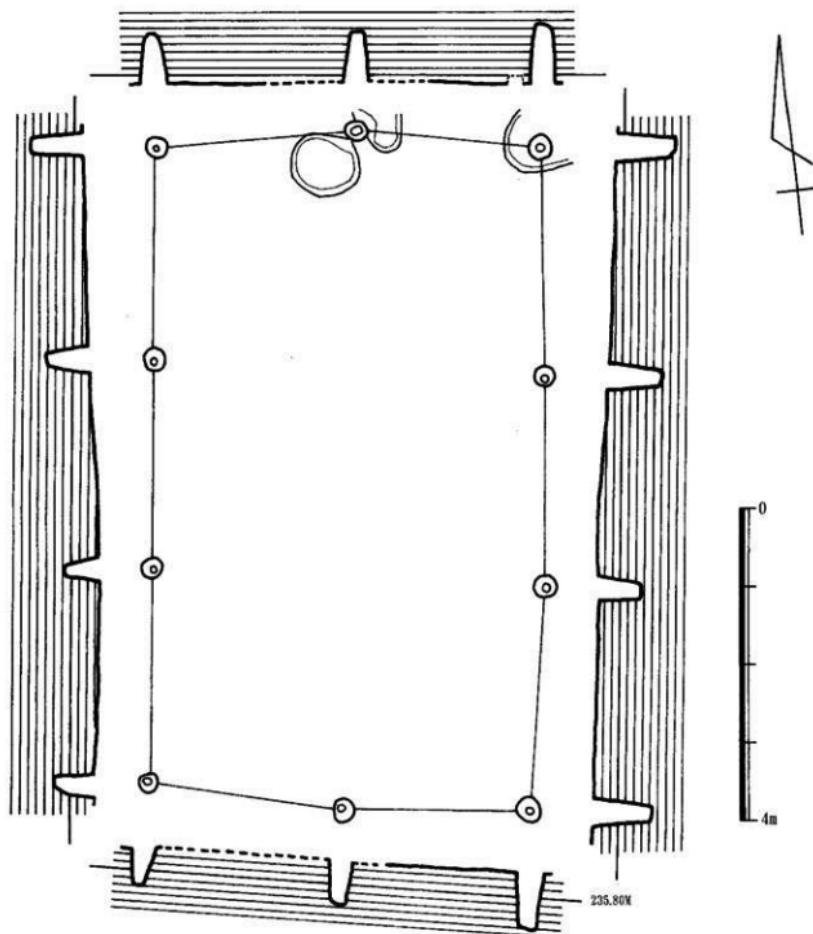
S B-13(第37図) 11号建物と重複した、梁行2間(4.04m)・桁行2間(3.94m)(推定3間)の南北方向の建物である。柱穴の規模は、直径18~24cm・深さ32~65cmを測る。主軸方位は、N6°~11°Eである。東桁北端の柱穴は08号溝に上部を切られている。



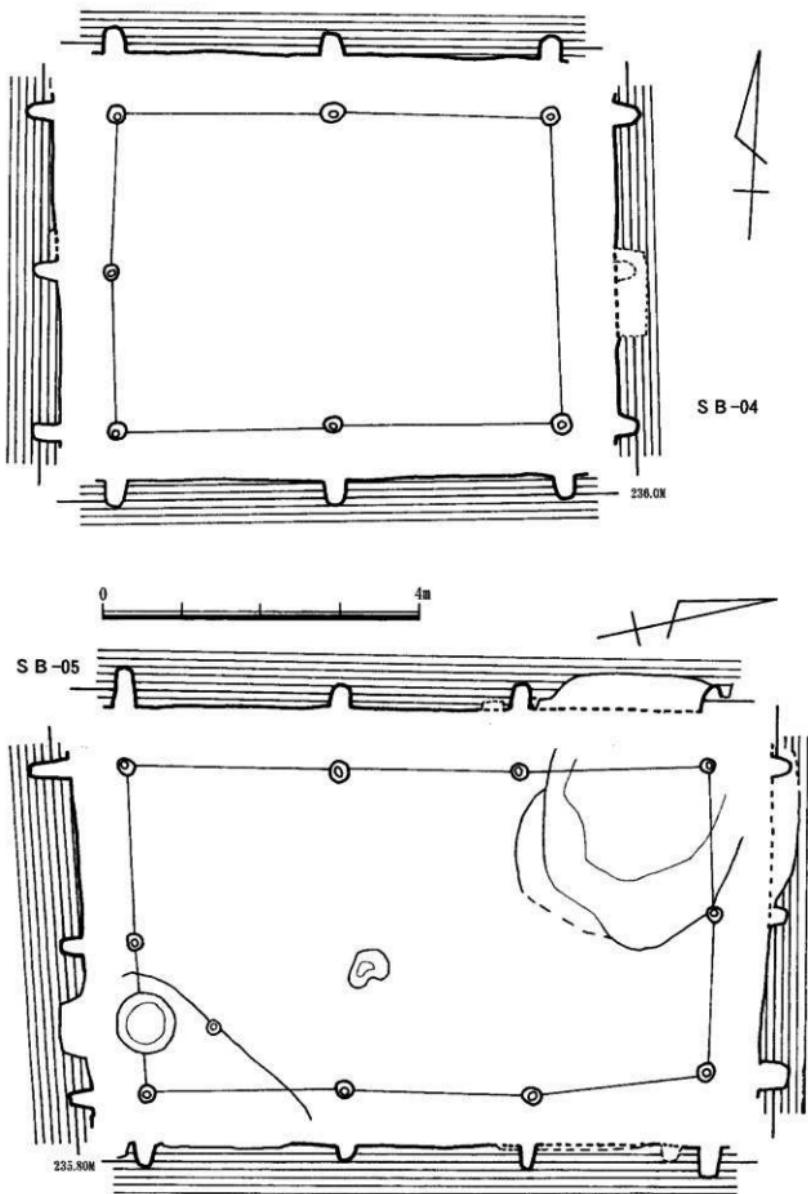
第28図 S B-02 遺構実測図

S K -61~67 (第38図) 調査区の南縁中央部に位置した、直径56~96cmの円形を呈する土坑の一
群で、深さは8~17cmである。副葬品的遺物は出土していないが、12~14世紀の小児~子供用土壙
墓と推定している。

S K -55・56・73~79 (第39図) 調査区のほぼ中央に位置した土坑群である。検出当初は、外縁
の長径5m・短径3mの不定形大型土坑（北東部の輪郭は不明瞭であった）として調査した（S K
-55として）が、一段下げるとき、長径51~115cmの円~楕円形土坑を11基確認した。深さは18~28cm



第29図 S B-03 遺構実測図



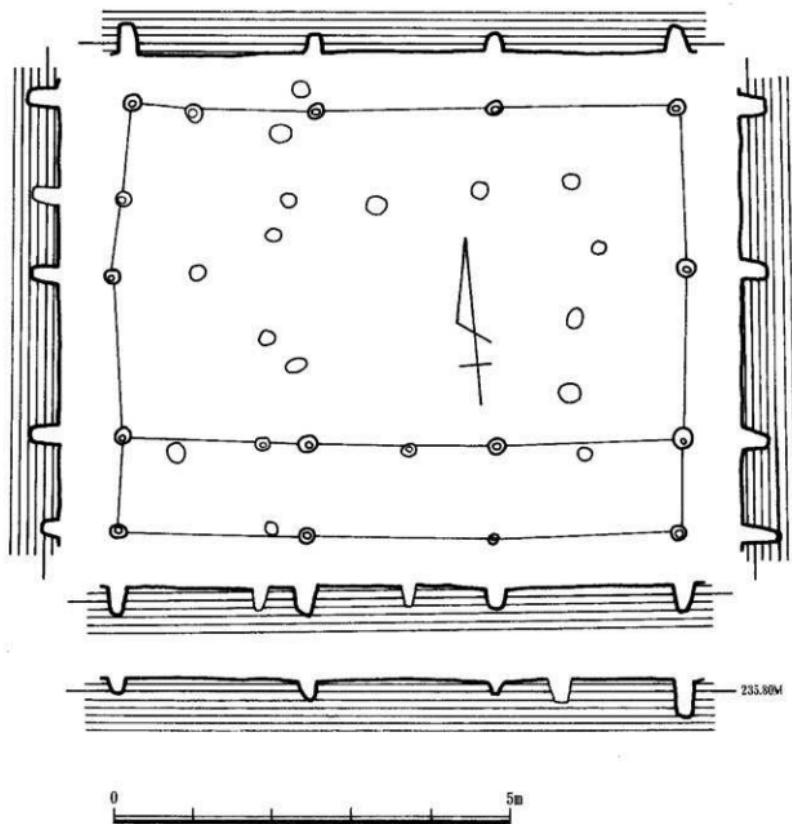
第30図 SB-04・05 遺構実測図

を測る。副葬品的遺物は出土していないが、小児～子供用土壙墓と考えている。

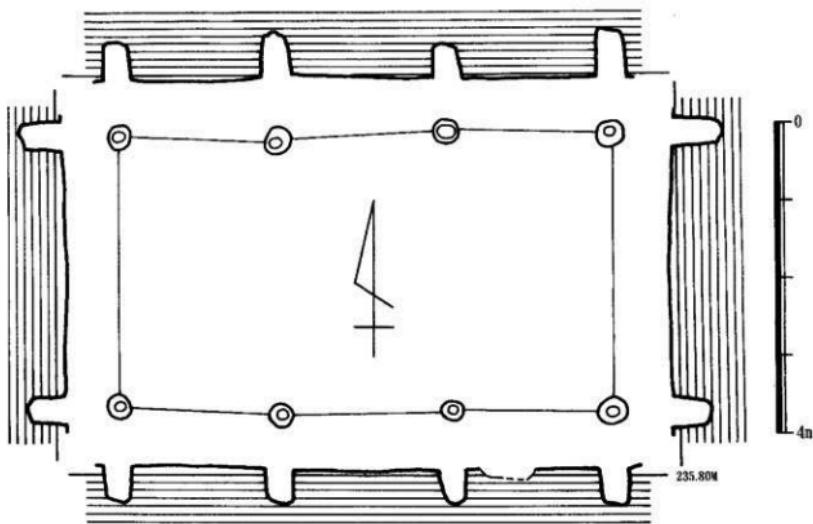
S K-100・101・114～116 単独で点在する、直径80cm前後・深さ10～18cm前後の土坑で、上記と同じ子供用土壙墓と推定される。副葬品等の遺物は無い。

S D-06 調査区東寄りの南北方向の溝状遺構で、幅は0.4～1.0m、南端4m程は深さ9cm、幅は26～30cmを測る。北壁断面観察では、Ⅲ b層上面から切り込んでいる。出土遺物は少ないが、土師質土器皿(76)や白磁碗(91)が出土しており、12～13世紀代の区画溝と推定される。

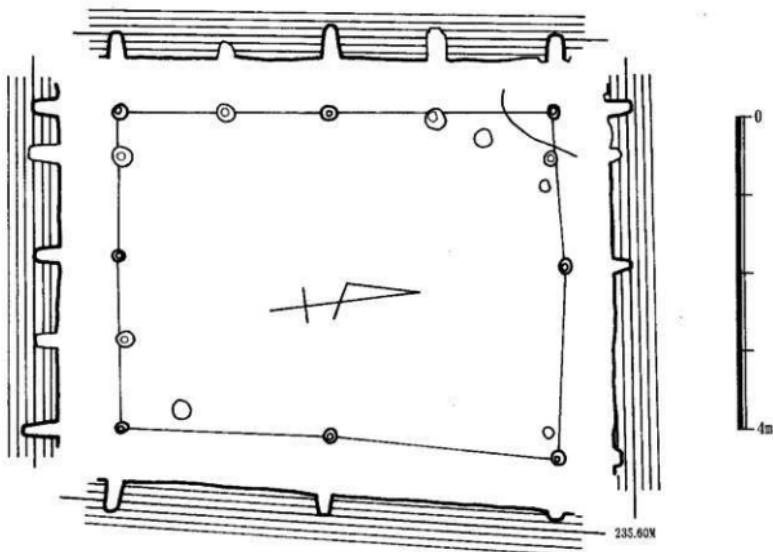
S D-08 13号建物と重複し、VI区北壁沿いに東西方向に位置する。東端部は調査区外で収束することが確認でき、幅が60～85cm前後であることがわかった。深さは20cm前後で、06号溝とほぼ直交する区画溝と思われる。



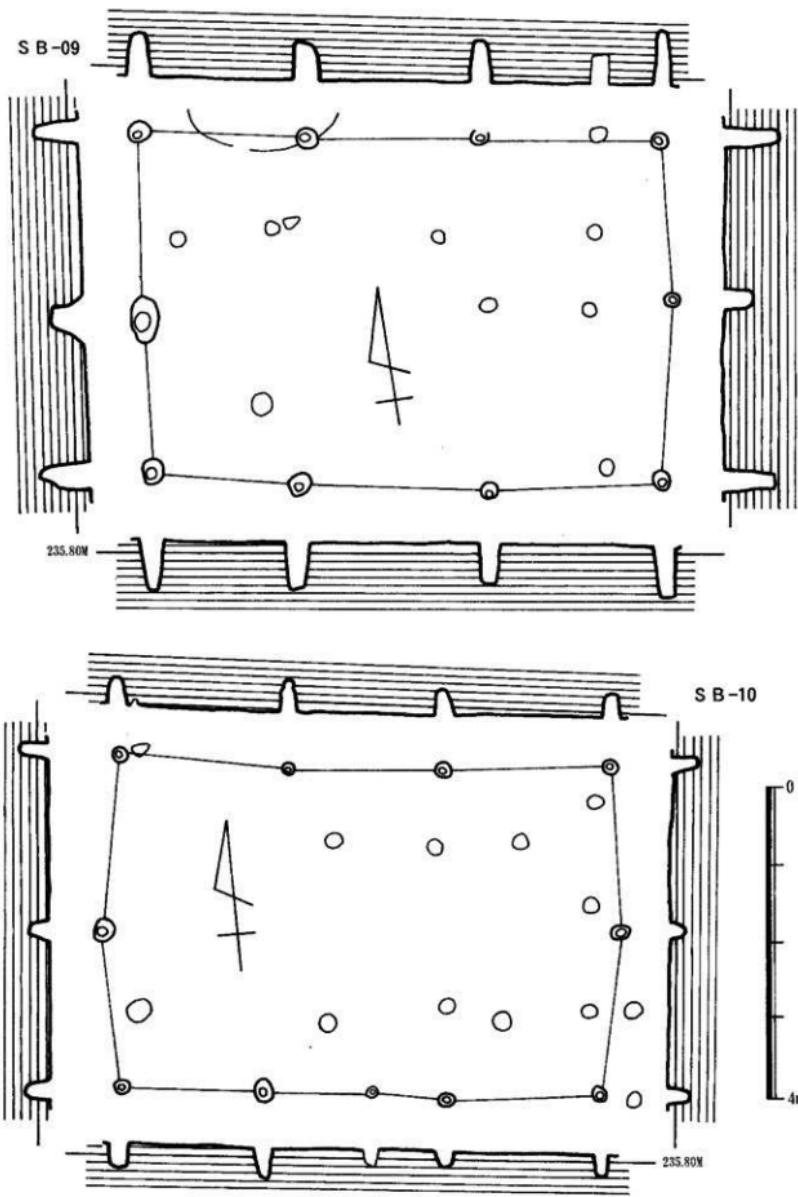
第31図 SB-06 遺構実測図



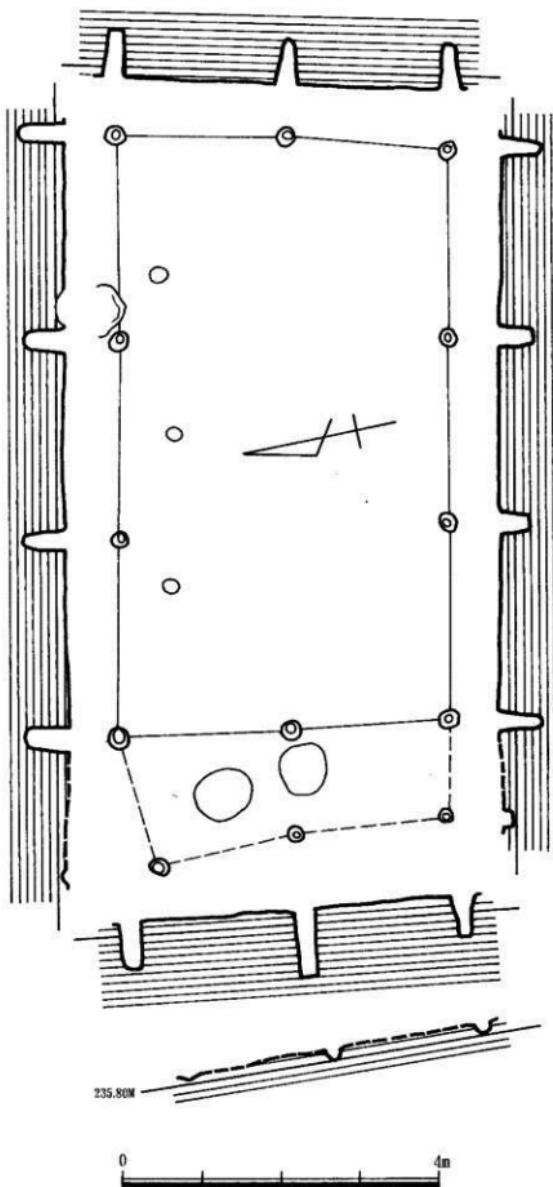
第32図 S B-07 造構実測図



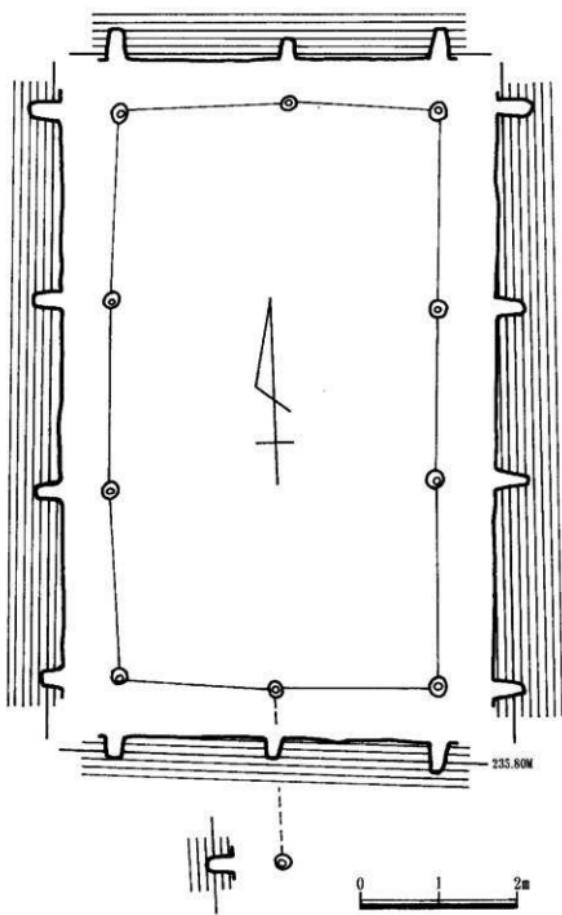
第33図 S B-08 造構実測図



第34図 SB-09・10 造構実測図



第35図 S B-11 遺構実測図

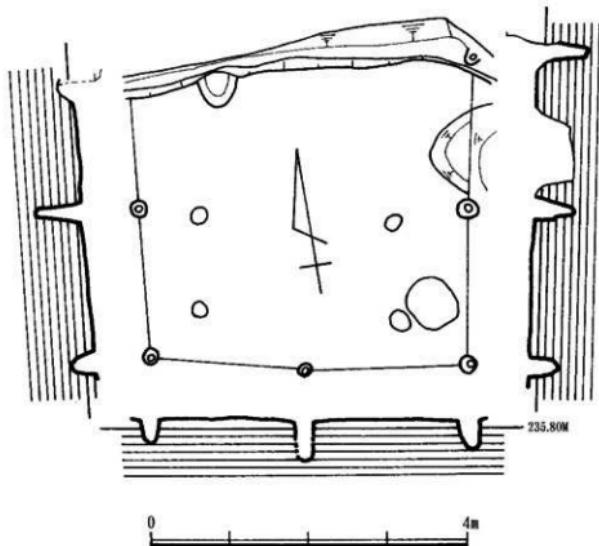


第36図 SB-12 造構実測図

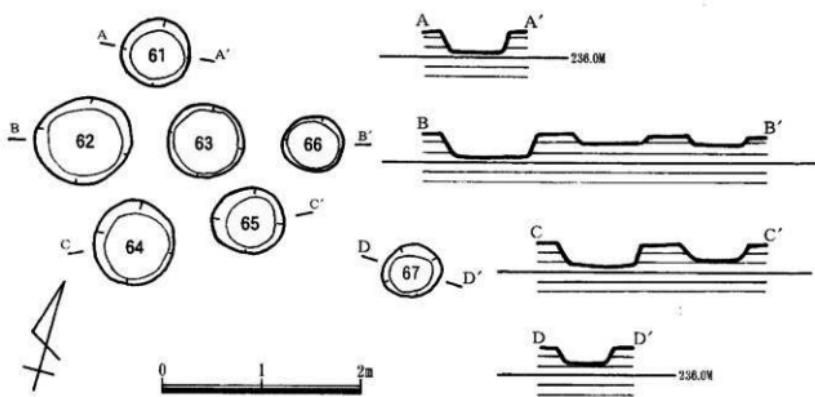
4. 近世以降

掘立柱建物 1 棟のほか、土坑 1 基と溝状造構 1 条・道路跡 2 条を検出した。覆土は淡灰色系である。

SB-07 (第32図) 調査区の中央やや北東寄りに位置した、梁行 1 間 (3.46~3.60 m)・桁行 3 間 (6.23 m) の東西方向の建物である。柱穴の規模は、直径 26~36 cm・深さ 42~62 cm を測る。主軸方位は、N 89°W である。南東端の柱穴から半間南にも同時期の柱穴があるが、07号建物に伴うかどうかは不明である。出土遺物は無い。



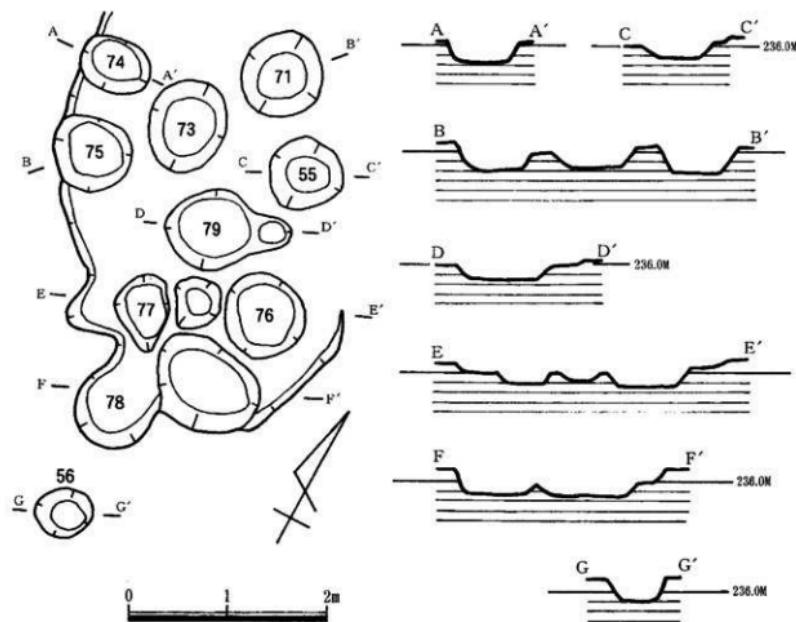
第37図 SB-13 遺構実測図



第38図 SK-61~67 遺構実測図

S K-68 調査区の南縁中央部に位置した、長径95cm・短径80cmの楕円形を呈する土坑で、深さは9~12cmである。出土遺物は無いが、形状から土壤幕と推定している。

S D-07 V区とVI区の境、一筆境畦畔の直下に位置した、幅25~40cmの溝状遺構である。表土を

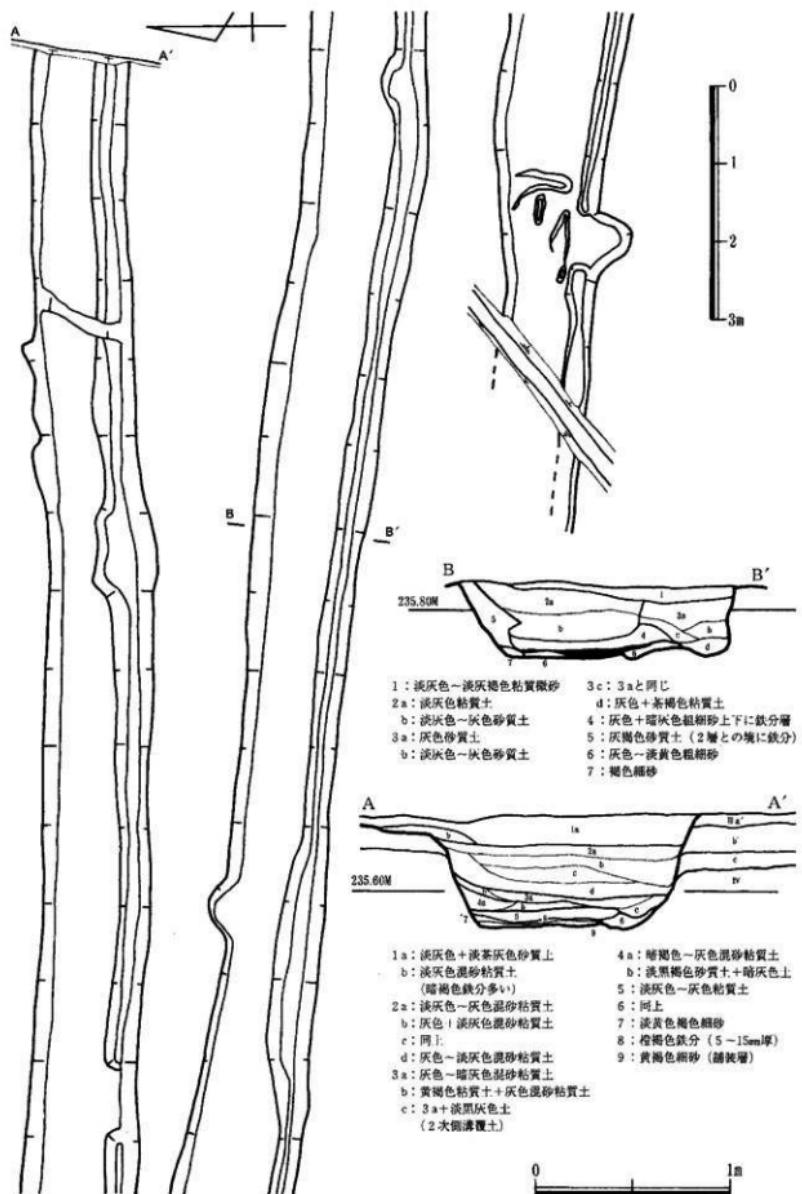


第39図 SK-55・56・71～79 遺構実測図

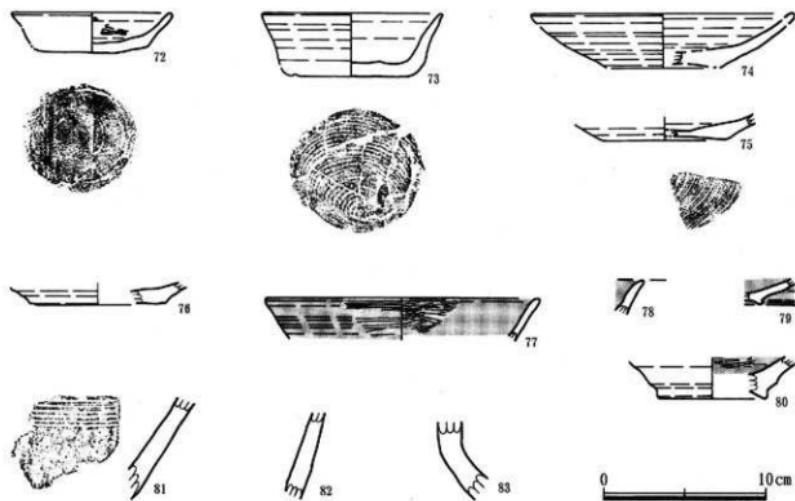
剥いだ段階すでに明瞭に確認していたが、近世後半～近代の時期と判断して、大半を削平したことから、基底部の深さ5cm程を調査したにすぎない。覆土の殆どは粗細砂で、寛永通宝3枚(101～103)が出土した。

S R-02 (第40図) V区の北縁寄りに、07号建物と並行して東西方向に位置した道路跡である。III a層上面から幅1.2～1.55m・深さ0.56m掘り込まれ、底面南辺には側溝を付設する。道路面は幅0.4～1.06mと一定でなく、側溝も部分的に途切れる。道路面上面には5～15mmの酸化鉄が沈積し、非常に硬く締まっていた。覆土は青灰色を帯び、16世紀後半～17世紀前半に埋没し始めたようである。東端の土層観察では、覆土第5・6層の上面が2次面であり、側溝を伴う。旧表土(4層)と3層が堆積して後、3層上面が3次面として使用される。以後は自然埋没である。

S R-03 V区の北東縁に位置した掘り込みで、幅は1.2m以上、深さは80cmである。底面は平らで僅かに硬くなっていることから、道路跡とした。覆土から近世前半の陶磁器(98～100)などが若干出土しているが、近世後半以降の遺構だと思われる。

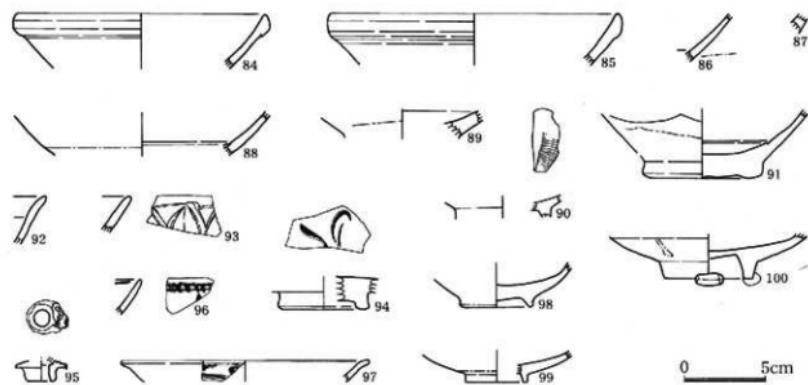


第40図 SR-02 造構実測図



第41図 V・VI区出土 土師器・土師質土器・黒色土器・中世国産陶器実測図

72: PP-410 73: PP-403 74: PP-405 75: PP-374 76: SD-06 77: SK-87 82・83: SK-88
他: II~III層

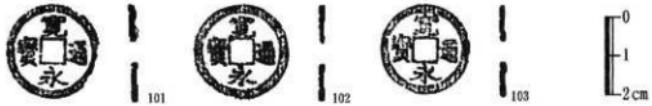


第42図 V・VI区出土 輸入陶磁器・近世国産陶器

84: PP-352 85・89: PP-410 88: PP-378

91: SD-06 92・95: SK-88 93: SR-02

98~100: II~SR-03 他: II~III層



第43図 SD-07 出土銭貨実測図

表9 V・VI区出土遺物観察表(1) 士器

No	出土地	種類	器種	法量(cm)			調査		胎土	焼成	色調		備考
				口径	底径	高さ	外面	内面			外面	内面	
72	V区P-P-410	土器	盤	99	68	25	ナゲ	ミガキ	精良	ややあまい	淡灰-淡桃褐色	淡桃褐色-淡黄褐色	内面:マメツ 赤切り
73	V区P-P-403	土器	盤	112	79	39	工具ナゲ	ナゲ	精良	ややあまい	淡黄褐色-淡桃褐色	淡黄褐色-淡棕褐色	赤切り
74	V区P-P-405	土器	盤	163	69	34	ナゲ	ナゲ	精良	ややあまい	淡褐色-淡微黄	淡褐色-灰褐色	内面:マメツ 赤切り
75	V区P-P-374	土器	盤	-	76	-	ナゲ	ナゲ	精良	ややあまい	暗褐色-淡灰褐色	暗褐色-灰褐色	内面:マメツ 赤切り
76	V区S-D-06	土器	盤	-	84	-	ナゲ	ナゲ	精良	良	淡灰褐色-淡黄褐色	淡灰褐色-淡黄褐色	内面:マメツ 赤切り
77	V区S-K-87	黑色土器	碗	169	-	-	ミガキ	ミガキ	精良	良	暗灰褐色-灰褐色	暗灰褐色-灰褐色	内面:マメツ 赤切り
78	V区II-Ⅲ層	黑色土器	碗	不明	-	-	ミガキ	ミガキ	精良	良	淡黄褐色-淡褐色	淡黑褐色	内面:マメツ 赤切り
79	V区Ⅲ-Ⅴ層	黑色土器	碗	-	-	-	ミガキ	ミガキ	精良	良	淡黑褐色	淡黑褐色	内面:マメツ 赤切り
80	V区II-Ⅲ層	黑色土器	碗	-	67	-	半ミガキ	ミガキ	精良	良	淡黑褐色-淡黄褐色	淡黑褐色	内面:マメツ 赤切り
81	V区II層	薄片	-	-	-	-	ナゲ	ナゲ	精良	良好	暗灰褐色	暗茶褐色	15-16c
82	V区S-K-88	常滑か	茎葉類	-	-	-	ナゲ	ナゲ	精良	良好	暗灰褐色-暗茶褐色	暗灰褐色-暗茶褐色	15-16c
83	V区S-K-88	常滑	茎葉類	-	-	-	ナゲ	ナゲ	精良	良好	灰綠淡黃自然褐	暗茶褐色-暗灰褐色	12-13c

表10 V・VI区出土遺物観察表(2) 陶磁器

No	出土地	種類	器種	法量(cm)			調査-紋様	窯粘	胎土色	釉調		產地	年代・備考	
				口径	底径	高さ				外面	内面			
84	V区P-P-352	白磁	碗	153	-	-	-	-	淡黃白色	淡黃白色	淡黃白色	中国	12-14c前	
85	V区P-P-410	白磁	碗	178	-	-	-	-	乳白色-淡黃白色	乳白色-淡黃白色	乳白色-淡黃白色	中国	12-14c前	
86	V区B-c層	白磁	碗	-	-	-	-	外面下半	淡黃白色-乳白色	乳白色-淡黃白色	乳白色-淡黃白色	中国	12-14c前	
87	V区P-P-341	白磁	碗	-	-	-	-	外周	淡黃白色	乳白色	乳白色	中国	12-14c前	
88	V区P-P-378	白磁	碗	-	-	-	-	外面下半	乳白色-淡黃白色	乳白色	乳白色	中国	12-14c前	
89	V区P-P-410	白磁	碗	-	-	-	-	外面下半	乳白色	乳白色	乳白色	中国	12-14c前	
90	V区II層	白磁	碗	-	-	-	荷葉口文	高台	淡灰白色	乳白色	乳白色	中国	12-13c	
91	V区S-D-06	白磁	碗	-	74	-	-	外面下半	淡黃白色	乳白色	乳白色	中国	12-13c	
92	V区S-K-88	青磁	碗	-	-	-	沈緑?	-	淡黃白色	淡黃白色	淡黃白色	福建	12-13c	
93	V区S-R-02	青磁	碗	-	-	-	鐵道分文	-	淡灰-灰	オリーブ	オリーブ	福建	12-13c	
94	V区III層	青磁	碗	-	56	-	刷毛文	疊付き-内底	灰-淡黃褐色	淡オリーブ灰	淡オリーブ灰	福建	12-14c前	
95	V区S-K-88	青白磁	袋物の蓋	-	18	-	-	外面下半	白	淡青白	淡青白	中国	12-14c前	
96	V区II-Ⅲ層	青花	皿	-	-	-	-	-	乳白色	褐	褐	福建	16c後	
97	V区II-Ⅲ層	青花	皿	152	-	-	-	-	白	褐	褐	景德鎮	16c前~中	
98	V区S-K-03	共物陶器	瓶	-	44	-	輪刺ぎ	内底	淡灰-灰	暗紫褐色	暗紫褐色	福建	16c	
99	V区S-R-03	共物陶器	瓶	-	39	-	-	高台	淡灰白	淡オリーブ	淡オリーブ	福建	16c	
100	V区S-K-03	共物陶器	瓶	六入れか 越冬乞	-	55	-	胎土目	-	暗灰	暗茶褐色	暗茶褐色	福建	17c

5. 弥生～古墳時代

砂礫を多量に含む自然流路を避けるように竪穴住居が環状に配置している。竪穴住居は不明瞭ながら21基を検出したほか、大小様々な土坑約70基、溝状遺構1条を検出した。

S A-01 (第44図) V区の北東縁に位置した、直径7.8mの円形を呈する住居である。南西側には2段のテラスが設けられ、上段は0.77～1.4mの幅があり、10cm低い下段は23～73cmの幅がある。中央部はさらに10～15cm下がって床面となる。その底面には厚さ5～10cmの淡灰色粘質土が貼られ、上面を5～10mmの橙褐色酸化鉄が覆っている。主柱穴は4個(南東部は調査区外)で、直径28～35cm・深さ28～54cmを測る。また、補助的な小pitが北側に4個、南東部に1個検出された。

出土遺物は遺構の中では最も多い(第45～52図)が、原位置を保つものは無く、弥生時代終末～古墳時代初頭の遺物が主である。115の壺と小型の壺(144)は新しい様相を呈し、廃絶後の布留式期まで不要物廃棄坑として使用されたものと推定される。鉄器や石器は出土していないが、大型の椭円碟を砥石的に使用した台石が1点(第127図-720)ある。

S A-02 (第53図) 調査区の南東隅に位置した、直径5.92～6.42mの楕円形を呈する竪穴住居と推定している。一段低い中央部・長径3.6m・短径2.9mの範囲には厚さ5～10cmの貼り床があり、その上面には泥化炭化物が広がっていた。主柱穴は不明であるが、直径26～43cm・深さ12～23cmの柱穴5基を検出した。内径1.85m・幅52～60cm・深さ20～35cmの規模で弧状に曲がる溝状遺構は、西～南側では検出できなかった。住居の排水溝としては疑問が残り、別遺構の可能性が高い。

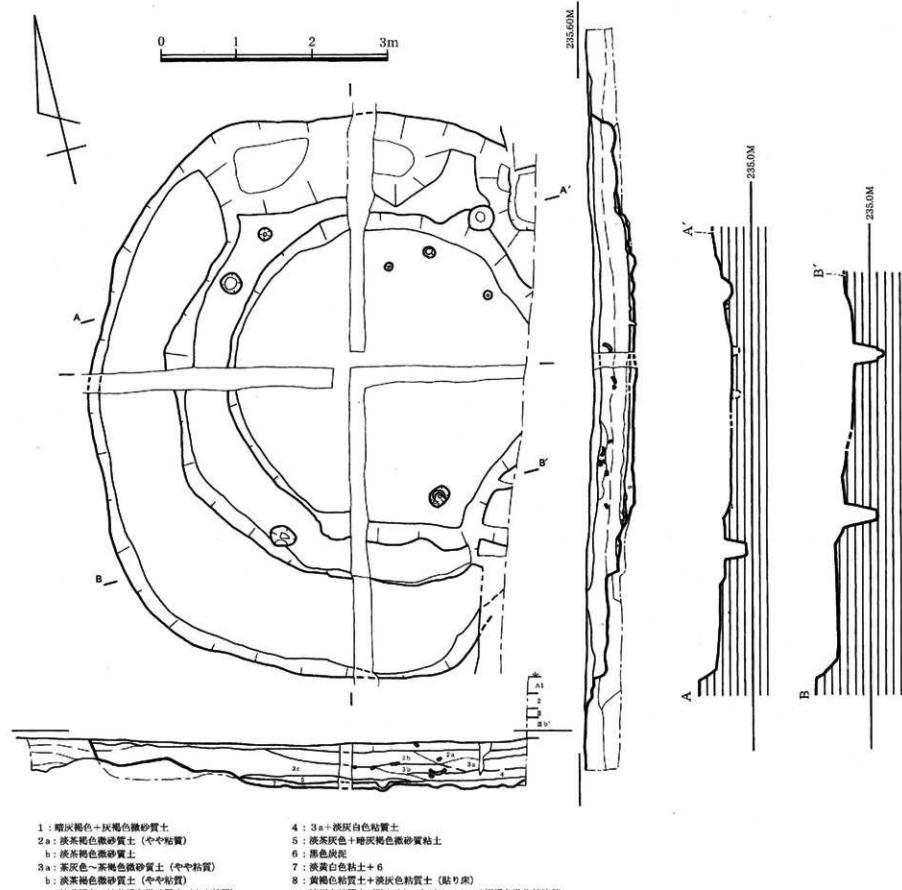
出土遺物としては、若干の壺・壺・鉢・高杯・ヰ等(第54・55図)のほか、小型の鉄鎌(主頭鎌、第92図-460)や石匙未製品(第125図-691)・砥石(第126図-707)がある。

S A-03 (第53図) 02号住居の南に重複し、竪穴住居状のプランにはなったが、貼り床や柱穴・炭化物は検出していない。このため、機能的には竪穴住居とは断定できない。

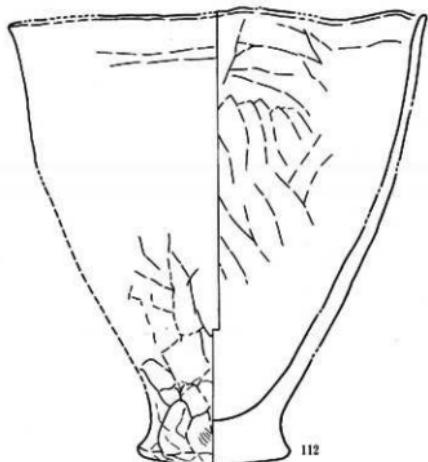
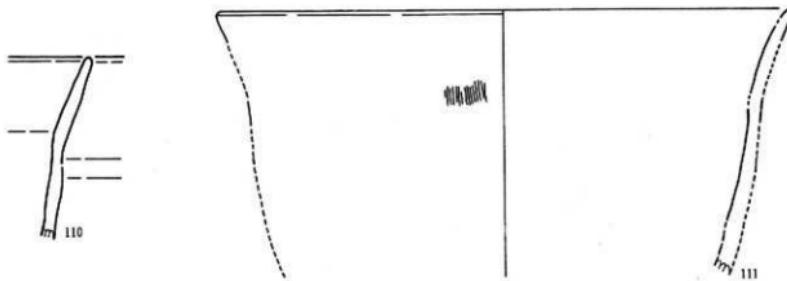
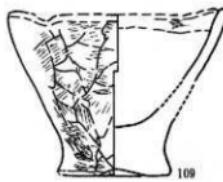
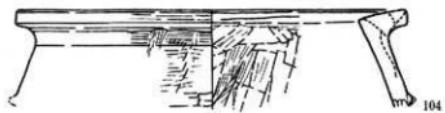
出土遺物は02号住居よりも多く、壺・壺・鉢・高杯のほか、小型の刀子状の鉄製品(第92図-462)が出土している。なお、207の鉢は唯一の完形復元品である。

S A-04 (第57図) 調査区の北東寄りに位置した、1辺6～8mの方形を基調とした間仕切り住居で、南西部には幅3.9m・深さ10cmの隅丸方形の張り出しがある。切り合いは確認できなかったので、別遺構では無く、構築当初のプランの可能性がある。中央部は略方形状に1段(10～20cm)下がり、貼り床が施される。また、北～東側の1段高い面も異なる粘質土で貼り床が施される。主柱穴は4本で、2.6～2.9m間隔で長方形に配置され、60～70cmの深さがある。北側の中央部には、同規模の柱穴があり、棟持柱的機能が想定される。

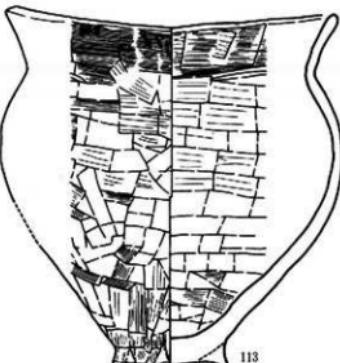
出土遺物は少なく、完形品も無いが、一通りの器種が揃っている(第58～60図)。弥生時代終末を主体とし、242の高杯は化粧粘土が施され、胎土も精良であり、外来遺物と推定される。土器以外では、鉄鎌1本(458)と砥石(706)が出土している。南東部においては炭化材が若干出土している。



第44図 SA-01 遺構実測図



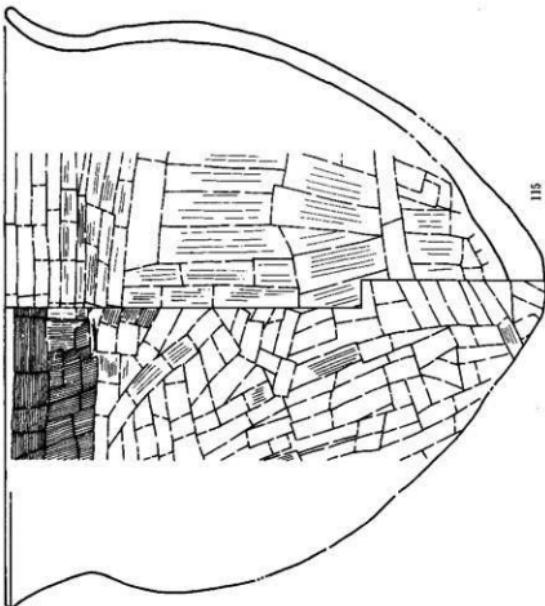
0 10 cm



第45図 SA-01 出土遺物実測図(1)

10 cm

115



114

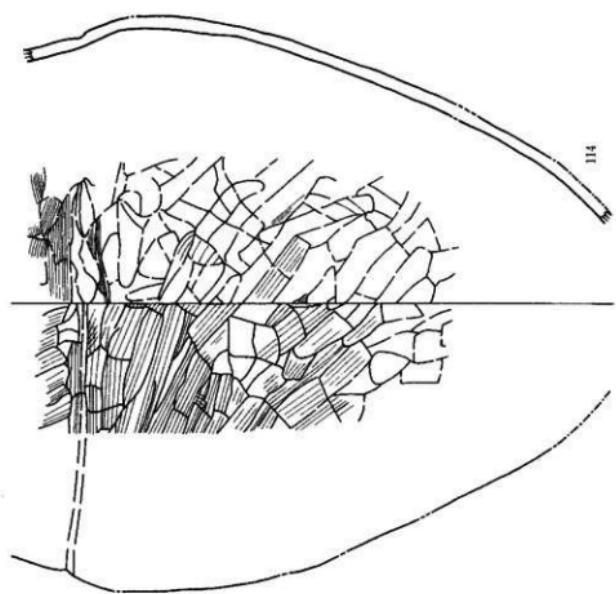
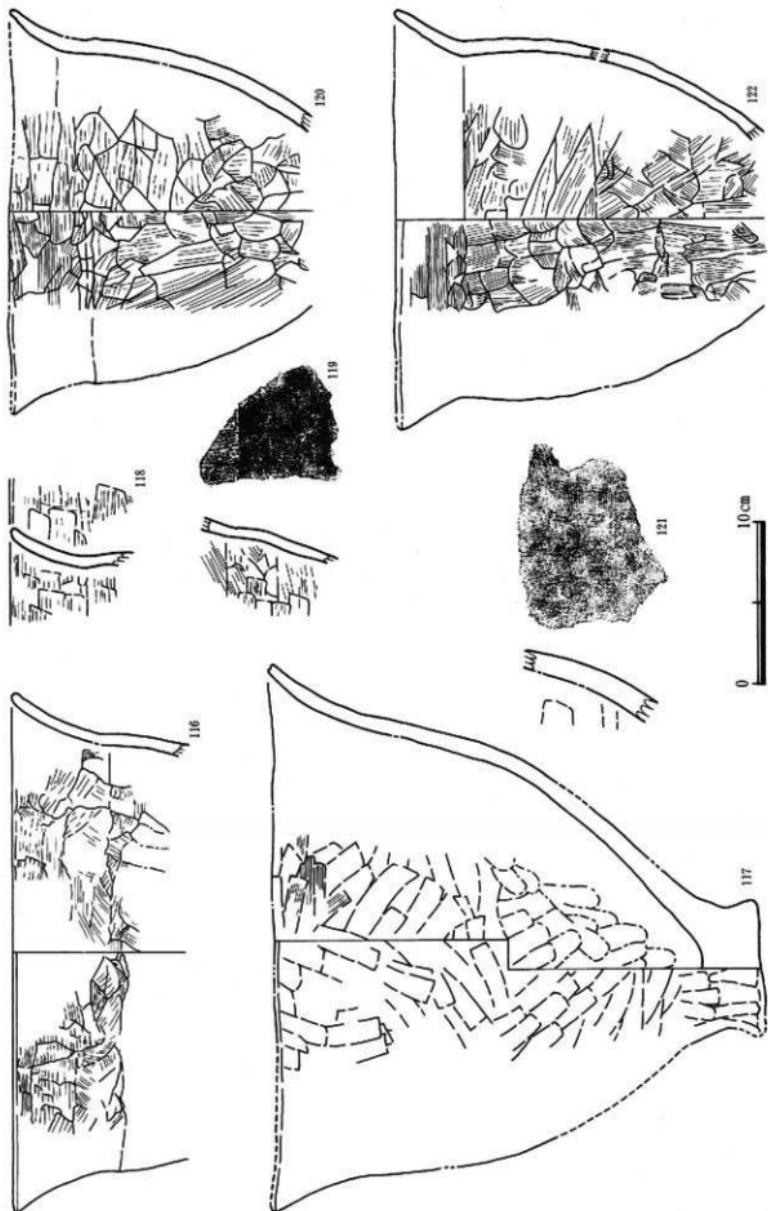
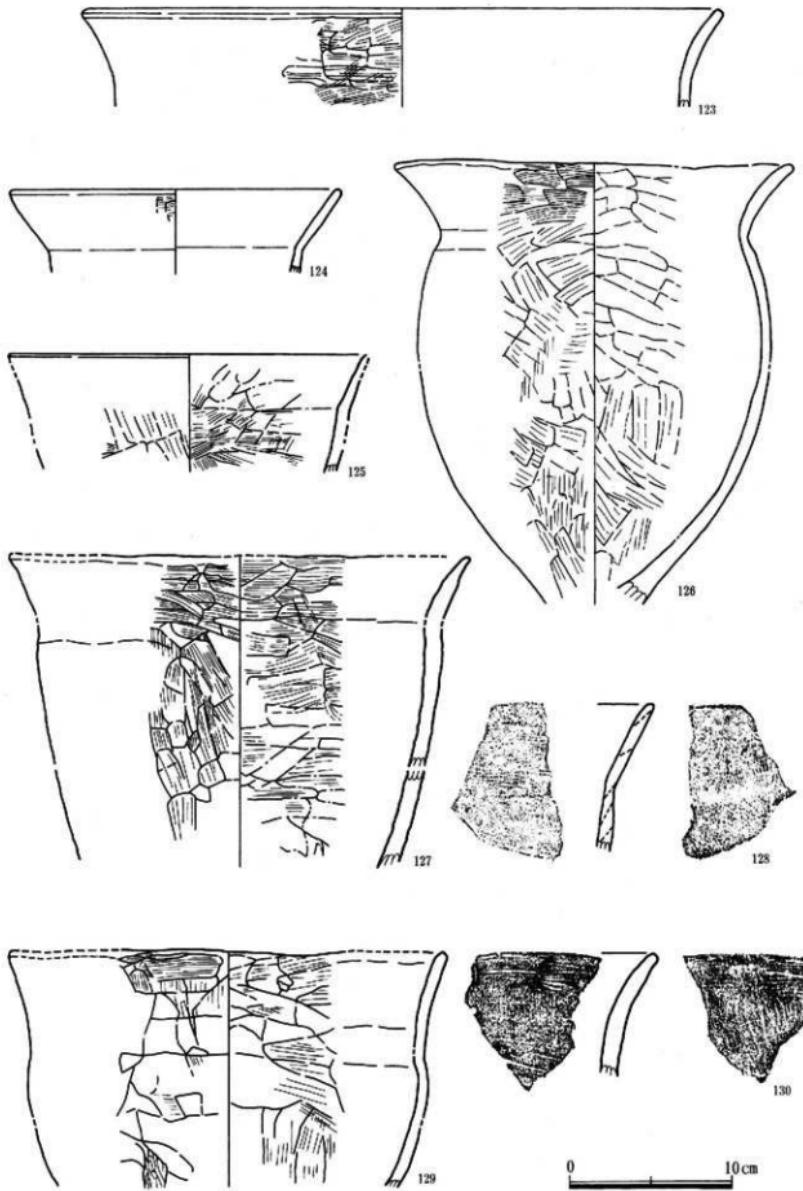


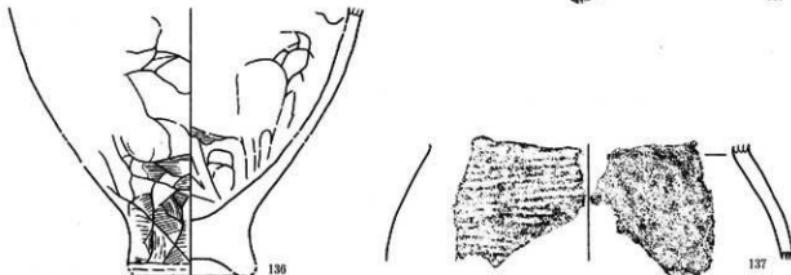
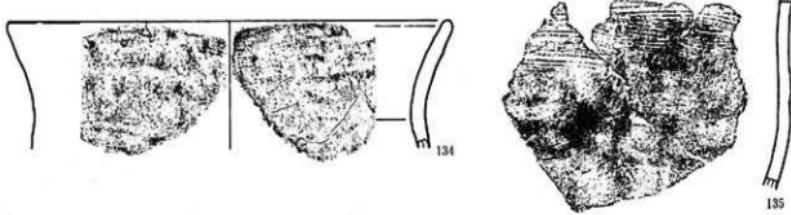
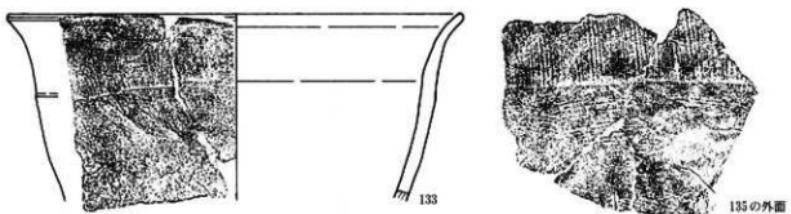
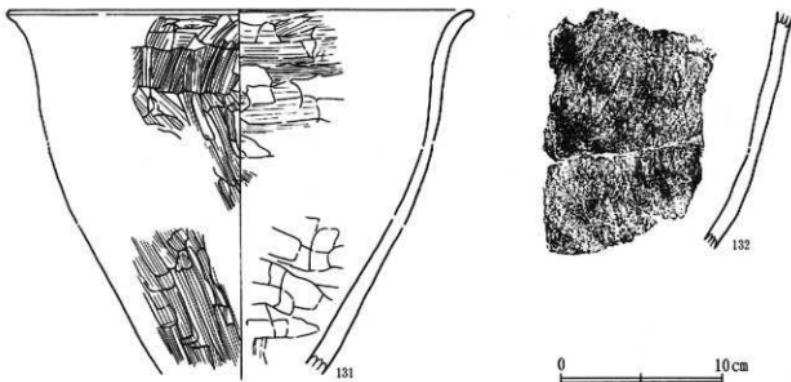
図46図 SA-01 出土遺物実測図(2)

図47 S A-01 出土遺物実測図 (3)

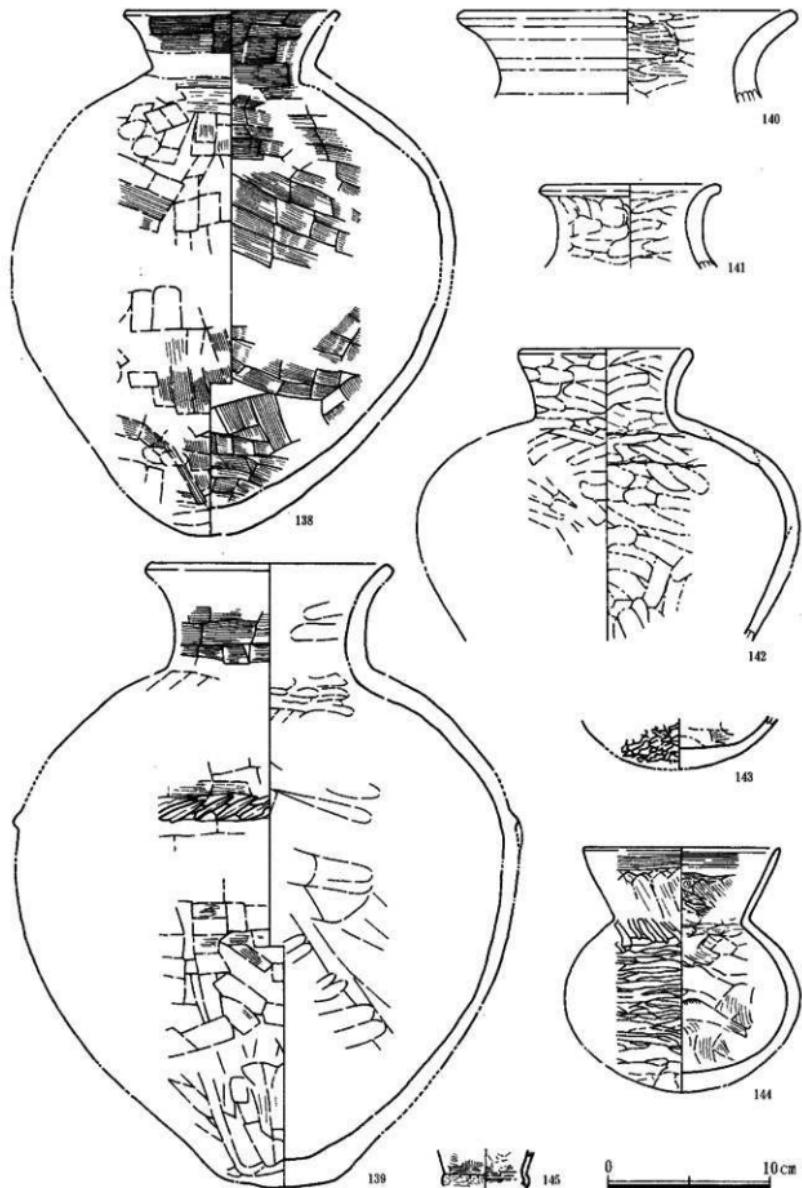




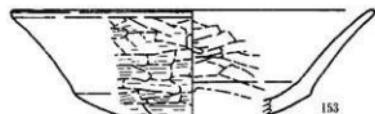
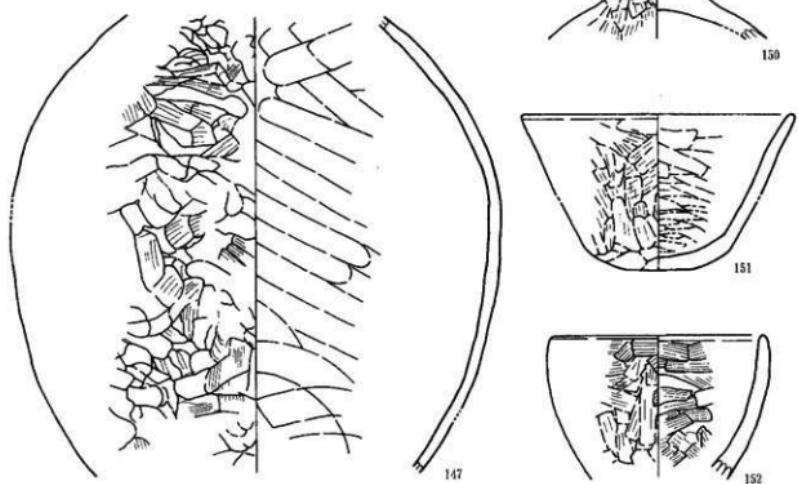
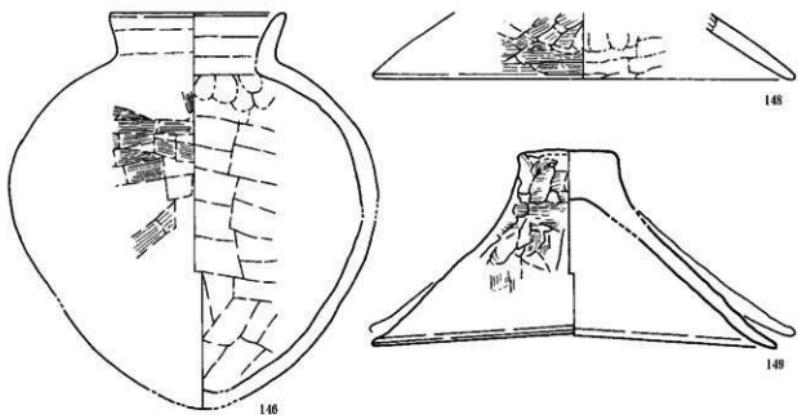
第48図 S A-01 出土遺物実測図 (4)



第49図 SA-01 出土遺物実測図 (5)

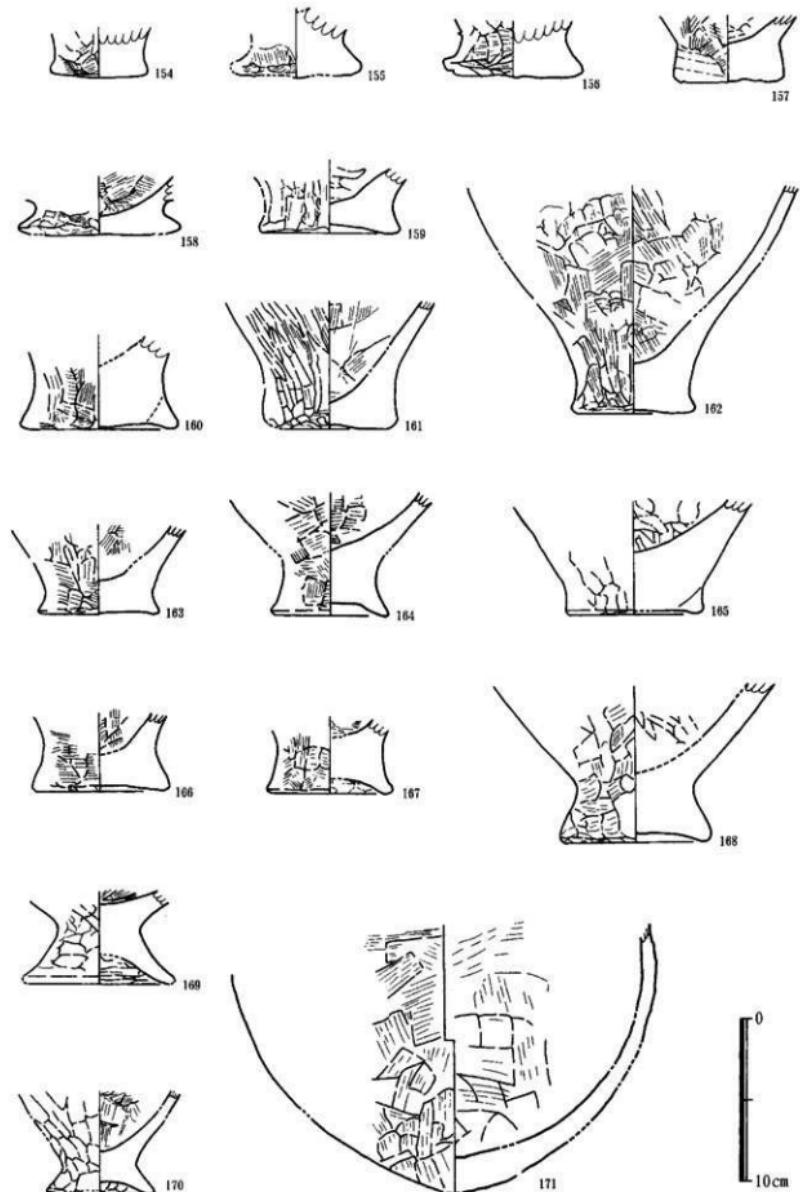


第50図 S A -01 出土遺物実測図 (6)

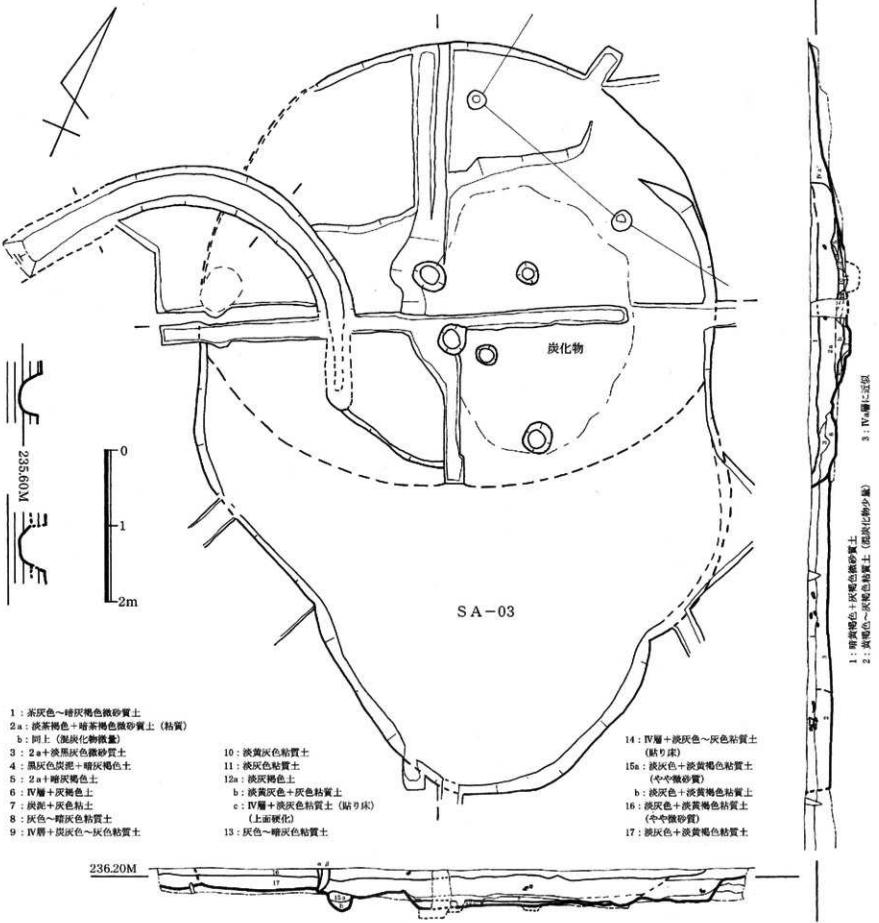


0 10 cm

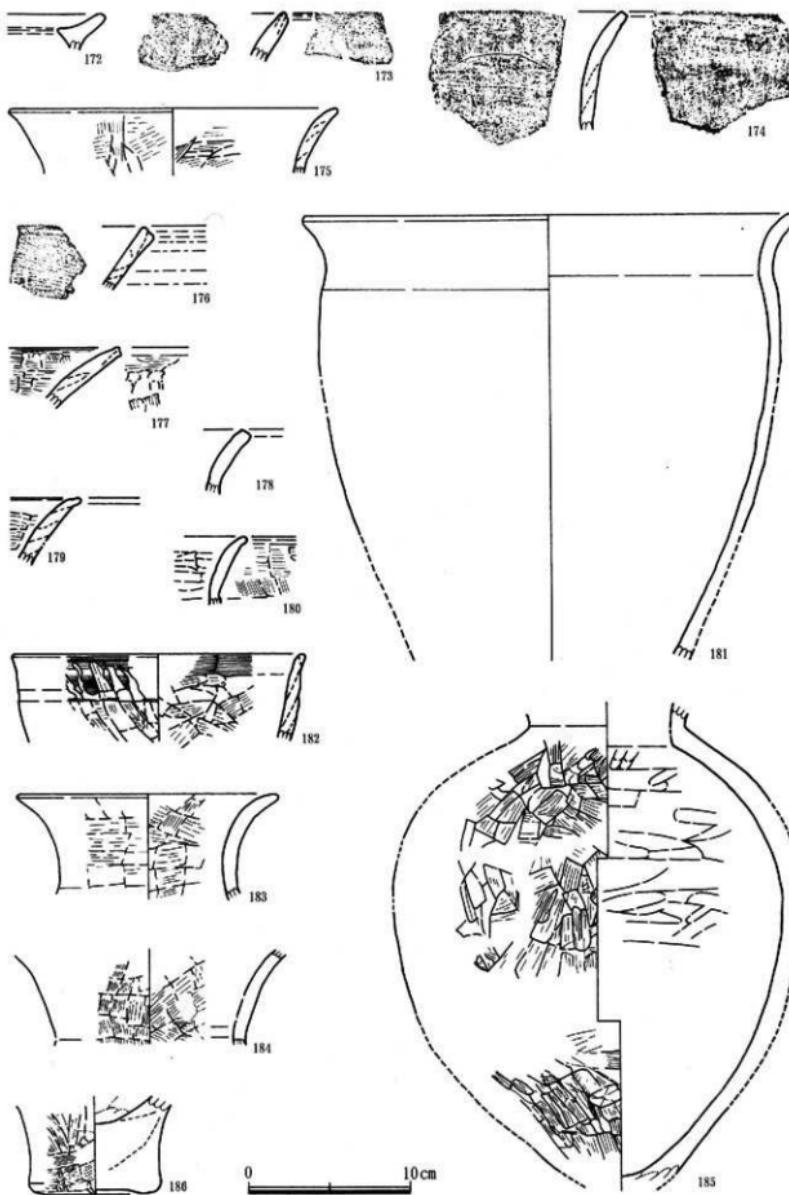
第51図 S A-01 出土遺物実測図 (7)



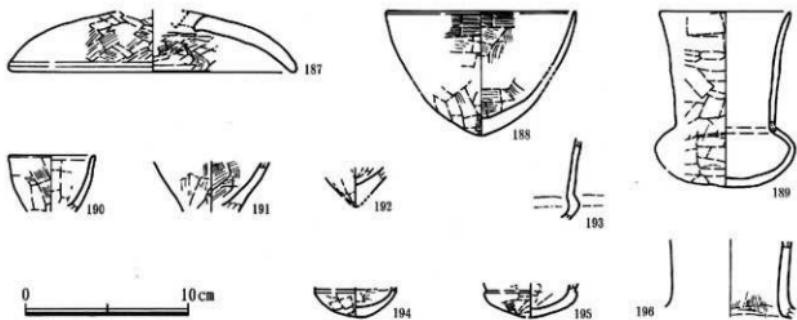
第52図 SA-01 出土遺物実測図 (8)



第53図 SA-02・03 造構実測図



第54図 SA-02 出土遺物実測図（1）



第55図 SA-02 出土遺物実測図（2）

表11 SA-01出土遺物観察表（1）

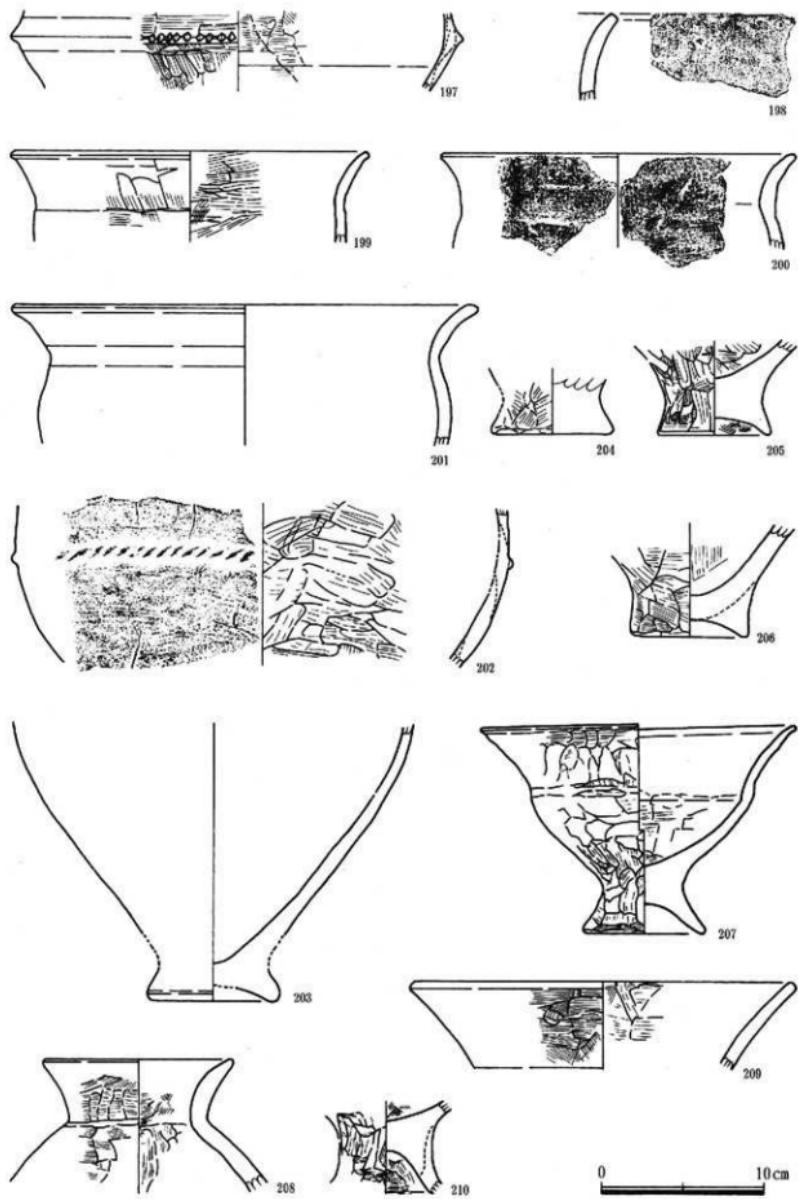
No	出土地	器種	法量 (mm)			調 整		鉛 土	焼 成	色 調		備 考
			口径	底径	器高	外 面	内 面			外 面	内 面	
654586	SA-01	壺	240	—	—	ハケ・工具ナデ	半ミガキ	粗縫跡やや多い 内面少	良	淡黒褐色—暗茶褐色	褐—淡褐色	口: 披然
104	SA-01	壺	—	—	—	工具ナデ	工具ナデ	粗縫跡微量	良	淡黒褐色	淡褐色	
105	SA-01	壺	—	—	—	工具ナデ	ナデ	粗縫跡	良	灰褐色—淡灰褐色	淡褐色	
106	SA-01	壺	246	—	—	工具ナデ	ナデ	粗縫跡少	良	灰褐色—淡灰褐色	淡褐色	両面: マツツ
107	SA-01上層	壺	205	—	—	—	—	粗縫跡やや多い	ややあまい	淡褐色—淡茶褐色	淡褐色—淡茶褐色	両面: マツツ
108	SA-01上層	小型台状鉢	77	50	48	工具ナデ	—	粗縫跡多量	ややあまい	淡褐色—淡黃褐色	淡褐色—淡茶褐色	両面: マツツ
109	SA-01	小型体	133	68-70	104	ハケ・工具ナデ	—	粗縫跡多量	ややあまい	淡褐色—灰褐色	橙褐色—淡灰褐色	両面: マツツ
110	SA-01	壺	—	—	—	ハケ	—	粗縫跡多量	ややあまい	暗茶褐色	淡褐色	両面: マツツ
111	SA-01上層	壺	352	—	—	ハケ	—	粗縫跡多量	ややあまい	淡褐色—淡褐色	淡褐色—淡褐色	両面: マツツ
112	SA-01上層	壺	258	94	282	工具ナデ	工具ナデ	粗縫跡多量	ややあまい	淡褐色—淡褐色	淡褐色—淡褐色	両面: マツツ
113	SA-01	壺	196	68×72	222	ハケ・工具ナデ	ハケ・工具ナデ	粗縫跡やや多い	良	淡褐色—暗茶褐色	黑褐色	底面: 不規則凹形
654590	SA-01	壺	—	—	—	ハケ・工具ナデ	ハケ・工具ナデ	粗縫跡やや多い 内面少	良	淡褐色—淡褐色 底面: 黑褐色	底面: 黑褐色	
114	SA-01	壺	—	—	—	ハケ・工具ナデ	ハケ・工具ナデ	粗縫跡やや多い 内面少	良	淡褐色—淡褐色	底面: 黑褐色	
115	SA-01	壺	330-370	—	334	丁字ナデ・直角丁字ナデ・直角丁字ナデ	丁字ナデ・直角丁字ナデ・直角丁字ナデ	粗縫跡 小縫少	良	淡褐色—淡茶褐色	淡褐色—淡褐色	
654707	SA-01	壺	313	—	—	ハケ・工具ナデ	工具ナデ	粗縫跡やや多い	ややあまい	淡褐色—灰褐色	淡褐色—灰褐色	両面: マツツ
116	SA-01	壺	333	84	309	工具ナデ	ナデ・工具ナデ	粗縫跡やや多い 内面少	ややあまい	淡褐色—淡褐色	暗茶褐色—暗茶褐色	両面: マツツ
117	SA-01	壺	—	—	—	ナデ・工具ナデ	工具ナデ	粗縫跡やや多い 内面少	ややあまい	淡褐色—淡褐色	暗茶褐色—暗茶褐色	両面: マツツ 内面: オコゲ
118	SA-01	壺	—	—	—	ナデ・工具ナデ	工具ナデ	粗縫跡少量	良	淡褐色—淡黒褐色	淡褐色	
119	SA-01	壺	—	—	—	工具ナデ	工具ナデ	粗縫跡少 内面少	良	淡褐色—暗茶褐色	暗褐色—淡褐色	
120	SA-01	壺	247	—	—	ハケ・工具ナデ	ハケ・工具ナデ	粗縫跡やや多い	良	淡褐色—淡褐色	淡褐色—灰褐色	
121	SA-01	壺	—	—	—	ハケ	工具ナデ	粗縫跡やや多い 内面少	良	淡褐色—暗茶褐色	淡褐色—暗茶褐色	内面: マツツ
122	SA-01	壺	254	—	—	ハケ・工具ナデ	工具ナデ・ナデ	粗縫跡やや多い 内面少	良	淡褐色—灰褐色	暗茶褐色—灰褐色	内面: マツツ
654708	SA-01	壺	388	—	—	工具ナデ	—	粗縫跡やや多い	ややあまい	淡褐色—茶褐色	淡褐色	内面: マツツ
123	SA-01	壺	199	—	—	—	ナデ	粗縫跡やや多い 内面少	ややあまい	淡褐色—暗茶褐色	暗褐色—茶褐色	外表面: マツツ
124	SA-01	壺	219	—	—	ナデ・ハケ	ナデ・工具ナデ	粗縫跡やや多い 内面少	ややあまい	淡褐色	淡褐色—暗茶褐色	外表面: マツツ
125	SA-01	壺	247	—	—	ハケ・工具ナデ	丁字ナデ・工具ナデ	粗縫跡やや多い 内面少	ややあまい	淡褐色—暗茶褐色	暗茶褐色—暗茶褐色	外表面: マツツ
126	SA-01	壺	282	—	—	ハケ・工具ナデ	ハケ・工具ナデ	粗縫跡やや多い 内面少	ややあまい	淡褐色—暗茶褐色	淡褐色—暗茶褐色	外表面: マツツ
127	SA-01	壺	—	—	—	工具ナデ・ハケ	ハケ	粗縫跡やや多い	良	淡褐色—灰褐色	淡褐色—灰褐色	
128	SA-01	壺	—	—	—	工具ナデ・ハケ	ハケ	粗縫跡やや多い	良	淡褐色—茶褐色	淡褐色—茶褐色	
129	SA-01	壺	265	—	—	工具ナデ	工具ナデ	粗縫跡やや多い 内面少	ややあまい	黄褐色—淡褐色	淡褐色—淡褐色	外表面: マツツ
130	SA-01	壺	—	—	—	ナデ・工具ナデ	ナデ・工具ナデ	粗縫跡 内面少	良	灰褐色—茶褐色	茶褐色—淡茶褐色	
654709	SA-01	壺	283	—	—	ハケ	ナデ・工具ナデ	粗縫跡やや多い 内面少	良	淡褐色—暗茶褐色	淡褐色—暗茶褐色	
131	SA-01	壺	—	—	—	ハケ	工具ナデ	粗縫跡少	良	淡褐色—暗茶褐色	暗茶褐色—灰褐色	
132	SA-01	壺	278	—	—	ハケ・工具ナデ	ハケ	粗縫跡やや多い 内面少	ややあまい	暗茶褐色	暗茶褐色	
133	SA-01	壺	270	—	—	ハケ・工具ナデ	ハケ	粗縫跡やや多い 内面少	ややあまい	淡褐色—暗茶褐色	暗茶褐色	内面: マツツ
134	SA-01	壺	—	—	—	粗工具ナデ	粗工具ナデ	粗縫跡少	良	淡褐色—暗茶褐色	暗茶褐色—暗茶褐色	
135	SA-01	壺	—	—	—	ハケ	ハケ・工具ナデ	粗縫跡少 内面少	良	淡褐色—暗茶褐色	暗茶褐色—暗茶褐色	外表面: ややマツツ
136	SA-01	壺	—	80	—	工具ナデ	工具ナデ	粗縫跡少 内面少	ややあまい	淡褐色—淡褐色	淡褐色—暗茶褐色	
137	SA-01	壺	—	—	—	タケキ	丁字工具ナデ	粗縫跡少 内面少	良	不褪褐色—暗茶褐色	暗茶褐色—暗茶褐色	
654710	SA-01	壺	129	—	325	ナデ・ハケ	ハケ	粗縫跡やや多い	ややあまい	淡褐色—暗茶褐色	淡褐色—暗茶褐色	口面: 不透視 側面: マツツ

表12 SA-01出土遺物觀察表(2)

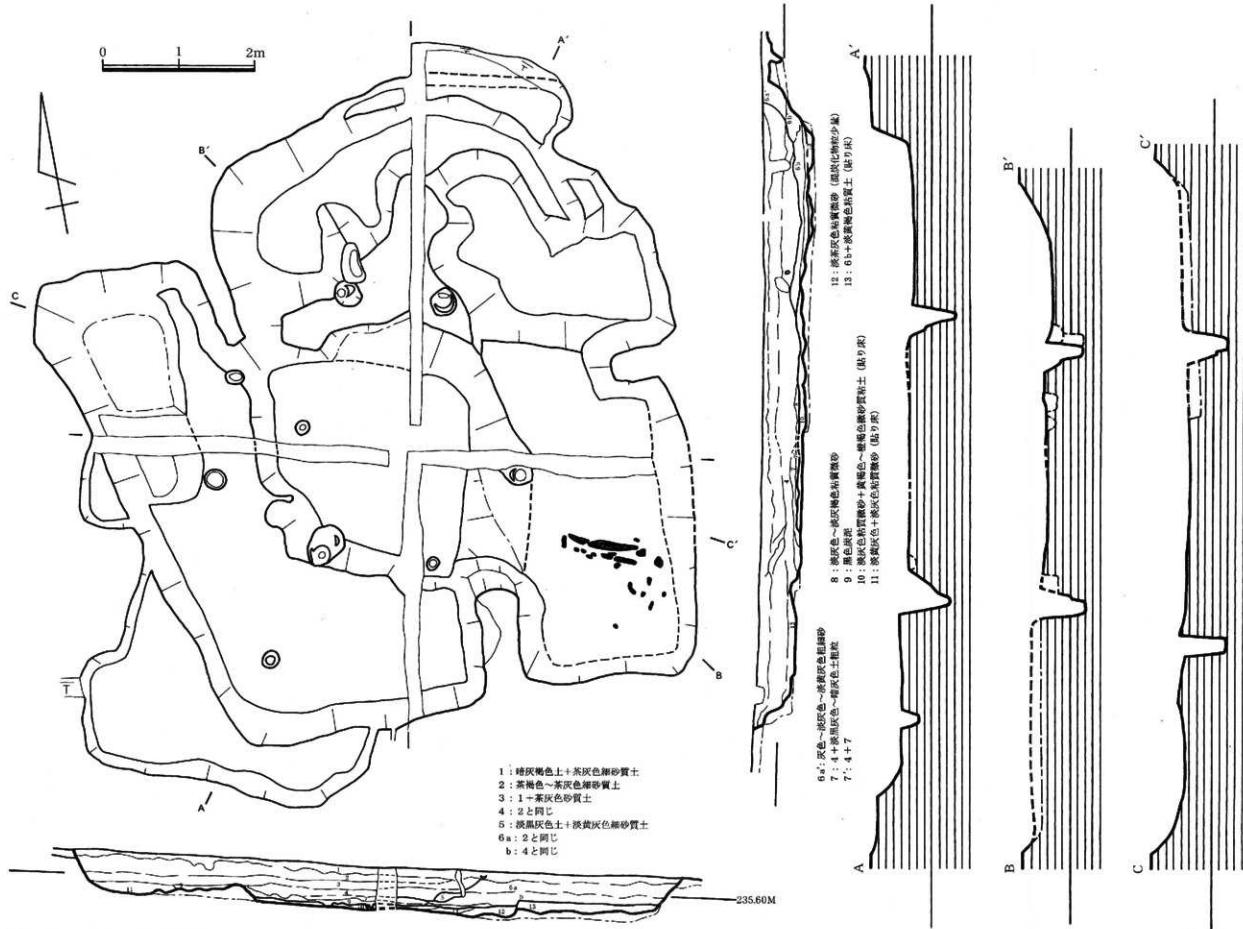
No	出土地	器種	法量(cm)			調査		施土	被皮	色調		備考
			口径	底径	高さ	外面	内面			外面	内面	
139	SA-01	壺	146	—	387	工具ナダ+ハケ	工具ナダ	細繊砂少量	ややあまい	淡青白~青白	淡青白~青白	外側: 緑灰、内側: マメツ
140	SA-01	壺	200	—	—	ナダ	工具ナダ	粗繊砂少量	良	淡青白	茶褐	外側: かなり剥落
141	SA-01上層	壺	103	—	—	ナダ	ナダ+工具ナダ	粗繊砂少量	ややあまい	淡灰~灰褐色	茶褐	外側: マメツ
142	SA-01	壺	100×104	—	—	工具ナダ	工具ナダ+ナダ	粗繊砂や多い	ややあまい	淡黄灰~淡青白	淡青白~淡灰	外側: かなり剥落
143	SA-01	小型丸底壺	—	—	—	ミガキ	ミガキ+工具ナダ	微細砂很多	ややあまい	灰褐色~灰褐色	灰褐色~灰褐色	外側: マメツ
144	SA-01	小型丸底壺	119	—	151	ハケ+ミガキ	ハケ	無色透明白や多い	ややあまい	淡青白~灰褐色	淡青白~灰褐色	外側: マメツ
145	SA-01	壺	—	—	—	ハケ+手磨き	工具ナダ+ナダ	無色透明白や多い	ややあまい	淡青白~灰褐色	褐色~灰褐色	外側: かなり剥落
146	SA-01	壺	102	—	245	ナダ+工具ナダ	粗繊砂多量	ややあまい	褐色~灰褐色	淡青白~灰褐色	褐色~灰褐色	外側: マメツ
147	SA-01	壺	—	—	—	工具ナダ	工具ナダ	粗繊砂少量	良	淡青白~淡青白	茶褐	外側: マメツ
148	SA-01	壺	—	—	260	粗工具ナダ+工具ナダ	ナダ	粗繊砂少量	良	淡青白~淡青白	茶褐	外側: マメツ
149	SA-01	壺	249×322	58×66	121	工具ナダ	—	粗繊砂多量	ややあまい	淡青白~淡青白	茶褐	外側: マメツ
150	SA-01	壺	—	71	—	工具ナダ	—	粗繊砂多量	良	淡青白~淡青白	茶褐	外側: マメツ
151	SA-01	小型鉢	164	—	96	粗工具ナダ	工具ナダ+ナダ	粗繊砂少量	良	淡青白~淡青白	茶褐	外側: マメツ
152	SA-01	小型鉢	128	—	—	ハケ+ミガキ	ハケ	粗繊砂少量	良	淡青白~淡青白	茶褐	外側: マメツ
153	SA-01	高坏	222	—	—	工具ナダ	工具ナダ+手磨き+ミガキ	粗繊砂少量	ややあまい	茶褐~淡青白	茶褐	外側: マメツ
154	SA-01	壺	—	58×62	—	工具ナダ	—	粗繊砂少量	ややあまい	淡青白~淡青白	茶褐	外側: マメツ
155	SA-01	壺	—	81	—	工具ナダ	工具ナダ	粗繊砂や多い	ややあまい	黃褐色~灰褐色	褐色	内側: 刻画
156	SA-01	壺	—	70	—	工具ナダ	—	粗繊砂や多い	良	淡青白~淡青白	褐色	内側: 刻画
157	SA-01	壺	—	68	—	粗工具ナダ	粗工具ナダ	粗繊砂や多い	良	淡青白~淡青白	褐色~灰褐色	外側: マメツ
158	SA-01	壺	—	100	—	工具ナダ	工具ナダ	粗繊砂や多い	良	褐色~淡青白	褐色~淡青白	内側: マメツ
159	SA-01	壺	—	87	—	工具ナダ	工具ナダ	粗繊砂少量	良好	淡青白~淡青白	褐色~灰褐色	内側: マメツ
160	SA-01	壺	—	97	—	ナダ	工具ナダ	粗繊砂少量	ややあまい	淡青白~淡青白	褐色~灰褐色	内側: マメツ
161	SA-01	壺	—	83	—	工具ナダ	工具ナダ	粗繊砂や多い	ややあまい	褐色~灰褐色	褐色~灰褐色	内側: マメツ
162	SA-01	壺	—	77	—	粗工具ナダ	工具ナダ	粗繊砂や多い	良	茶褐~淡青白	褐色~灰褐色	内側: マメツ
163	SA-01	壺	—	74	—	工具ナダ	工具ナダ	粗繊砂少量	良	褐色~淡青白	褐色~淡青白	内側: マメツ
164	SA-01	壺	—	72	—	工具ナダ	工具ナダ	粗繊砂少量	ややあまい	淡青白~淡青白	褐色~淡青白	内側: マメツ
165	SA-01	壺	—	85	—	工具ナダ	ナダ+ミガキ	粗繊砂多量	良	淡青白~淡青白	褐色~灰褐色	内側: マメツ
166	SA-01	壺	—	84	—	工具ナダ	工具ナダ	粗繊砂や多い	良	褐色~灰褐色	褐色~灰褐色	内側: マメツ
167	SA-01	壺	—	78	—	工具ナダ+ナダ	工具ナダ+ナダ	粗繊砂少量	良	淡青白~淡青白	褐色~灰褐色	内側: マメツ
168	SA-01	壺	—	94	—	工具ナダ	工具ナダ	粗繊砂や多い	良	淡青白~淡青白	褐色~灰褐色	内側: ゴケ、剥落
169	SA-01	台付鉢	—	(93)	—	工具ナダ	半ミガキ	粗繊砂少量	ややあまい	淡青白~淡青白	褐色~灰褐色	内側: ゴケ、剥落
170	SA-01	台付鉢	—	66	—	粗工具ナダ	工具ナダ	粗繊砂少量	ややあまい	褐色~灰褐色	褐色~灰褐色	内側: ゴケ、剥落
171	SA-01	壺	—	—	—	工具ナダ	工具ナダ	粗繊砂や多い	ややあまい	淡青白~淡青白	褐色~灰褐色	内側: ゴケ、剥落

表13 SA-02出土遺物觀察表(1)

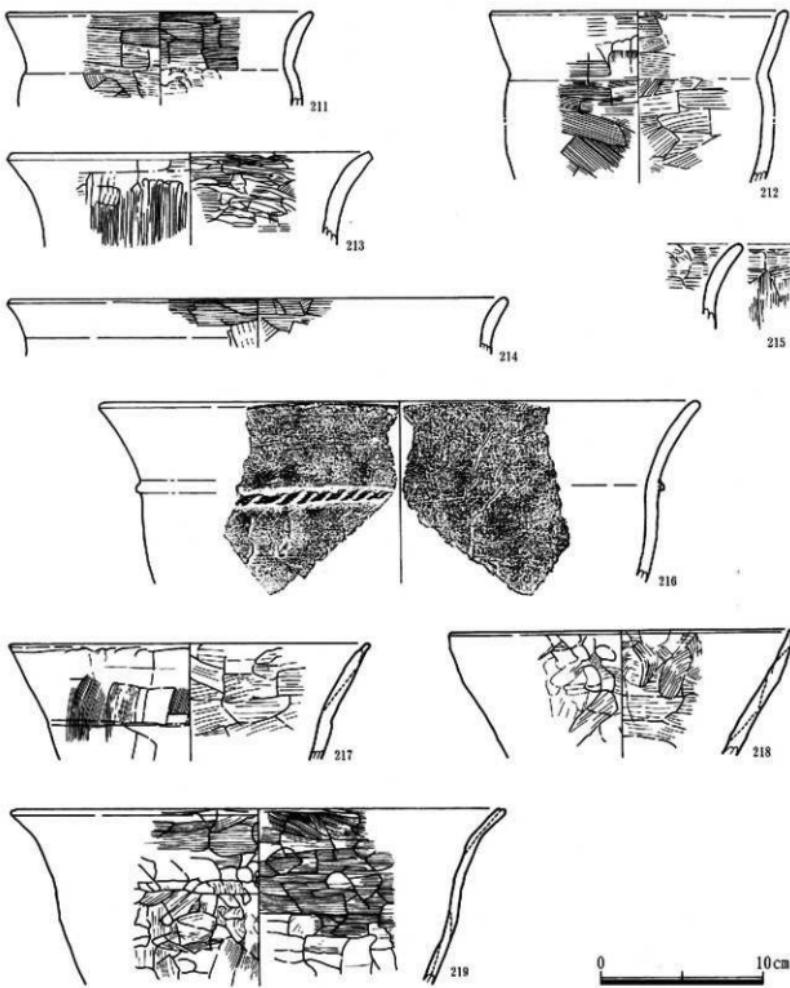
No	出土地	器種	法量(cm)			調査		施土	被皮	色調		備考
			口径	底径	高さ	外面	内面			外面	内面	
172	SA-02	壺	—	—	—	ナダ	ナダ	粗繊砂少量	ややあまい	暗茶褐色~淡青白	淡青白	内側: マメツ
173	SA-02	壺	—	—	—	ナダ+ハケ	ハケ	粗繊砂少量	良	淡青白	茶褐	内側: 淡青白
174	SA-02	壺	—	—	—	粗工具ナダ	工具ナダ	粗繊砂少量	良	茶褐	茶褐	内側: 淡青白
175	SA-02	壺	204	—	—	ハケ+工具ナダ	工具ナダ	微細砂少量	良	茶褐	茶褐	内側: ややマメツ
176	SA-02	壺	—	—	—	ナダ	ハケ	粗繊砂少量	良	茶褐	茶褐	外側: ややマメツ
177	SA-02	壺	—	—	—	工具ナダ	工具ナダ	粗繊砂少量	良	茶褐	茶褐	内側: ややマメツ
178	SA-02	壺	—	—	—	ハケ	ハケ	粗繊砂少量	良	茶褐	茶褐	内側: ややマメツ
179	SA-02	壺	—	—	—	ナダ	工具ナダ	粗繊砂や多い	良	淡橙~茶褐色	茶褐色~茶褐色	内側: ややマメツ
180	SA-02	壺	—	—	—	工具ナダ+ハケ	工具ナダ+ハケ	粗繊砂少量	良	茶褐~淡青白	茶褐色~淡青白	内側: ややマメツ
181	SA-02	壺	-305	—	—	ナダ	ナダ	粗繊砂多量	ややあまい	褐色~淡青白	褐色~褐色	器皿剥落
182	SA-02	壺	180	—	—	ハケ+ミガキ	ハケ+工具ナダ	粗繊砂少量	良	褐色~茶褐色	褐色~茶褐色	内側: ややマメツ
183	SA-02	壺	161	—	—	工具ナダ	工具ナダ	粗繊砂少量	ややあまい	褐色~茶褐色	褐色~茶褐色	内側: ややマメツ
184	SA-02	壺	—	—	—	工具ナダ	工具ナダ	粗繊砂少量	良	淡青白~淡青白	褐色~淡青白	内側: ややマメツ
185	SA-02	壺	—	—	—	ハケ	工具ナダ	粗繊砂少量	良	淡青白~淡青白	褐色~茶褐色	内側: ややマメツ



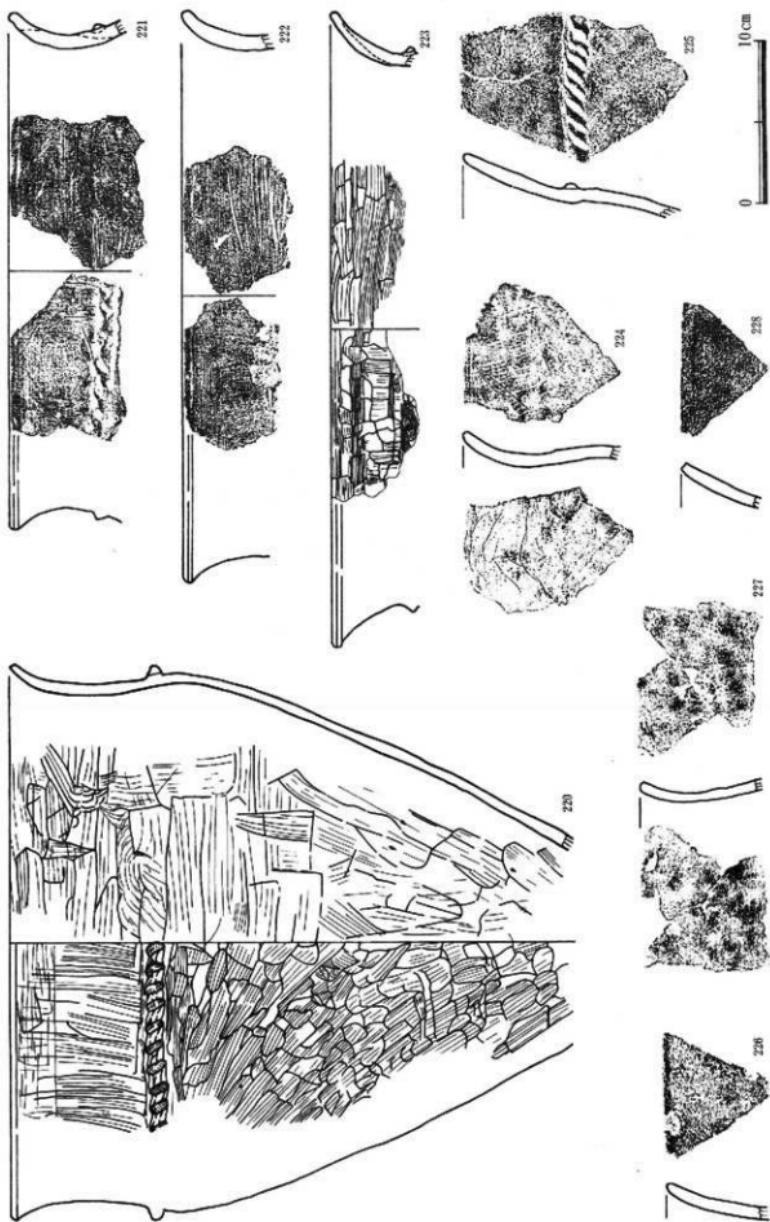
第56図 SA-03 出土遺物実測図



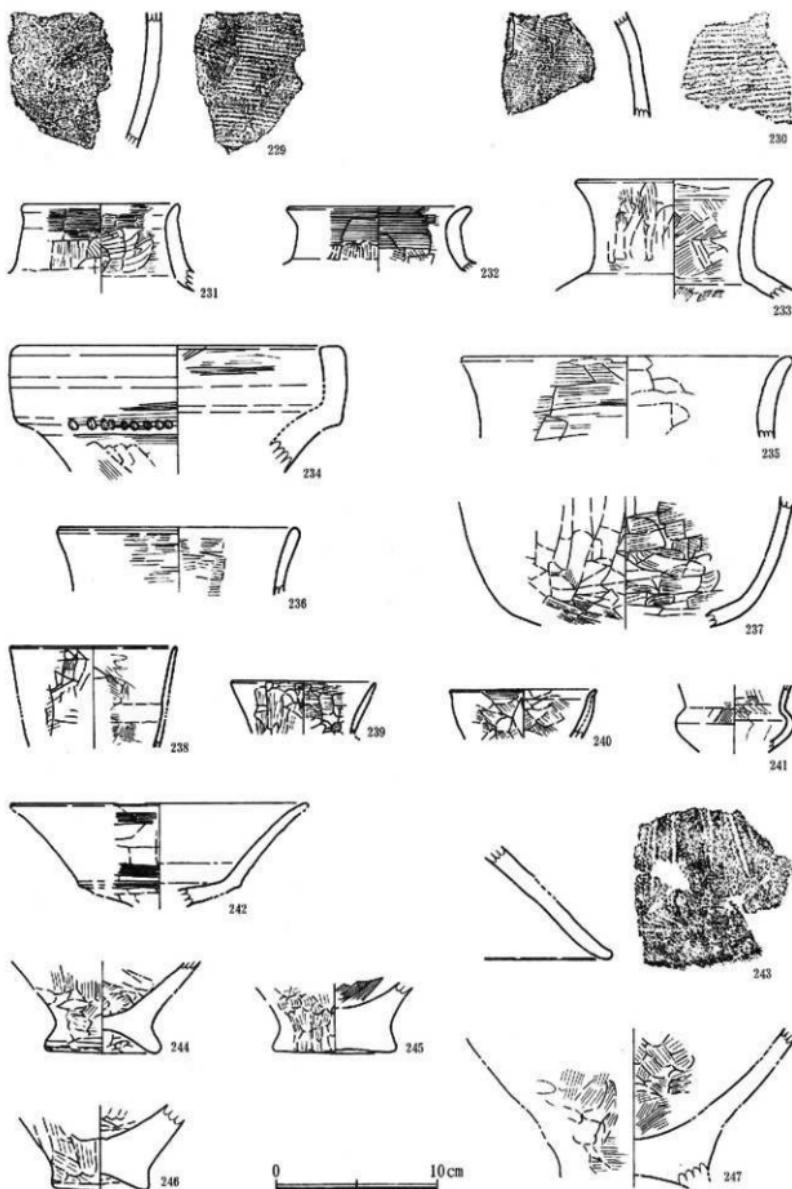
第57図 SA-04 遺構実測図



第58図 SA-04 出土遺物実測図



第59図 SA-04 出土遺物実測図 (2)



第60図 S A-04 出土遺物実測図 (3)

表14 S A-02出土遺物観察表(2)

No	出土地	器種	法量(mm)			調査		焼成	色調		備考
			口径	底径	高さ	外面	内面		外面	内面	
第54回 186	S A-02	甕	—	82	—	工具ナデ	ナデ	良	淡黄一淡黄褐色	暗茶褐一深褐	
第55回 187	S A-02	高壺	—	177	—	丁寧工具ナデ	ナデ・工具ナデ	良	淡黃褐色	淡褐一黒褐色	焼成前穿孔あり
188	S A-02	小型鉢	118	—	77	工具ナデ	工具ナデ	ややあまい	淡黃褐色	淡褐一黒褐色	
189	S A-02	小型丸壺	81	—	109	—	ナデ	微細砂少量	ややあまい	淡黃褐色	外観: マメツ
190	S A-02	小鉢	53	—	—	粗工具ナデ	粗工具ナデ	良	淡褐色	淡褐色	
191	S A-02	鉢	—	—	—	粗工具ナデ	工具ナデ	良	淡褐色	淡褐色	
192	S A-02	小型鉢	—	—	—	粗工具ナデ	工具ナデ	良	淡褐色	淡褐色	
193	S A-02	小陶丸壺	—	—	—	—	—	微細砂や多い 素面色少量	ややあまい	黄褐色一深褐色	淡黑褐色一深褐色
194	S A-02	壺	—	—	—	半ミガキ	工具ナデ	良	淡褐色	淡褐色	外観: マメツ
195	S A-02	壺	—	—	—	半ミガキ 工具ナデ	ナデ	良	暗茶褐色	暗茶褐色	
196	S A-02・03	小型丸壺	—	—	—	丁寧ハケ	丁寧ナデ	良	淡褐色	淡褐色	外観: 淡灰青

表15 S A-03出土遺物観察表

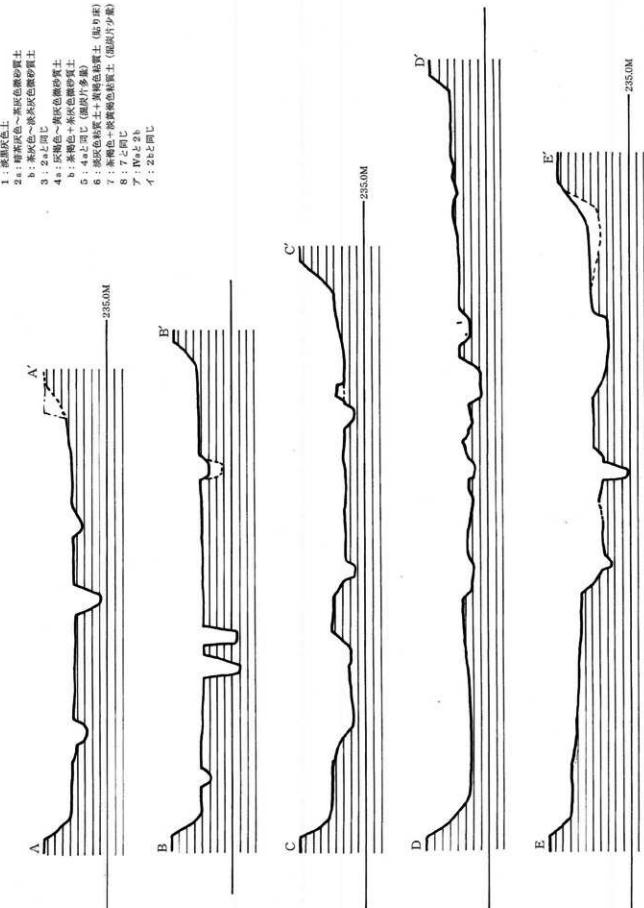
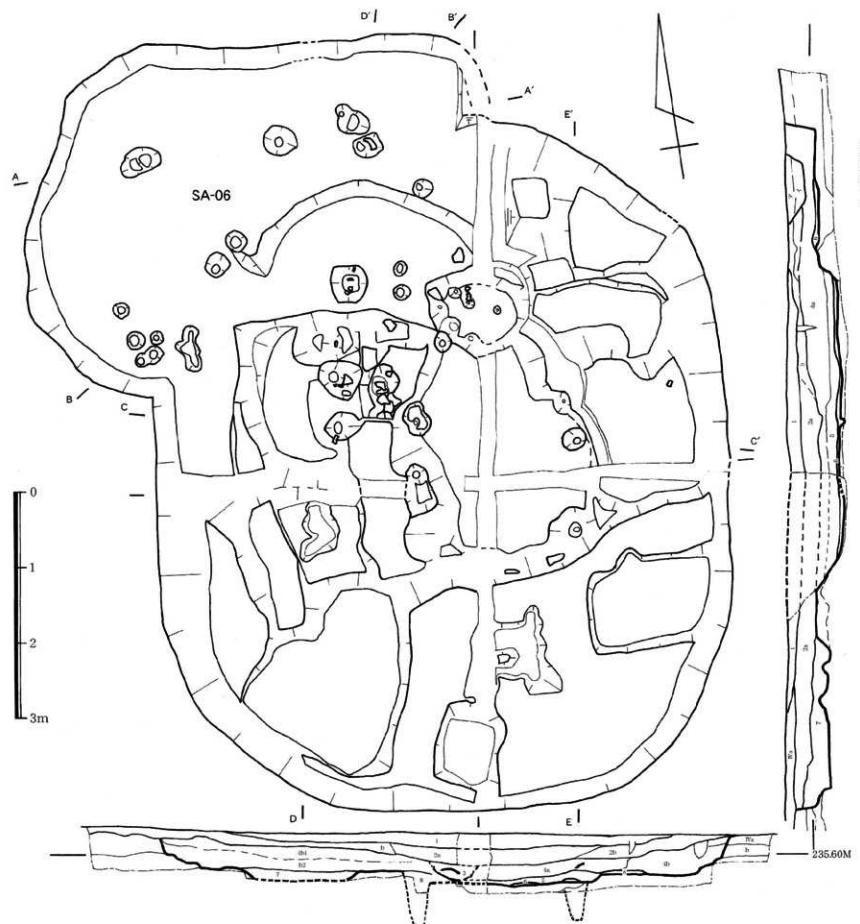
No	出土地	器種	法量(mm)			調査		焼成	色調		備考
			口径	底径	高さ	外面	内面		外面	内面	
第56回 197	S A-03	甕	—	—	—	ナデ・ハケ	工具ナデ→ナデ	良	淡褐色一淡灰褐色	淡褐色	
198	S A-03	甕	—	—	—	ナデ・工具ナデ	工具ナデ	良	暗茶褐色一茶褐色	淡褐色一深褐色	
199	S A-03	甕	221	—	—	工具ナデ	丁寧工具ナデ (半ミガキ)	良	淡褐色一深褐色	淡褐色	
200	S A-03	甕	220	—	—	ハケ	粗工具ナデ	ナデ	淡褐色一深褐色	淡褐色一深褐色	
201	S A-03	甕	288	—	—	—	—	—	ややあまい	淡褐色一深褐色	表面: マメツ
202	S A-03	甕	—	—	—	ハケ	工具ナデ	良	茶褐色一淡褐色	淡褐色一褐色	
203	S A-03	甕	—	82	—	—	—	微細砂少量	ややあまい	微細砂少量	表面: マメツ
204	S A-03	甕	—	75	—	工具ナデ	工具ナデ	良	淡褐色一淡灰褐色	淡褐色	
205	S A-03	甕	—	69	—	工具ナデ・ナデ	工具ナデ	良	淡褐色一深褐色	淡褐色一深褐色	
206	S A-03	甕	—	73	—	—	ハケ	微細砂少量	ややあまい	淡褐色一深褐色	表面: マメツ
207	S A-03	内付鉢	—	71	—	工具ナデ	半ミガキ	良	茶褐色一淡褐色	茶褐色一深褐色	内面: マメツ
208	S A-03	甕	117	—	—	工具ナデ	工具ナデ	良	青褐色一淡青褐色	淡褐色	
209	S A-03	高壺	238	—	—	ハケ	粗工具ナデ	半ミガキ	良	茶褐色一深茶褐色	茶褐色一深茶褐色
210	S A-03	高壺	—	—	—	粗工具ナデ	半ミガキ	良	褐色一暗褐色	淡褐色	

S A-05 (第61図) 調査区の中央南東寄りに位置した、南北9.04m・東西7.51mの楕円形を呈する竪穴住居である。北西部は06号住居を切っている。中央部は1段(20~30cm)下がり、貼り床が施される。主柱穴は、2.1mの間隔で52~75cmの深さを測る柱穴2本である。他の柱穴は浅い。

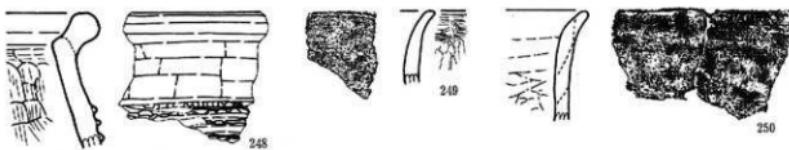
出土遺物はやや多く出土した(第62~64図)が、完形品は258の甕1点である。弥生時代後期~終末の遺物が多いが、276・277の丸底からみると、布留式期として考えられる。土器以外では台石1点(721)が出土している。

S A-06 (第61図) 遺構検出時においては、長径3.2~3.4m・短径4.6mの楕円形に近い竪穴住居の様であったが、南東部の半円形の一段低い部分の底面には、泥化炭化物が広がっており、原型を円形として想定すると、05号住居の大部分に重複していたことになる。主柱穴は不明であるが、直径20~30cm・深さ38~48cmの小pitが散在する。

出土遺物は少なく(第65図)、289の弥生土器は混入で、290の小型甕が年代を示すものであり、弥生時代後期半頃と思われる。



第61図 SA-05・06 遺構実測図



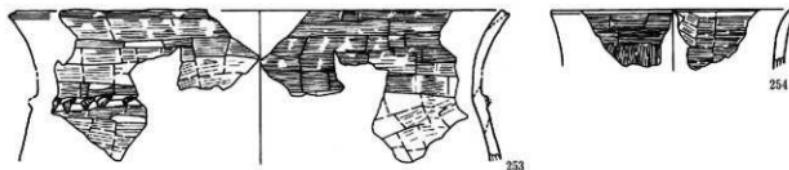
249

250



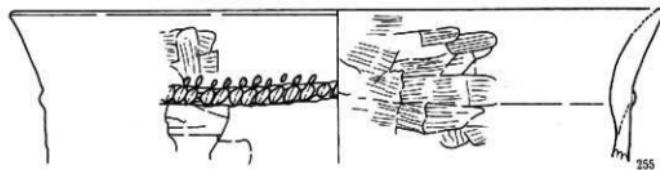
251

252

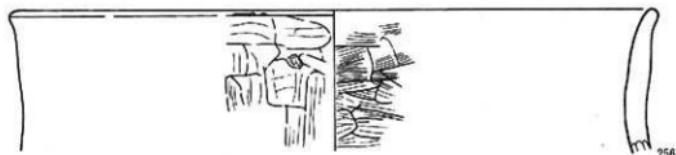


253

254



255



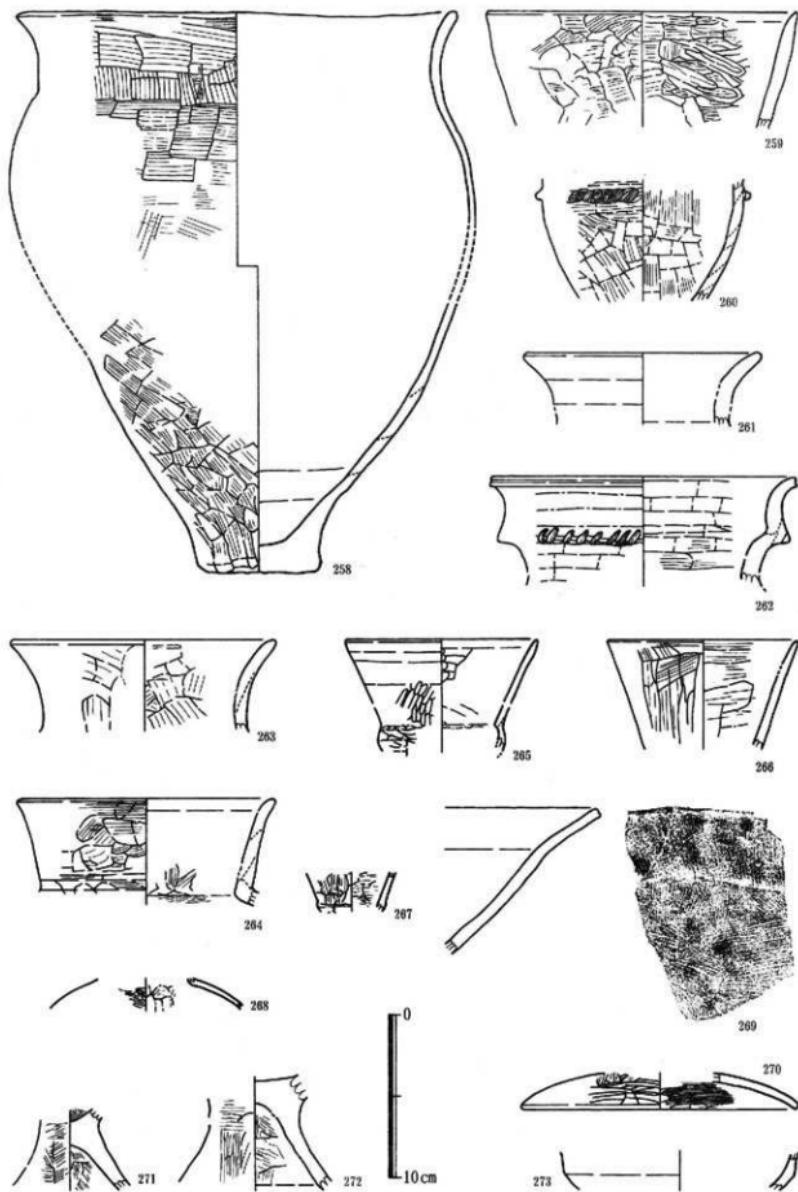
256



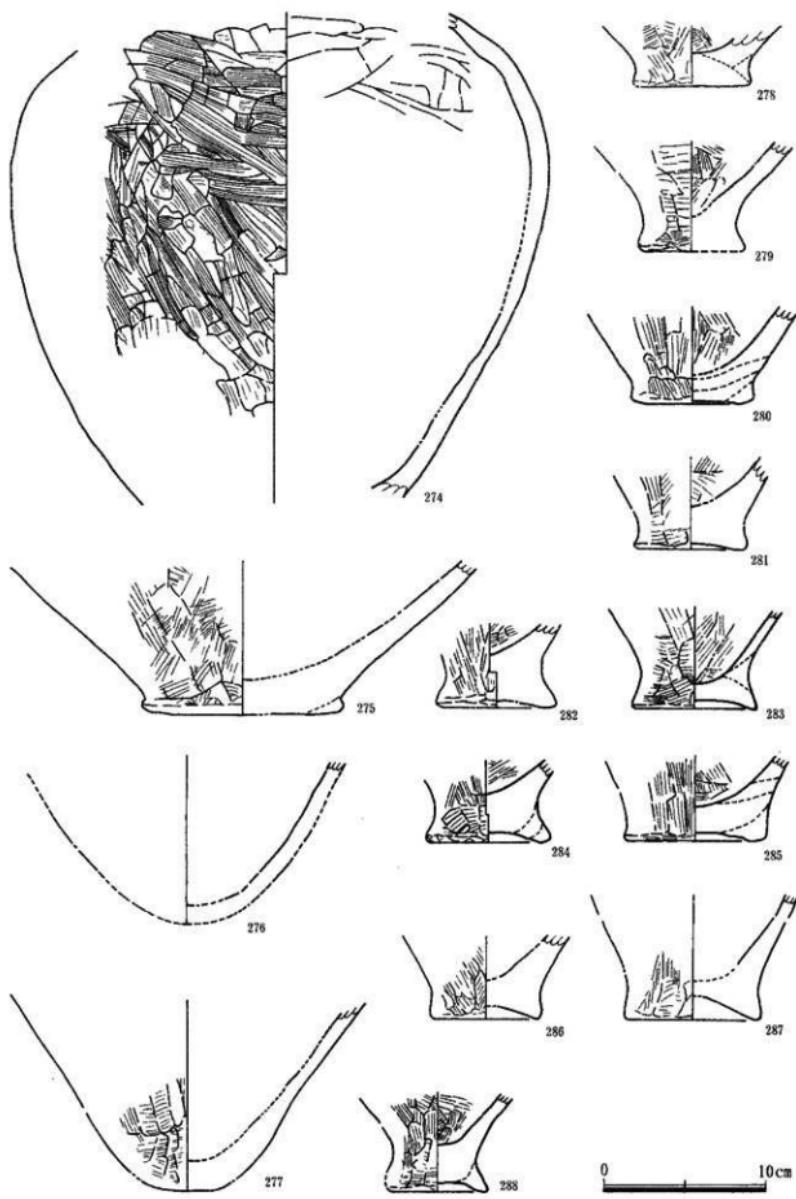
257

0 10 cm

第62図 S A -05 出土遺物実測図 (1)



第63図 S A - 05 出土遺物実測図 (2)



第64図 S A-05 出土遺物実測図（3）

表16 S A-04出土遺物觀察表

No	出土地	器種	法量 (mm)			調査		地質	焼成	色調		備考
			口径	底径	高さ	外 面	内 面			外 国	内 国	
第58回 211	S A-04	甕	190	—	—	ハケ・ヨコハケ	ヨコハケ	微細砂少量	良	淡黄褐色	淡黃褐色~淡灰褐色	
212	S A-04	甕	184	—	—	ヨコハケ→ナメハケ	ヨコハケ→ナメ	粗緻砂や多い	良	淡褐色~暗灰褐色	淡褐色~淡灰褐色	
213	S A-04	甕	226	—	—	チテナメ→ナメ	ヨコハケ	粗緻砂少量	良好	淡茶褐色~暗褐色	淡茶褐色~暗褐色	内面: コゲ
214	S A-04	甕	310	—	—	ヨコハケ→ナメハケ	ヨコハケ	粗緻砂少量	良好	茶褐色~暗褐色	暗灰褐色~暗褐色	
215	S A-04	甕	—	—	—	ハケ	二具ナメ	微砂少量	良	淡灰褐色	褐色~淡灰褐色	
216	S A-04	甕	372	—	—	ヨコハケ→ナメハケ	ヨコハケ	粗緻砂少量	良	褐色~淡灰褐色	淡茶褐色~暗褐色	
217	S A-04	甕	223	—	—	ハケ	二具ナメ	粗緻砂少量	ややあまい	淡褐色~淡灰褐色	淡褐色~暗褐色	
218	S A-04	鉢	212	—	—	粗工具ナメ	粗工具ナメ	粗緻砂多量	良	淡褐色~淡灰褐色	淡褐色~淡灰褐色	
219	S A-04	甕	305	—	—	ハケ→ノムナメ	ハケ工具ナメ	粗緻砂少量	良	褐灰	灰褐色~灰褐色	
第59回 220	S A-04	甕	342	—	—	ヨコハケ→ナメハケ	ヨコハケ	粗緻砂や多い	良	淡褐色~茶褐色	淡褐色~茶褐色	
221	S A-04	甕	320	—	—	ナメ	ハケ工具ナメ	粗緻砂少量	良	褐色~暗茶褐色	淡茶褐色~淡灰褐色	
222	S A-04	甕	355	—	—	ヨコハケ→ナメハケ	ヨコハケ	粗緻砂や多い	良	茶褐色~淡褐色	淡褐色~淡褐色	
223	S A-04	甕	392	—	—	ハケ	ハケ	粗緻砂や多い	良	褐色~灰褐色	褐色~灰褐色	
224	S A-04	甕	—	—	—	ヨコハケ→粗工具ナメ	ヨコハケ	粗緻砂少量	良好	茶褐色~黑褐色	褐色~茶褐色	
225	S A-04	甕	—	—	—	ナメ工具ナメ	工具ナメ	粗緻砂少量	良	素褐色~暗茶褐色	淡褐色~淡灰褐色	
226	S A-04	甕	—	—	—	工具ナメ	ハケ	粗緻砂少量	良	暗茶褐色	淡褐色~淡褐色	
227	S A-04	甕	—	—	—	ヨコハケ→ナメハケ	ヨコハケ	粗緻砂や多い	良	淡茶褐色~暗茶褐色	淡褐色~暗茶褐色	
228	S A-04	甕	—	—	—	ヨコハケ	工具ナメ	粗緻砂少量	良	暗茶褐色~暗褐色	褐色~灰褐色	
第60回 229	S A-04	甕	—	—	—	チテナメ→ナメハケ	—	粗緻砂少量	良好	淡褐色~褐灰色	暗褐色~淡褐色	内面: マメツ
230	S A-04	甕	—	—	—	ナメハケ	ヨコハケ	粗緻砂・角閃石少量	良好	黑色	褐色~淡褐色	
231	S A-04	甕	98	—	—	ナメ工具ナメ	工具ナメ	粗緻砂少量	良	素褐色~暗茶褐色	淡褐色~淡灰褐色	
232	S A-04	甕	115	—	—	ナメハケ	ナメ工具ナメ	赤褐色斑点少量	良	淡褐色~暗褐色	褐色~暗褐色	
233	S A-04	甕	122	—	—	工具ナメ	工具ナメ	粗緻砂少量	良	褐色~淡褐色	褐色~淡褐色	外側: マメツ
234	S A-04	甕	206	—	—	ハケ・ナメ	工具ナメ	粗緻砂少量	良	淡褐色~淡褐色	褐色~淡褐色	
235	S A-04	甕	204	—	—	ハケ	ナメ工具ナメ	粗緻砂や多い	良	淡褐色~淡褐色	褐色~灰褐色	
236	S A-04	甕	150	—	—	工具ナメ	工具ナメ	角閃石少量	良	淡灰褐色	褐色~淡褐色	
237	S A-04	甕	—	—	—	工具ナメ	工具ナメ	粗緻砂少量	良	褐色~暗茶褐色	褐色~淡褐色	
238	S A-04	小型丸底甕	103	—	—	ミガキ	工具ナメ	粗緻砂少量	ややあまい	淡灰褐色~黑褐色	褐色~深褐色	外側: マメツ
239	S A-04	小型丸底甕	90	—	—	工具ナメ・ナメ	工具ナメ	微細砂微量	ややあまい	褐色~暗褐色	褐色~暗褐色	
240	S A-04	小型丸底甕	91	—	—	工具ナメ	ナメ工具ナメ	微細砂少量	良	淡褐色	褐色~淡褐色	
241	S A-04	甕	—	—	—	工具ナメ	工具ナメ	粗緻砂や多い	良	淡褐色~淡褐色	褐色~灰褐色	
242	S A-04	壺	183	—	—	ハケ→工具ナメ	工具ナメ・ナメ	粗緻砂少量	ややあまい	淡褐色~淡褐色	褐色~黑褐色	内面: マメツ
243	S A-04	甕	—	—	—	ナメ	ナメ	粗緻砂や多い	良	褐色~淡褐色	褐色~深褐色	口縁部: マメツ
244	S A-04	甕	—	—	—	ヨコハケ	ヨコハケ	粗緻砂少量	良	淡褐色~淡褐色	褐色~淡褐色	
245	S A-04	甕	—	—	—	粗工具ナメ	粗工具ナメ	粗緻砂少量	良	淡褐色~暗茶褐色	褐色~深褐色	
246	S A-04	甕	—	—	—	粗工具ナメ	工具ナメ	粗緻砂少量	良	褐色~灰褐色	褐色~灰褐色	
247	S A-04	甕	—	—	—	工具ナメ	工具ナメ・ハケ	粗緻砂や多い	ややあまい	褐色~灰褐色	褐色~灰褐色	外側: かなり剥落

表17 S A-05出土遺物觀察表 (1)

No	出土地	器種	法量 (mm)			調査		地質	焼成	色調		備考
			口径	底径	高さ	外 面	内 面			外 国	内 国	
第62回 248	S A-05	甕	—	—	—	半ミガキ	工具ナメ	微細砂多量	良	黑褐色~暗茶褐色	暗茶褐色~茶褐色	
249	S A-05	甕	—	—	—	ハケ→工具ナメ	工具ナメ	微細砂少量	良	淡褐色~暗茶褐色	暗茶褐色	
250	S A-05	甕	—	—	—	ハケ→工具ナメ	ナメ・工具ナメ	粗緻砂・粗緻砂少量	良	淡褐色~暗茶褐色	褐色~暗褐色	
251	S A-05	甕	212	—	—	ハケ	工具ナメ	粗緻砂や多い	ややあまい	淡褐色~茶褐色	茶褐色~淡褐色	
252	S A-05	甕	190	—	—	—	—	粗緻砂少量	ややあまい	茶褐色~暗褐色	褐色~深褐色	内面: マメツ
253	S A-05	甕	309	—	—	ヨコハケ	ハケ・工具ナメ	粗緻砂多量	良	淡褐色~暗褐色	褐色~深褐色	
254	S A-05	甕	151	—	—	ナメ	ナメ	粗緻砂少量	ややあまい	褐色~淡褐色	褐色~深褐色	
255	S A-05	甕	403	—	—	工具ナメ	工具ナメ	粗緻砂少量	良	褐色~灰褐色	褐色~灰褐色	内面: マメツ
256	S A-05	甕	400	—	—	工具ナメ	工具ナメ	粗緻砂少量	ややあまい	茶褐色~暗褐色	褐色~深褐色	
257	S A-05	甕	268	—	—	ヨコハケ→ナメハケ	ハケ	粗緻砂少量	良	褐色~灰褐色	褐色~深褐色	
第63回 258	S A-05	甕	279	76	347	ハケ→工具ナメ	工具ナメ	粗緻砂少量	ややあまい	褐色~灰褐色	褐色~深褐色	

表18 SA-05出土遺物観察表（2）

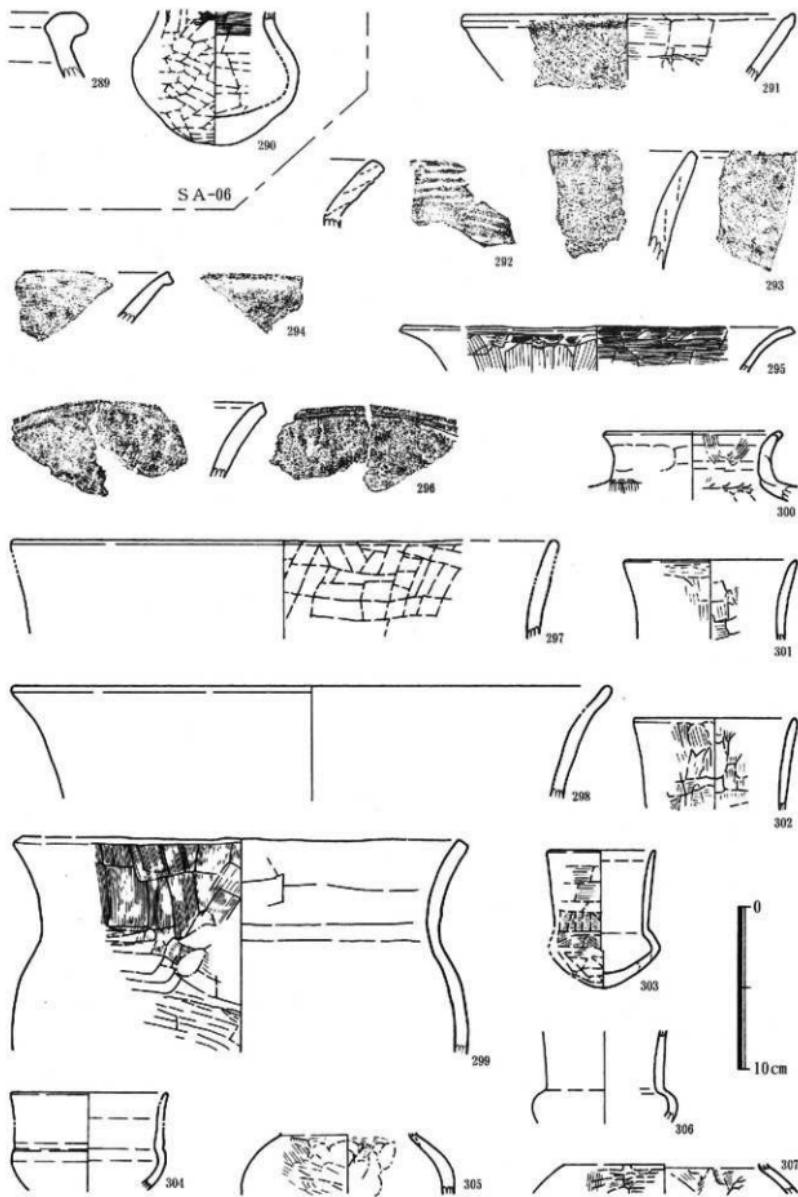
No	出土地	器種	法量 (mm)			調査		出土	焼成	色調		備考
			口径	底径	器高	外 面	内 面			外 面	内 面	
259	SA-05	甕	192	—	—	粗面砂少量 ナガ	粗面砂ナダ	燒過砂少量	良	淡黃褐色～茶褐色	淡黃褐色～淡黃褐色	表面：マメツ
260	SA-05	甕	—	—	—	ハケ～工具ナダ	工具ナダ	燒過砂少量	良	淡褐色～茶褐色	淡褐色～茶褐色	表面：マメツ
261	SA-05	甕	147	—	—	—	—	燒過砂や多い	ややあまい	黃褐色	黃褐色～茶褐色	表面：マメツ
262	SA-05	甕	191	—	—	ナゲ～工具ナダ	ナゲ～工具ナダ	燒過砂や多い	ややあまい	黃褐色～茶褐色	黃褐色～茶褐色	表面：マメツ
263	SA-05	甕	164	—	—	工具ナダ	工具ナダ	燒過砂や多い	ややあまい	燒過灰～茶褐色	燒過灰～茶褐色	表面：マメツ
264	SA-05	甕	158	—	—	ナゲ～工具ナダ	—	燒過砂や多い	ややあまい	燒褐色～淡褐色	燒褐色～淡褐色	表面：マメツ
265	SA-05	小口丸底甕	119	—	—	ミガキ	ハケ～ミガキ —工具ナダ	燒過砂较少量	ややあまい	淡灰褐色～淡褐色	淡灰褐色～淡褐色	表面：マメツ
266	SA-05	小型丸底甕	118	—	—	テキ半ミガキ	工具ナダ～ナダ	燒過砂少量	ややあまい	淡褐色～淡褐色	淡褐色～淡褐色	表面：マメツ
267	SA-05	坪	—	—	—	工具ナダ	工具ナダ	良	良	淡黃褐色～黑褐色	淡黃褐色～黑褐色	表面：マメツ
268	SA-05	小口丸底甕	—	—	—	ミガキ	工具ナダ～ナダ	良	あまい	淡灰褐色～灰褐色	淡灰褐色～灰褐色	表面：マメツ
269	SA-05	浅鉢	30~40	—	—	ハケ	工具ナダ	燒過砂や多い	良	系統～淡褐色	淡褐色～淡褐色	表面：マメツ
270	SA-05	高坏	172	—	—	ナゲ～半ミガキ	ハケ～工具ナダ	燒過砂微量	ややあまい	燒過灰～茶褐色	燒過灰～茶褐色	表面：マメツ
271	SA-05	高坏	—	—	—	工具ナダ～ナダ	工具ナダ	燒過砂や多い	良	茶～茶褐色	淡褐色	表面：マメツ
272	SA-05	高坏	—	—	—	工具ナダ	工具ナダ	燒過砂微量	ややあまい	淡黃褐色～淡褐色	淡褐色	表面：マメツ
273	SA-05	高坏坏	—	—	—	ハケ	—工具ナダ	燒過砂微量	ややあまい	燒褐色	燒褐色～黑褐色	表面：マメツ
274	SA-05	甕	—	—	—	ハケ～粗ナダ	工具ナダ	燒過砂微量	ややあまい	淡褐色～淡褐色	淡褐色～淡褐色	表面：マメツ
275	SA-05	甕	—	125	—	工具ナダ	—	燒過砂微量	ややあまい	燒褐色	燒褐色	表面：マメツ
276	SA-05	甕	—	—	—	—	—	燒過砂や多い	ややあまい	淡褐色～淡褐色	淡褐色～淡褐色	表面：マメツ
277	SA-05	甕	—	33	—	工具ナダ	半ミガキ	燒過砂微量	ややあまい	淡黃褐色～淡褐色	淡褐色	表面：マメツ
278	SA-05	甕	—	73	—	ハケ	ハケ	白燒過砂少量	ややあまい	燒褐色	燒褐色～黑褐色	表面：マメツ
279	SA-05	甕	—	56	—	工具ナダ	工具ナダ～ナダ	燒過砂微量	ややあまい	淡褐色～茶褐色	淡褐色～茶褐色	表面：マメツ
280	SA-05	甕	—	75	—	工具ナダ	工具ナダ	燒過砂微量	ややあまい	燒褐色～茶褐色	燒褐色～茶褐色	表面：マメツ
281	SA-05	甕	—	70	—	工具ナダ	工具ナダ	燒過砂や多い	ややあまい	淡褐色～淡褐色	淡褐色～淡褐色	表面：マメツ
282	SA-05	甕	—	73	—	ナゲ～半ミガキ	工具ナダ	燒過砂や多い	良	淡褐色～淡褐色	淡褐色～淡褐色	表面：マメツ
283	SA-05	甕	—	77	—	工具ナダ	ナダ～ナダ	燒過砂や多い	ややあまい	燒褐色～淡褐色	燒褐色～淡褐色	表面：マメツ
284	SA-05	甕	—	70~76	—	工具ナダ	—	燒過砂微量	良	淡褐色～淡褐色	淡褐色～淡褐色	表面：マメツ
285	SA-05	甕	—	87	—	工具ナダ	工具ナダ	燒過砂や多い	良	燒褐色～淡褐色	燒褐色～淡褐色	表面：マメツ
286	SA-05	甕	—	69	—	工具ナダ	—	燒過砂微量	良	茶褐色	茶褐色	表面：マメツ
287	SA-05	甕	—	85	—	—	—	燒過砂や多い	あまい	黃褐色	暗褐色～淡黃褐色	表面：マメツ
288	SA-05	甕	—	63	—	ハケ	工具ナダ	燒過砂や多い	ややあまい	燒褐色～茶褐色	燒褐色～茶褐色	表面：マメツ

表19 SA-06出土遺物観察表

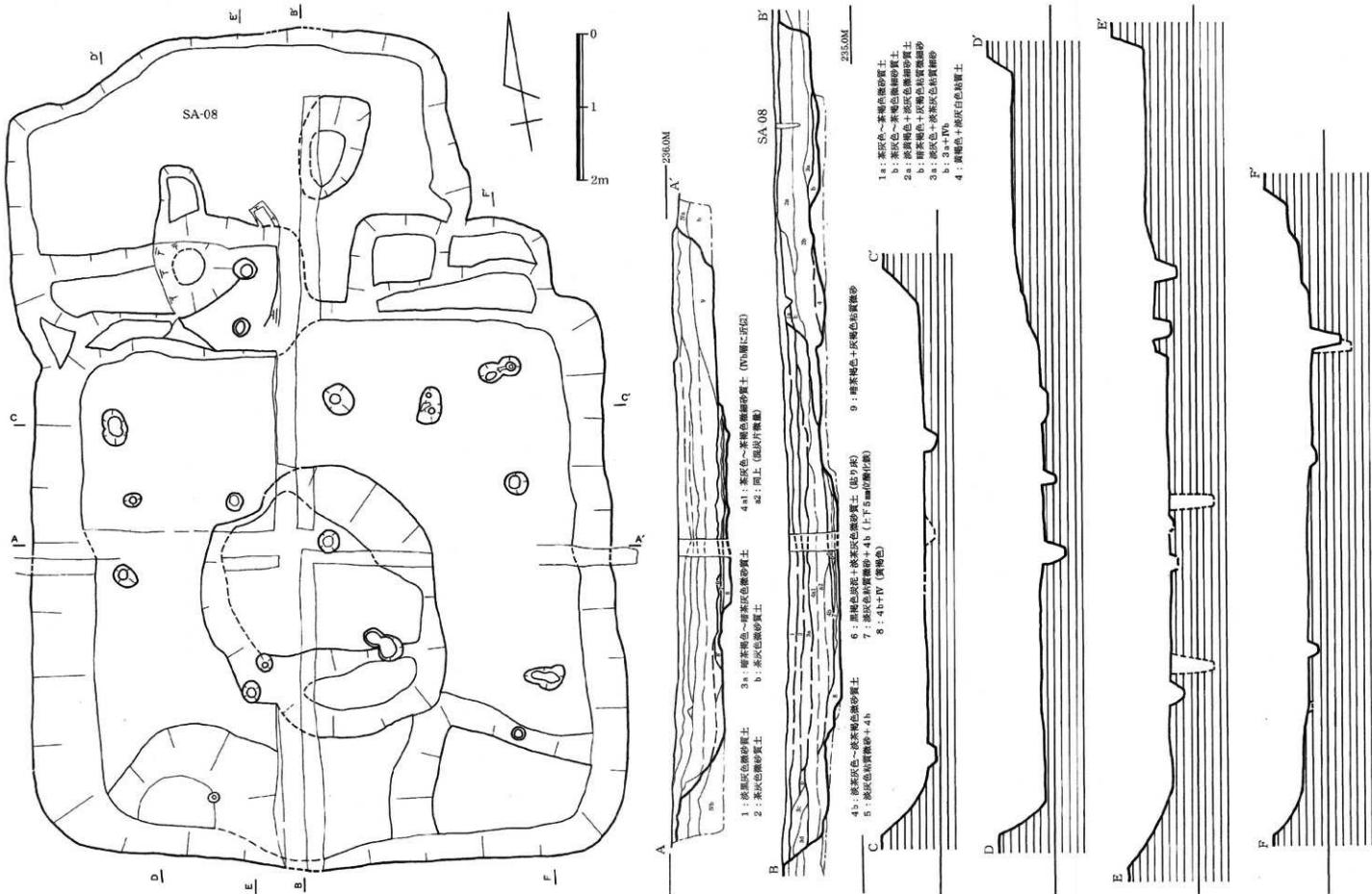
No	出土地	器種	法量 (mm)			調査		出土	焼成	色調		備考
			口径	底径	器高	外 面	内 面			外 面	内 面	
289	SA-06	甕	—	—	—	半ミガキ～ナダ	半ミガキ	燒過砂少量	良好	淡褐色	紅褐色～淡褐色	表面：マメツ
290	SA-06	小口丸底甕	—	—	—	半ミガキ 工具ナダ～ナダ	半ミガキ 工具ナダ～ナダ	燒過砂少量	良	淡褐色～淡褐色	淡褐色～淡褐色	表面：マメツ

SA-07 (第66図) 調査区の中央やや東寄り、06号住居の1.2m北に位置し08号住居を切る、1辺7.8~8.1mの隅丸方形のプランである。1段(10cm内外)低い中央部の長軸は3.6m・短軸は3.2mを測り、底面には厚さ5cm前後の貼り床を施し、その上面には泥化炭化物が広がっている。主柱穴は不明瞭であるが中央寄りの直径20~31cm・深さ57~65cmの小pitが最も深い。他は深さ20cm前後のものが多く、補助的pitと思われる。南東部には、深さ5~14cmの土坑状掘り込みがある。

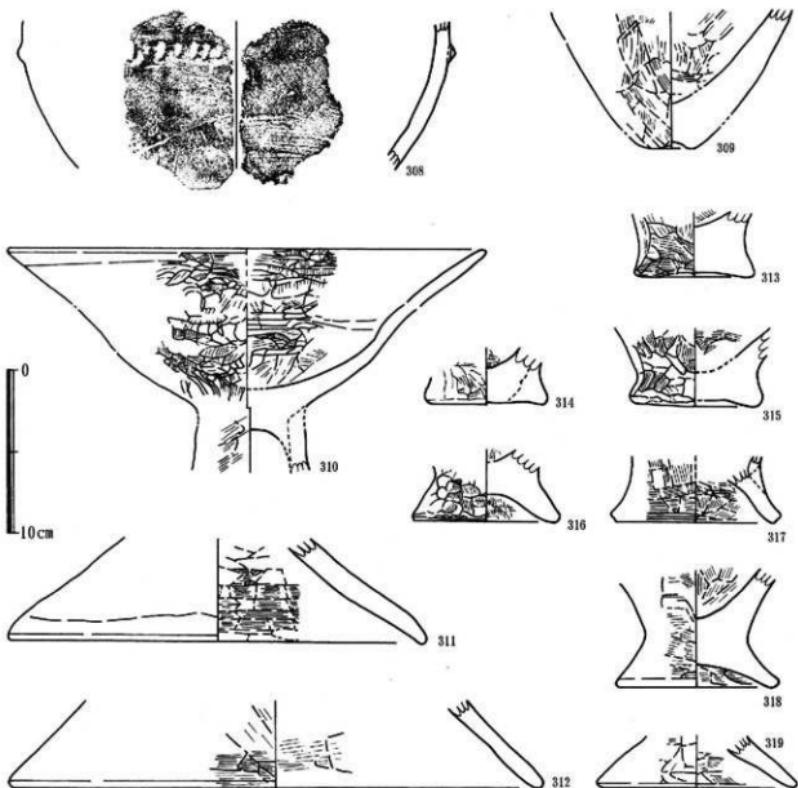
出土遺物は一様の器種がある(第65・67図)が、完形品は303の堆のみである。全般的に弥生時代後期後半頃か。甕295の外面には赤色顔料が付着しているが、用途不明である。土器以外では、鉄錠1本(459)のほか、石包丁(694)、磨製石錠(686)、砥石(710)が各1点出土している。



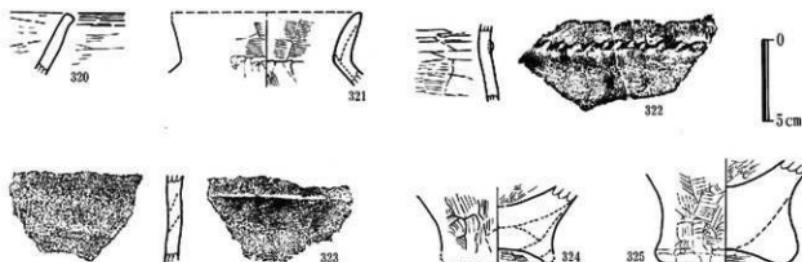
第65図 SA-06 出土遺物実測図, SA-07 出土遺物実測図(1)



第66図 SA-07・08 遺構実測図



第67図 SA-07 出土遺物実測図（2）



第68図 SA-08 出土遺物実測図

表20 SA-07出土遺物観察表

No	出土地	器種	法量 (cm)			調査		粘土	焼成	色調		備考
			口径	底径	器高	外面	内面			外面	内面	
66502 291	SA-07	鉢	205	—	—	ナゲー・ハケ	工具ナデ	細砂少量	魚好	茶褐色・黒斑	淡灰	
292	SA-07	甕	—	—	—	ナガナ・ナゲ	ナデ	微細少量	良	淡褐・暗灰	茶褐色・暗灰	輪括痕
293	SA-07	甕	—	—	—	ハケ	ハケ	細砂多量	良	淡灰褐色・淡灰	淡黄褐色・淡灰	
294	SA-07	甕	—	—	—	ナガ・工具ナデ	工具ナデ	細砂少量	良	灰褐色・淡灰	淡黄褐色・淡灰	
295	SA-07	甕	244	—	—	ナゲー・ハケ	ハケ	細砂少量	ややあまい	暗茶褐色・淡茶褐色	淡灰褐色・茶褐色	外壁・内壁 赤茶色剥離
296	SA-07	甕	—	—	—	工具ナデ	丁寧・工具ナデ	微砂少量	魚好	暗茶褐色・暗褐	淡灰褐色・茶褐色	
297	SA-07	甕	337	—	—	—	工具ナデ	粗粒砂少しあり 表面にやや多い	ややあまい	淡褐色・淡灰褐色	淡褐色・淡灰褐色	外側・内側 外側: マツツ 内側: マツツ
298	SA-07	甕	370	—	—	—	工具ナデ	粗粒砂やや多い	ややあまい	淡褐色・淡灰褐色	淡褐色・淡灰褐色	
299	SA-07	甕	280	—	—	ハケー・工具ナデ	工具ナデ	粗粒砂やや多い 内部にやや多い	ややあまい	淡褐色・灰褐色	淡灰褐色・淡灰褐色	周側: マツツ
300	SA-07	甕	110	—	—	ナゲー・ハケ	ナゲ	良	ややあまい	淡灰褐色	淡灰褐色	
301	SA-07	小型丸底甕	107	—	—	—	工具ナデ	微砂少量	ややあまい	茶褐色・淡程黃	暗茶褐色・淡茶褐色	外側: マツツ
302	SA-07	小型丸底甕	101	—	—	ナゲー・ハケ	工具ナデ	粗粒砂微量	ややあまい	淡褐色・淡灰褐色	暗褐色・暗灰褐色	
303	SA-07	壺	68	—	25	ナミドナゲ	ナミドナゲ	良	あまい	淡褐色・淡黃褐色	茶褐色・淡灰褐色	
304	SA-07	壺	95	—	—	ミガキ	—	台面に十数 箇所に粗砂 等が見られる	あまい	淡褐色・淡灰褐色	淡褐色・棕褐色	周側: マツツ
305	SA-07	小型丸底甕	—	—	—	工具ナデ	ナデ	粗粒砂少量	良	淡褐色・灰褐色	暗褐色・暗灰褐色	
306	SA-07	壺	—	—	—	丁寧ナデ	丁寧ナデ	微砂少量	ややあまい	棕褐色・青褐色	淡灰褐色	外側: マツツ
307	SA-07	壺	—	—	—	丁寧・工具ナデ	丁寧ナデ	微砂微量	良	暗褐色・淡茶褐色	淡褐色・褐色	
66704 308	SA-07	甕	—	—	—	ハケ	ハケー・ナゲ	粗粒砂少量	良	茶褐色・暗茶褐色	淡褐色・茶褐色	
309	SA-07	甕	—	50	—	工具ナデ	工具ナデ	粗粒砂少量	良	淡褐色・淡灰褐色	淡褐色・淡灰褐色	
310	SA-07	高坏	295	—	—	工具ナデ	工具ナデ	粗砂やや多い	ややあまい	淡褐色・茶褐色	茶褐色・暗茶褐色	
311	SA-07	壺	257	—	—	工具ナデ	工具ナデ	微砂少量	ややあまい	淡褐色・灰褐色	淡褐色・暗褐色	外側: マツツ
312	SA-07	甕	329	—	—	工具ナデ	工具ナデ	粗粒砂少量	ややあまい	淡褐色・淡褐色	暗褐色・暗褐色	内側: マツツ
313	SA-07	甕	—	74	—	工具ナデ	工具ナデ	粗粒砂少量	良	淡褐色・茶褐色	淡褐色・茶褐色	
314	SA-07	甕	—	76	—	工具ナデ	工具ナデ	粗粒砂やや多い	良	淡褐色・暗茶褐色	暗褐色	内側: オコゲ少量
315	SA-07	甕	—	81	—	工具ナデ	工具ナデ	粗粒砂少量	ややあまい	淡灰褐色	淡褐色・淡褐色	
316	SA-07	台付鉢	—	90	—	工具ナデ	工具ナデ	粗粒砂やや多い	良	淡灰褐色	淡褐色	
317	SA-07	台付鉢	—	103	—	工具ナデ	工具ナデ	粗粒砂少量 底部に粗砂	良	淡褐色・棕褐色	暗褐色・淡褐色	
318	SA-07	甕	—	100	—	ハ・工具ナデ	工具ナデ	粗粒砂やや多い 粗砂・小塊少	ややあまい	黄褐色・淡灰褐色	淡褐色	内側: オコゲ
319	SA-07	台付鉢	—	124	—	工具ナデ	工具ナデ	粗粒砂・ 小塊少	良	淡褐色・淡褐色	淡褐色	

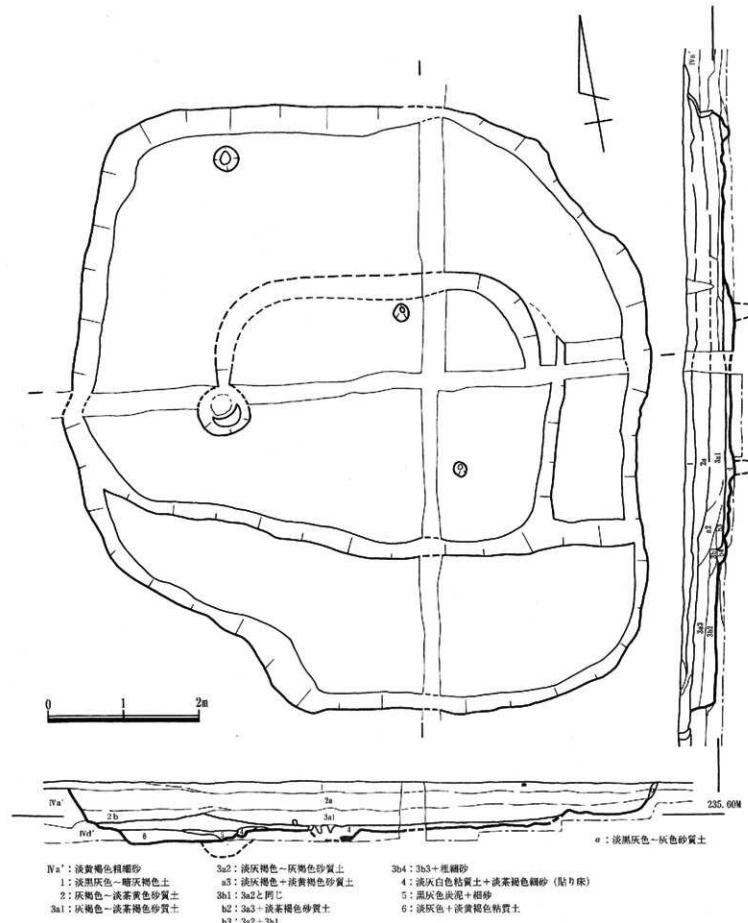
SA-08 (第66図) 南北断面により07号に切られたことは明らかであるが、旧状は推定困難である。南側中央部は1段(10cm)下がり、貼り床が施されている。柱穴は2基検出し、北側の柱穴が主柱穴の1つとなる可能性が高い。

出土遺物は少なく、若干の煮壺類が出土している(第68図)。土器以外では鉄錐もしくは刀子と思われるもの(461)と使用痕のある剥片(700)が出土している。

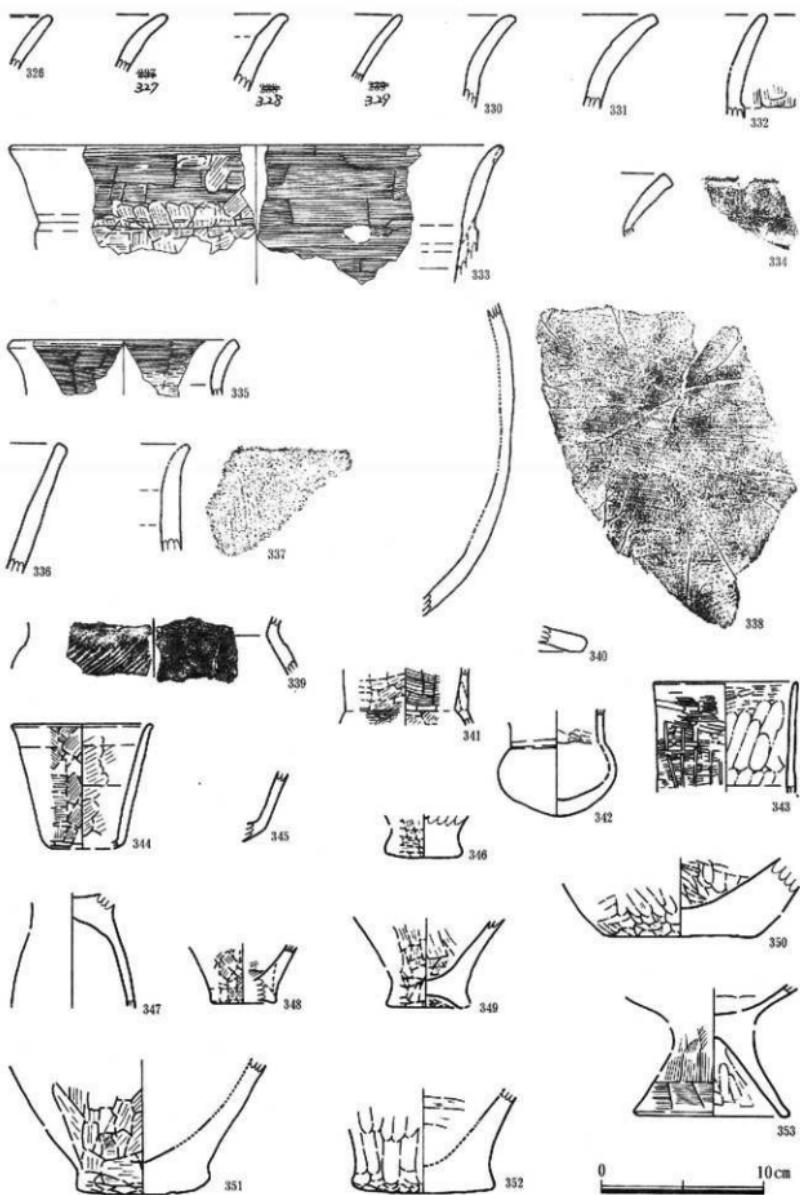
表21 SA-08出土遺物観察表

No	出土地	器種	法量 (cm)			調査		粘土	焼成	色調		備考
			口径	底径	器高	外面	内面			外面	内面	
66502 320	SA-08	甕	—	—	—	工具ナデ	工具ナデ	粗砂や多い	ややあまい	淡褐色	棕褐色	
321	SA-08	壺	(116)	—	—	工具ナデ	ハケー・工具ナデ	微砂少量	良	暗褐色・茶褐色	淡褐色茶	
322	SA-08	甕	—	—	—	工具ナデ	工具ナデ	微砂や多い	良	茶褐色・茶褐色	褐褐色・暗茶褐色	外側: マツツ
323	SA-08	甕	—	—	—	ハケ	ハケー・工具ナデ	粗砂少量	良	黑灰	茶褐色・暗茶褐色	
324	SA-08	甕	—	(70)	—	工具ナデ	工具ナデ	微砂少量	良	淡褐色・淡褐色	暗褐色・淡褐色	
325	SA-08	甕	—	87	—	工具ナデ	工具ナデ	粗砂や多い	良	淡褐色・淡褐色	暗褐色・淡褐色	

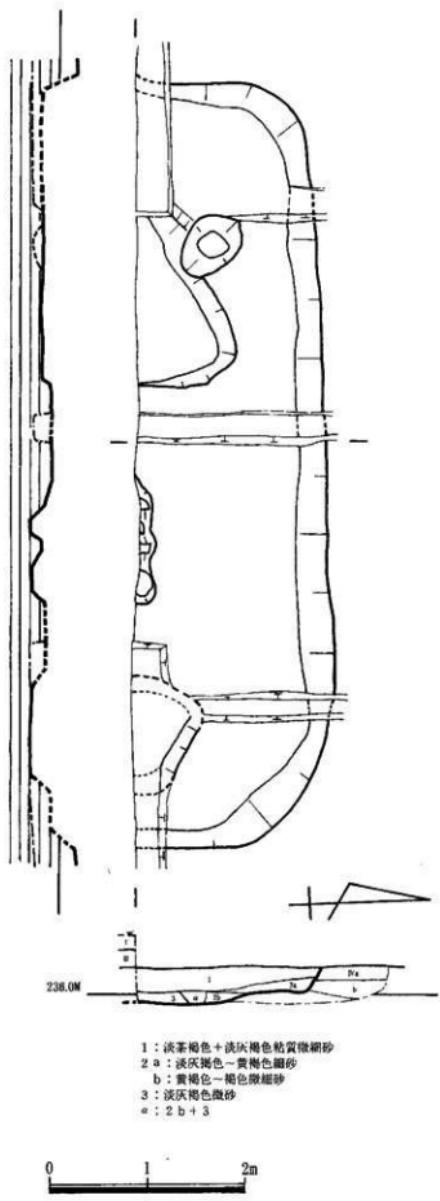
SA-09 (第69図) 中央やや北東寄りに位置した、1辺7.6~8mの略隅丸方形形状を呈する。北~



第69図 S A-09 造構実測図



第70図 S A-09 出土遺物実測図



第71図 SA-10 遺構実測図

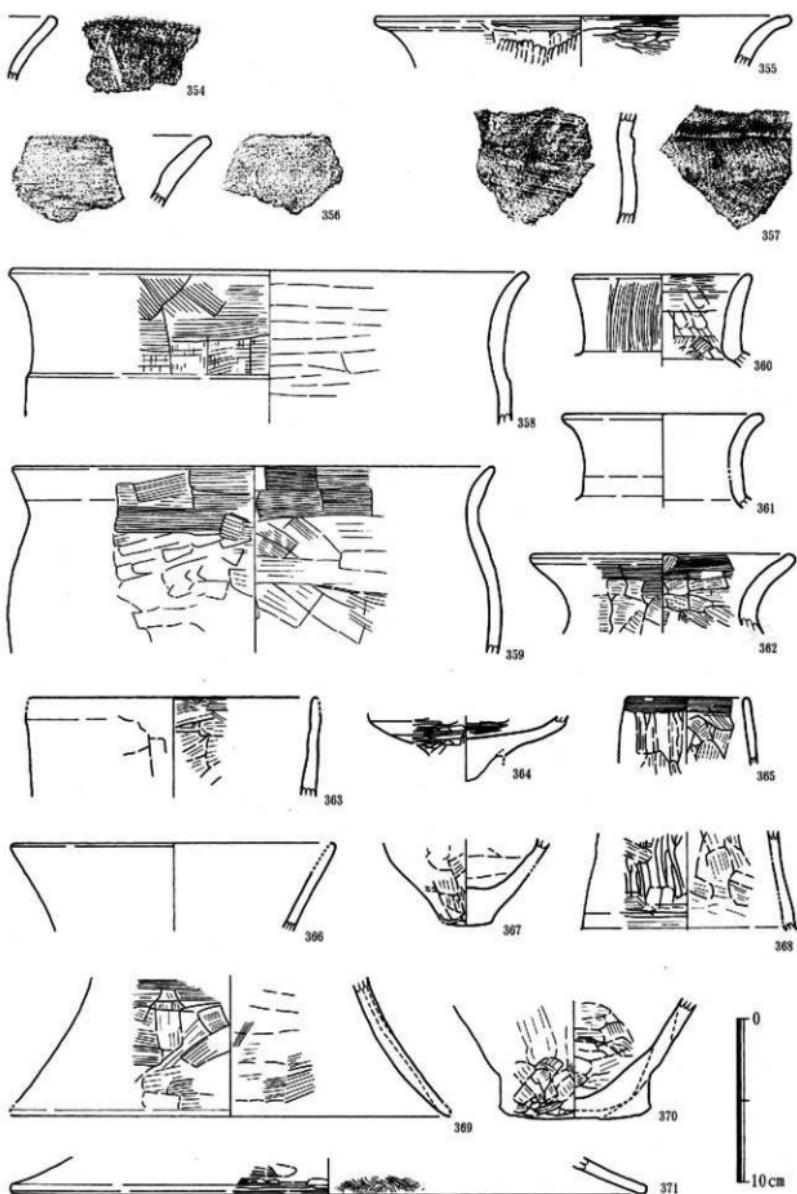
東側の肩部には厚さ4~6cmの淡灰色粘質土があり、壁面の板材痕である可能性が高い。中央部は1段(10~20cm)下がり、直径15~18cm・深さ32cmの小pitと直径19~22cm・深さ36cmの小pit 2基が主柱穴と思われる。第4層は2次面の貼り床で、5~20cmの厚さがある。

出土遺物は小破片が多く(第70図)、弥生時代終末頃の時期としてとらえている。土器以外では、台石が1点(718)出土している。

S A-10 (第71図) 調査区南縁やや東寄りに位置した、東西7.8mの隅丸方形と推定されるプランの竪穴住居である。貼り床は認められなかったが、土坑状・pit状掘り込みがある。

出土遺物は全て破片で、壺・甕・高杯・蓋等がある(第72図)。土器以外では、器面調整具と推定される礫器1点(698)がある。

S A-11 (第73図) 05号住居の2.2m東に位置した竪穴住居で、北東部は13号住居に切られる。検出当初は隅丸方形と思ったが、北西部と南西部の底面(円形部分は若干硬化している)の状況から少なくとも初期の形態は円形で、直径5.8~6.2mの住居であったと思われる。西の肩部には厚さ3cmの淡灰色土層があり、壁板の痕跡と推定される。底面は、幅1.1~1.4mのベッド状遺構となり、内側は1段(15~20cm)落ち、厚さ5cm前後のていねいな貼り床が施されている。周縁4ヶ所に主柱穴があり、うち3基は1m前後の深さがある。



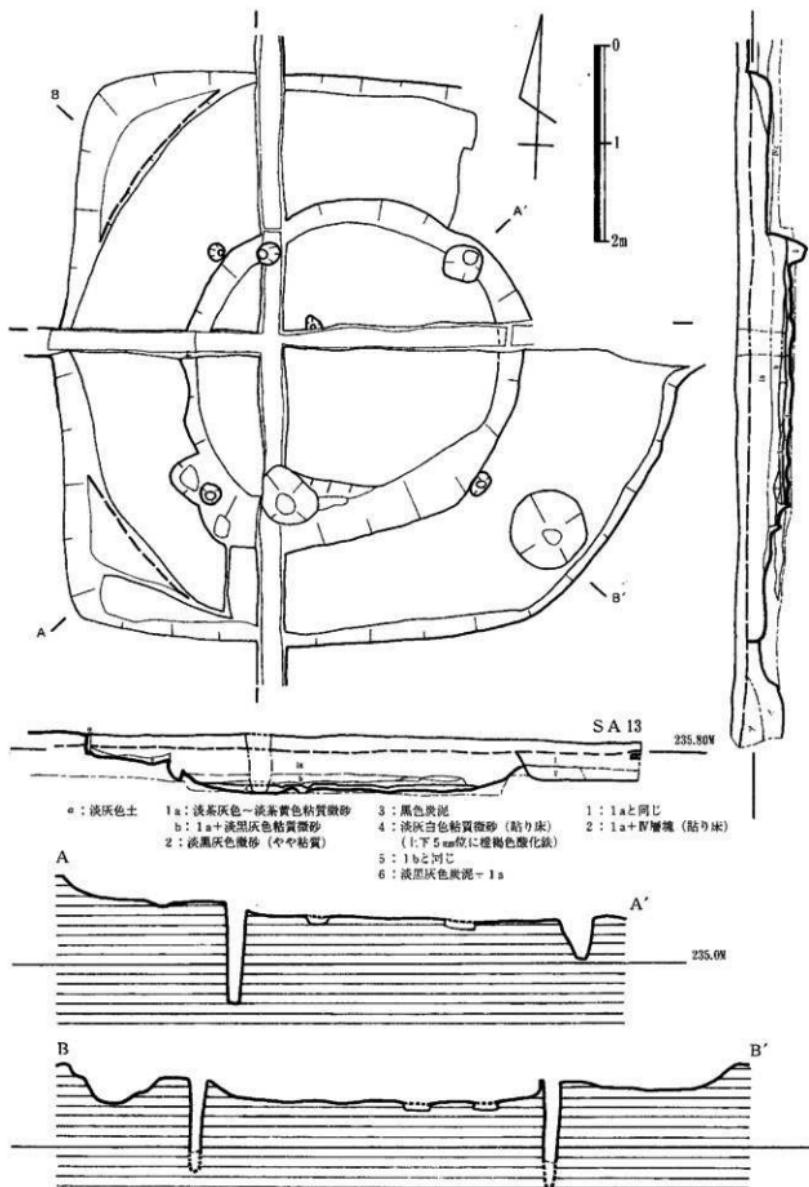
第72図 S A-10 出土遺物実測図

表22 SA-09出土遺物観察表

No	出上地	器種	法量 (mm)			調 整		粘 土	焼 成	色 調		備考
			口径	底径	器高	外 面	内 面			外 面	内 面	
326	SA-09	甕	—	—	—	工具ナダ	工具ナダ	微細粉少量	ややあまい	茶褐色～暗茶灰	黄褐色	
337	SA-09	甕	—	—	—	ハケ	ハケ	微細粉少量	良	淡灰褐色～淡茶灰	淡灰褐色～淡褐色	
338	SA-09	甕	—	—	—	ハケ	工具ナダ	微細粉少量	良	淡褐色	暗茶褐色～淡茶灰	
339	SA-09	高环	—	—	—	—	工具ナダ	微細粉少量	あまり	淡褐色	黄褐色～暗茶褐色	外側：マツツ
340	SA-09	甕	—	—	—	工具ナダ	工具ナダ	微細粉少量	良	淡茶褐色～淡灰褐色	淡灰褐色～淡褐色	
341	SA-09	甕	—	—	—	工具ナダ	工具ナダ	微細粉や多い	良	淡褐色～暗茶褐色	淡褐色～淡褐色	
342	SA-09	甕	—	—	—	ハケ	ハケ	微細粉や多い	良	淡褐色～暗茶褐色	淡褐色～淡褐色	
343	SA-09	甕	305	—	—	ハケ～工具ナダ	ハケ	微細粉少量	良	黄褐色～灰褐色	褐褐色～灰褐色	
344	SA-09	甕	—	—	—	工具ナダ	工具ナダ	微細粉少量	良	暗茶褐色	褐褐色～灰褐色	
345	SA-09	甕	142	—	—	ハケ	ハ・二工具ナダ	微細粉少量	ややあまい	淡褐色～橙褐色	淡褐色～淡褐色	
346	SA-09	鉢か	—	—	—	ハケ	工具ナダ	微細粉や多い	ややあまい	褐褐色～淡褐色	暗茶褐色	外側：マツツ 内側：オコゲ
347	SA-09	甕	—	—	—	盤ハケ	取ナダ	微細粉やや多い	良	暗褐色～深褐色	暗褐色～深褐色	
348	SA-09	甕	—	—	—	ハケ	ハケ	粗面粉	良	暗茶褐色～淡褐色	淡褐色	
349	SA-09	甕	—	—	—	ナゲタタキ	粗かくハケ	青面粉少	良好	暗茶褐色～暗茶灰	暗褐色～暗褐色	
350	SA-09	甕	—	—	—	工具ナダ	ミガキ	青面粉少	良好	淡茶褐色～暗茶灰	暗茶褐色～淡褐色	
341	SA-09	壺	—	—	—	工具ナダ～ハ	ミガキ	微細粉微量	良	暗褐色	暗茶褐色	
342	SA-09	壺	—	—	—	ミガキ	工具ナダ～ハ	微細粉微量	良	淡褐色～淡褐色	淡褐色	外側：マツツ
343	SA-09	小型丸底甕	89	—	—	ミガキ	工具ナダ～ハ	微細粉微量	良好	暗茶褐色～暗茶灰	暗褐色～淡褐色	
344	SA-09	壺	86	—	—	工具ナダ	工具ナダ	微細粉やや多い	ややあまい	淡褐色～淡褐色	淡褐色～淡褐色	内側：マツツ
345	SA-09	壺	—	—	—	工具ナダ	ハテ～工具ナダ	微細粉少量	良	淡褐色～淡褐色	淡褐色～淡褐色	
346	SA-09	甕	—	—	—	工具ナダ	工具ナダ	微細粉少量	良	淡褐色～暗褐色	淡褐色	
347	SA-09	高环	—	—	—	半ミガキ	—	微細粉少量	ややあまい	淡褐色～橙黃	橙褐色～暗褐色	周囲：マツツ
348	SA-09	甕	—	—	—	粗工具ナダ	工具ナダ	微細粉微量	良	黑褐色～棕褐色	棕褐色	
349	SA-09	甕	—	45	—	粗工具ナダ	工具ナダ	微細粉少量	良	棕褐色～茶褐色	淡褐色	
350	SA-09	甕	—	92	—	工具ナダ	工具ナダ	粗面粉少	良	茶褐色～淡褐色	淡褐色～淡褐色	内側：堅固かなり剥落
351	SA-09	甕	—	76～78	—	工具ナダ	—	粗面粉多	ややあまい	茶褐色～淡褐色	淡褐色	内側：堅固かなり剥落
352	SA-09	甕	—	84	—	工具ナダ	ミガキ	粗面粉少	良	淡褐色～淡褐色	淡褐色	内側：堅固かなり剥落
353	SA-09	高环	—	96	—	ハケ	ミガキ	微細粉微量	良	淡褐色～淡褐色	淡褐色～淡褐色	内側：マツツ

表23 SA-10出土遺物観察表

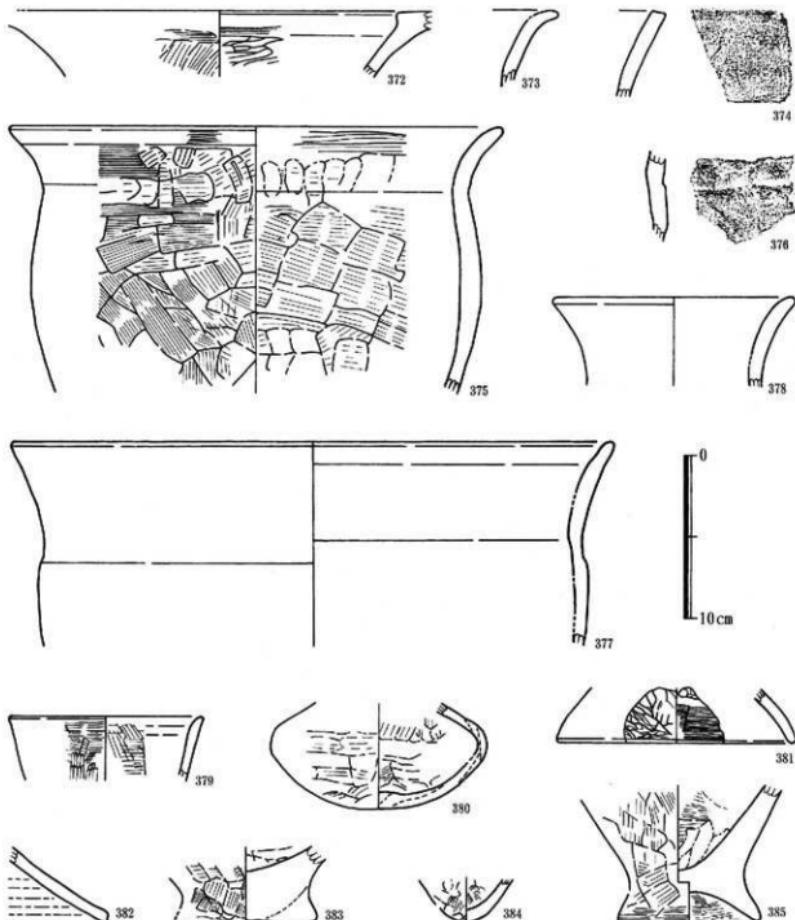
No	出上地	器種	法量 (mm)			調 整		粘 土	焼 成	色 調		備考
			口径	底径	器高	外 面	内 面			外 面	内 面	
354	SA-10	甕	—	—	—	粗工具ナダ	粗工具ナダ	粗面粉少量	良	淡褐色～淡灰褐色	淡褐色～暗茶褐色	
355	SA-10	甕	258	—	—	工具ナダ	ハケ	微細粉少量	良	暗茶褐色	淡褐色～淡褐色	
356	SA-10	甕	—	—	—	ナダ	ハケ	微細粉少量	良	淡茶褐色～暗茶灰	暗茶褐色～暗褐色	
357	SA-10	甕	—	—	—	ハケ	ハケ	粗面粉や多い	良好	暗茶褐色～暗茶褐色	暗茶褐色～暗茶褐色	
358	SA-10	甕	320	—	—	粗工具ナダ	工具ナダ	粗面粉やや多い	ややあまい	暗褐色～淡褐色	淡褐色～淡褐色	内側：マツツ
359	SA-10	甕	296	—	—	ハケ～工具ナダ	ハケ～工具ナダ	粗面粉少量	良	淡褐色～淡茶褐色	淡褐色～淡茶褐色	
360	SA-10	甕	110	—	—	ハケ	ハテ～工具ナダ	粗面粉少量	良	暗褐色～暗茶褐色	暗茶褐色	
361	SA-10	甕	123	—	—	—	—	粗面粉やや多い	ややあまい	淡褐色	淡褐色～淡褐色	周囲：マツツ
362	SA-10	甕	164	—	—	ハテ～粗ハケ	ハテ～工具ナダ	粗面粉少量	良	淡褐色～淡褐色	淡褐色～淡褐色	外側：マツツ
363	SA-10	甕	175	—	—	工具ナダ	粗工具ナダ	粗面粉少量	ややあまい	淡褐色～淡褐色	淡褐色～淡褐色	内側：ややマツツ
364	SA-10	高环	—	—	—	粗ミガキ	丁寧ミガキ	粗面粉少量	良	淡褐色	淡褐色	内側：ややマツツ
365	SA-10	長脚甕	72	—	—	工具ナダ～ハ	ハケ～工具ナダ	粗面粉少	良	黄褐色～淡褐色	淡褐色	
366	SA-10	高环	198	—	—	工具ナダ～ハ	丁寧工具ナダ	粗面粉少	あまり	黄褐色	淡褐色	内側：マツツ
367	SA-10	甕	—	300	—	工具ナダ～ハ	丁寧工具ナダ	粗面粉少	ややあまい	淡褐色～淡褐色	淡褐色	外側：ややマツツ
368	SA-10	長脚甕	—	—	—	工具ナダ～ハ	丁寧工具ナダ	粗面粉多量	ややあまい	淡褐色～淡褐色	淡褐色	周囲：マツツ
369	SA-10	高环	—	273	—	工具ナダ	工具ナダ	粗面粉やや多い	ややあまい	淡褐色～淡褐色	暗茶褐色～暗茶褐色	外側：マツツ
370	SA-10	甕	—	93	—	粗工具ナダ	工具ナダ	粗面粉少	良	淡褐色～淡褐色	淡褐色～淡褐色	内側：マツツ
371	SA-10	甕	388	—	—	工具ナダ	ミガキ	粗面粉少	良	暗茶褐色～暗茶褐色	暗茶褐色～暗茶褐色	内側：マツツ



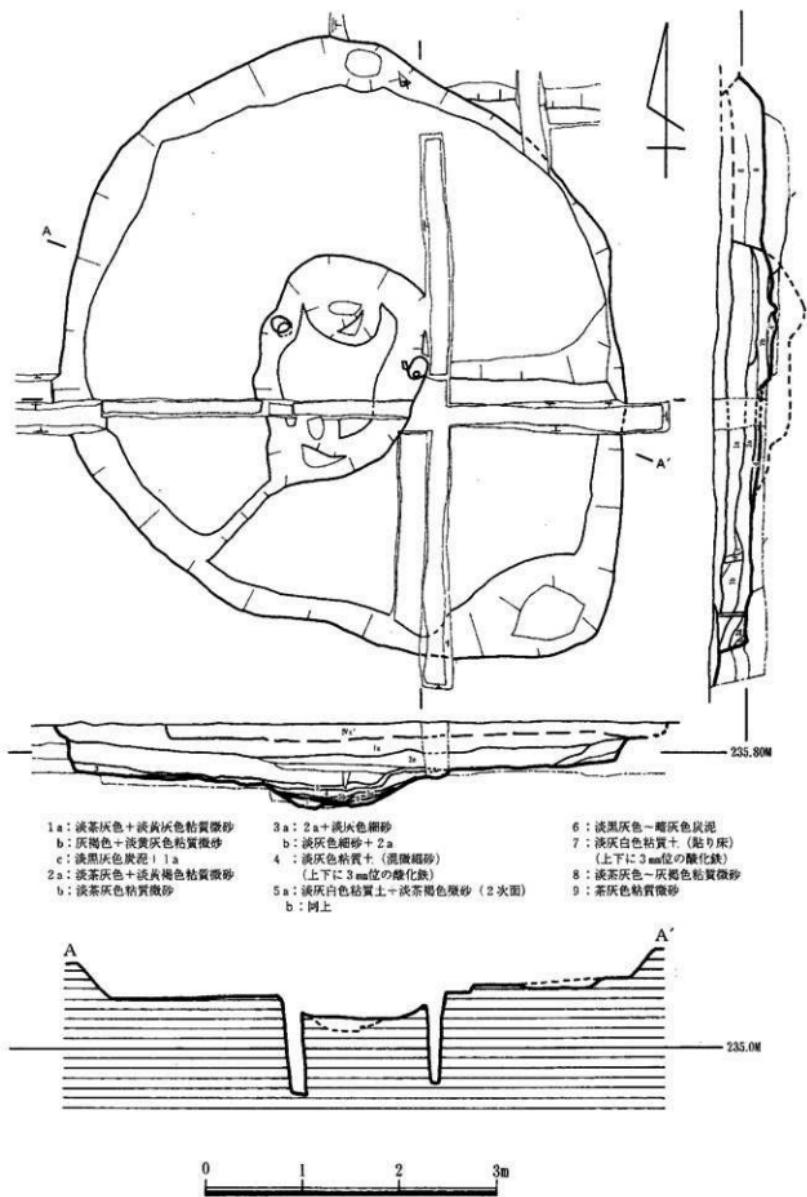
第73図 SA-11 透構実測図

出土遺物は少なく（第74図）、全て破片である。372の弥生土器は混入であり、380・381等から弥生時代終末頃の遺構と推定される。土器以外では、磨製石鏸1点（685）と台石（722）が出土している。

S A-12（第75図） 11号住居の南西部に隣接した、直径5.7～6 mの円形基調のプランである。当初は直径4 m弱のものとして検出し、2段目の穴は深かったために別遺構と推定した。航空写真終了後、さらにサブトレンチを入れたところ、北と西で確実な壁を認定した。このため、南北方向のトレントは中心よりも東寄りにズれている。中央土坑は、貼り床（第7層）上面・2次面（第5層

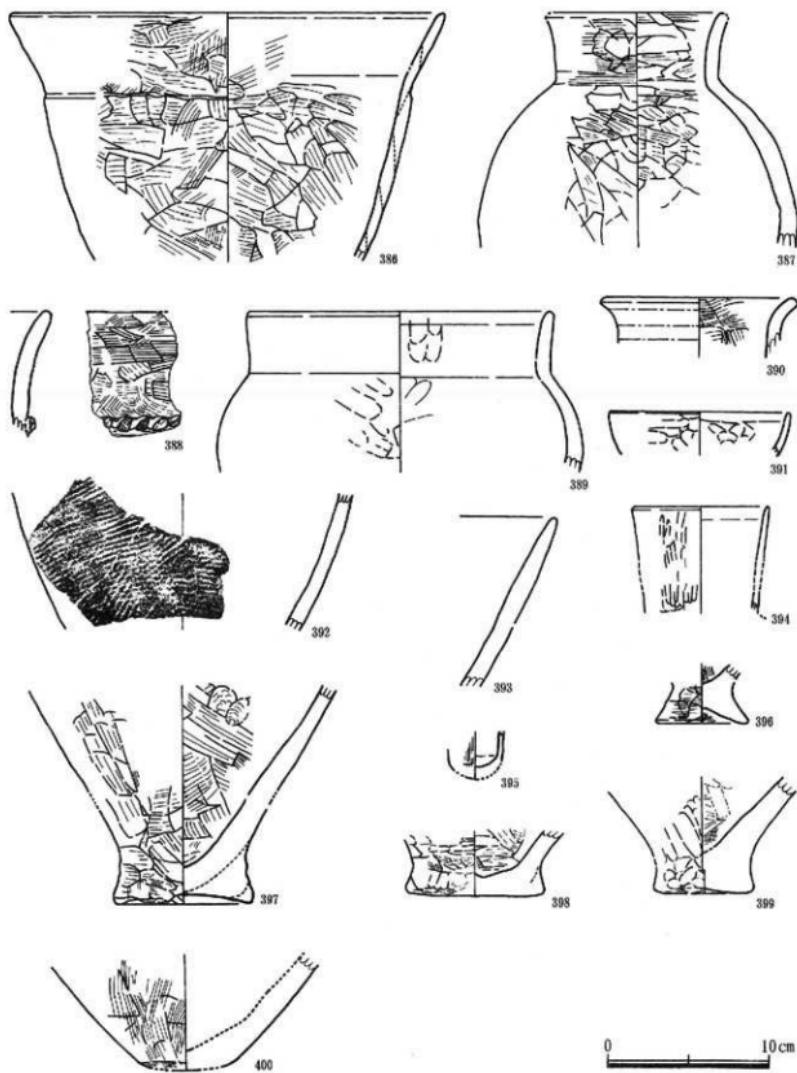


第74図 S A-11 出土遺物実測図



第75図 S A-12 遺構実測図

上面)・3次面(第4層上面)を炉に使用しており、数次の使用を見越して深く掘削されたと推定される。2段目の肩部の、深さ94cmと1mの小柱穴2基が主柱穴である。南肩から北へ36cmの所で厚さ2cmの淡灰白色粘質土があり、壁板の痕跡と推定される。



第76図 S A-12 出土遺物実測図

表24 SA-11出土遺物観察表

No	出土地	器種	法量 (mm)			調査		施土	焼成	色調		備考
			口径	底径	器高	外 面	内 面			外 面	内 面	
第7404 372	SA-11	壺	—	—	—	丁寧工具ナダ	ミガキ	粗面砂少量 角閃石少量 褐色色少微量	良	褐褐色—褐色 淡黑色—褐色	堅黄—淡灰 淡灰—淡黄	外因: マメツ 内因: マメツ
373	SA-11	壺	—	—	—	—	「貝ナダ」ハケ	—	—	—	—	被然
374	SA-11	壺	—	—	—	ミガキナ	半ミガキ	粗面砂少量 角閃石少量 褐色色少微量	ややあまい	淡灰灰—灰褐色	淡灰灰—淡灰 褐色—暗茶	—
375	SA-11	壺	299	—	—	ハケー 種工具ナダ	ヨコハケー 丁寧ナダ	粗面砂少量 角閃石少量 褐色色少微量	良	淡青碧—暗茶 淡褐色—暗茶	褐褐色—暗茶 褐褐色—灰褐色	—
376	SA-11	壺	—	—	—	種工具ナダ	工具ナダ	—	—	淡褐色—暗茶 褐色—暗茶	褐褐色—灰褐色 褐褐色—灰褐色	—
377	SA-11	壺	369	—	—	—	—	—	—	—	—	—
378	SA-11	壺	145	—	—	—	—	—	—	—	—	—
379	SA-11	小型丸底壺	117	—	—	半ミガキ (ヨコハケ)	丁寧ナダナダ	粗面砂少量 角閃石少量 褐色色少微量	ややあまい	淡褐色—淡茶 褐色—暗茶	褐褐色—淡茶 褐褐色—灰褐色	—
380	SA-11	小型丸底壺	—	—	—	工具ナダ	工具ナダ	—	—	—	—	—
381	SA-11	高杯	—	144	—	ミガキ	ハケ	—	—	—	—	—
382	SA-11	壺	—	—	—	丁寧ナダ	丁寧ナダ	—	—	—	—	—
383	SA-11	壺	—	82	—	工具ナダ	工具ナダ	—	—	—	—	—
384	SA-11	壺	—	—	—	種工具ナダ	工具ナダ	粗面砂少量 角閃石少量	ややあまい	淡褐色—淡茶 褐色—暗茶	褐褐色—淡茶 褐褐色—灰褐色	—
385	SA-11	壺	—	85	—	工具ナダ	工具ナダ(—)	粗面砂少量	良	淡褐色—暗茶 褐色—暗茶	褐褐色—淡茶 褐色—暗茶	—

表25 SA-12出土遺物観察表

No	出土地	器種	法量 (mm)			調査		施土	焼成	色調		備考
			口径	底径	器高	外 面	内 面			外 面	内 面	
第7604 386	SA-12	壺	285	—	—	工具ナダ	粗面砂少量	ややあまい	淡褐色—暗茶	淡褐色	—	—
387	SA-12	壺	104	—	—	ハケー工具ナダ —工具ナダ	粗面砂少量	ややあまい	淡褐色—淡茶 褐色—暗茶	淡褐色—淡茶 褐色—暗茶	—	—
388	SA-12	壺	—	—	ヨコハケ	工具ナダ	粗面砂やや多い	良	淡褐色—暗茶	褐色—暗茶	—	—
389	SA-12	壺	185	—	—	工具ナダ	工具ナダ	粗面砂少量 角閃石少量	ややあまい	淡褐色—茶灰	淡褐色—淡茶 褐色—茶灰	—
390	SA-12	壺	114	—	—	工具ナダナダ	工具ナダ	粗面砂少量 粗面砂少量	ややあまい	淡褐色—茶灰 褐色—茶灰	—	—
391	SA-12	小型丸底壺	109	—	—	工具ナダ	ナダ	—	—	—	—	—
392	SA-12	壺	—	—	—	タケナ	—	—	—	—	—	—
393	SA-12	鉢	—	—	—	「貝ナダ」	工具ナダ	—	—	—	—	—
394	SA-12	小型丸底壺	82	—	—	半ミガキ	ハケ	—	—	—	—	—
395	SA-12	手握ね壺	—	—	—	工具ナダ	ナダ	良	ややあまい	淡褐色—淡茶 褐色—暗茶	—	—
396	SA-12	台付鉢	—	53	—	工具ナダ	工具ナダ	粗面砂少量	良	褐色—暗茶 褐色—暗茶	褐色—暗茶 褐色—暗茶	—
397	SA-12	壺	—	34	—	工具ナダ	工具ナダ	粗面砂少量 小標印付	ややあまい	淡褐色—淡茶 褐色—暗茶	褐色—暗茶 褐色—暗茶	—
398	SA-12	壺	—	86	—	ナダ	ナダ	粗面砂やや多い	ややあまい	淡褐色—淡茶 褐色—暗茶	褐色—暗茶 褐色—暗茶	—
399	SA-12	壺	—	62	—	工具ナダ	ナダ~Y貝ナダ	粗面砂やや多い 角閃石少量	良	淡褐色—暗茶 褐色—暗茶	褐色—暗茶 褐色—暗茶	—
400	SA-12	壺	—	—	—	ハケ	—	粗面砂やや多い 角閃石少量	良	褐色—暗茶 褐色—暗茶	褐色—暗茶 褐色—暗茶	—

出土遺物は少なく（第76図）、全て破片である。弥生時代終末頃の遺構と推定される。土器以外では、磨製石鎌未製品（689）と砥石（709）が出土している。

S A-13（第77図） 11号住居の北東隅を切る、1辺5~7.1mの不整隅丸長方形を呈する。遺構面はIV c層上面で、中央部の1段低い底面と貼り床（第4層）上面には泥化炭化物層がある。住居内がかなり埋没してから多くの土坑に搅乱されているようで、床面は凹凸が激しい。主柱穴は、深さ40~70cmのsmall pit 4基と思われる。

出土遺物は少なく（第78図）、401~405の弥生土器は混入であり、他も全て破片である。土器以外では、磨製石鎌未製品（688・690）と砥石（708）・台石（719）が出土している。時期比定は困難であるが弥生時代後期後半頃か。

S A-14（第79図） 04号の南東隅に隣接する位置で、06号溝清掃時に微妙な土質の違いに気付き検出した、1辺3.6~3.8mの隅丸方形を呈する竪穴住居である。貼り床および初期の炉跡は無いが、

表26 S A-13出土遺物観察表

No	出土地	器種	法量 (mm)			調査室		粘土	焼成	色調		備考	
			口径	底径	器高	外面	内面			外面	内面		
401	S A-13	甕	—	—	—	工具ナダ	ハケ	良好	淡褐色	淡褐色	外面: 油焼 (碳化地一茶褐色)		
402	S A-13	甕	—	—	—	ナダ	丁寧工具ナダ	良好	淡褐色	淡褐色	内面: 白、黒斑		
403	S A-13	甕	278	—	—	ナダ	ナダ	良好	淡褐色~淡褐色	淡褐色	内面: 油焼		
404	S A-13	甕	—	—	—	ミガキ一ハケ	丁寧工具ナダ	良	淡褐色~淡褐色	淡褐色~淡褐色	内面: マメツ		
405	S A-13	甕	251	—	—	ナダ	—	ややあまい	茶褐色~暗紅褐色	暗紅褐色~暗褐色	内面: マメツ		
406	S A-13	高坏	—	—	—	ハケ+工具ナダ	ミガキ+ナダ	微細砂少量	良	暗褐色~茶褐色	茶褐色~暗褐色		
407	S A-13	甕	—	—	—	粗+工具ナダ	—	微細砂多量	ややあまい	青褐色~淡褐色	灰~暗褐色	内面: マメツ	
408	S A-13	甕	—	—	—	ハケ	工具ナダ	微細砂少量	ややあまい	茶褐色~暗褐色	無褐色、 淡褐色~淡褐色	内面: 少しマメツ	
409	S A-13	甕	114	—	—	工具ナダ	ハケ+工具ナダ	微細砂少量	良	稻葉青	稻葉青		
410	S A-13	甕	152	—	—	粗工具ナダ	粗工具ナダ	微細砂少量	良	淡茶褐色、 黑色	黑色		
411	S A-13	甕	—	—	—	ヨコハケ	ヨコハケ	微細砂少量	ややあまい	暗灰褐色	茶灰~淡褐色		
412	S A-13	甕	113	—	—	半ミガキ	半ミガキ	粗工具ナダ	良	淡灰褐色	淡灰褐色		
413	S A-13	甕	207	—	—	—	—	粗工具ナダ	ややあまい	茶褐色~暗褐色	暗褐色~暗褐色	内面: マメツ	
414	S A-13	甕	—	—	—	工具ナダ	丁寧工具ナダ	微細砂少量	良好	茶褐色~暗褐色	茶褐色~暗褐色		
415	S A-13	壇	—	—	—	工具ナダ	ナダ	良	稻葉青	稻葉青			
416	S A-13	壇	—	—	—	ハケ	ナダ	良	稻葉青	稻葉青			
417	S A-13	小型丸底甕	—	—	—	半ミガキ	半ミガキ	微細砂少量	ややあまい	黄褐色	暗灰褐色~淡褐色	内面: ややマメツ	
418	S A-13	壇	69	—	—	工具ナダ	工具ナダ	微細砂少量	ややあまい	淡褐色~淡褐色	暗灰褐色~暗褐色	内面: マメツ	
419	S A-13	高坏	—	—	—	工具ナダ	ヨコハケ	微細砂少量	ややあまい	淡褐色~黃褐色	淡褐色~暗褐色	内面: マメツ	
420	S A-13	不明	—	255	—	工具ナダ	ヨコハケ	粗細砂多量	良好	褐~茶褐色	淡褐色~茶褐色	内面: マメツ	
421	S A-13	甕	—	91	—	粗工具ナダ	—	微細砂少量	良	淡褐色~綠褐色	暗褐色~暗褐色	内面: マメツ	
422	S A-13	甕	59	—	—	工具ナダ	ハケ	微細砂少量	良	暗褐色~灰褐色	淡褐色		

5 b・c・7層上面を2次面とした泥化炭化物を検出した。主柱穴と言えるものは無いが、浅い小pit 5基を確認した。

出土遺物は少ないが(第80・81図)、壺1点(423)と甕1点(424)がほぼ完形に復元できた。427の高坏の外面には化粧粘土が施され、搬入品と考えられる。当遺構は、弥生時代終末頃と推定される。

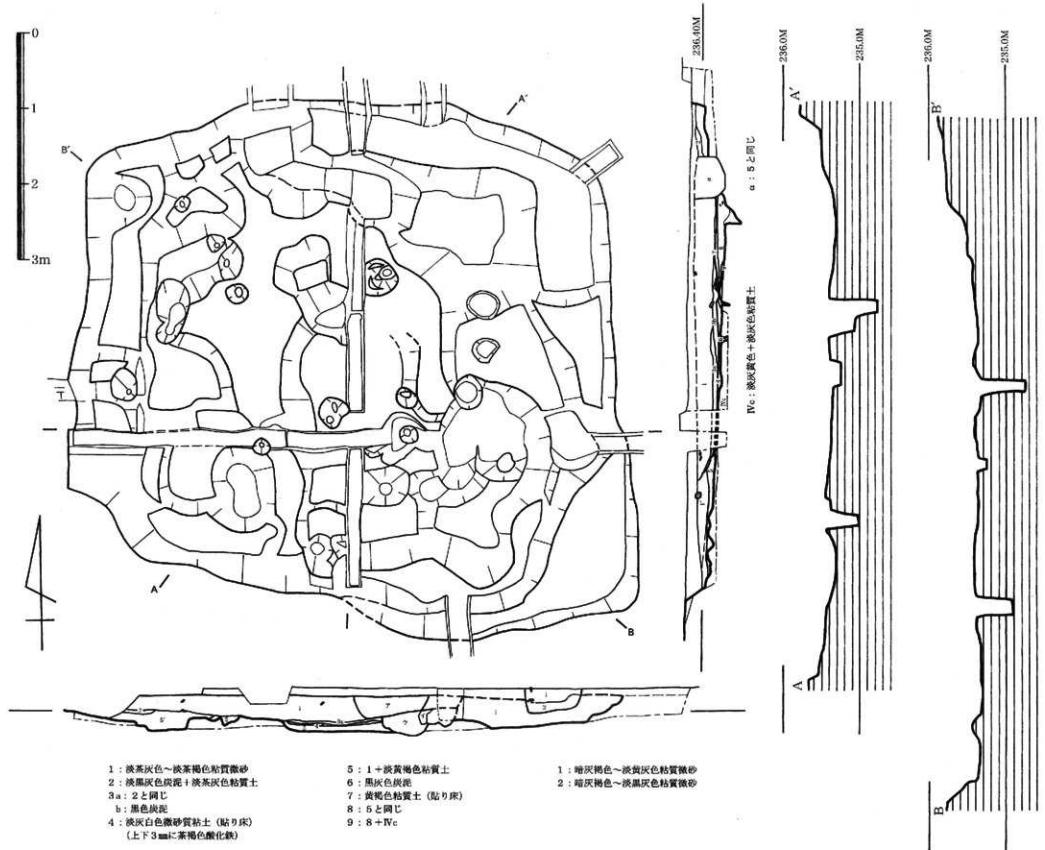
S A-15 (第82図) 調査区の中央やや西寄りに位置した、1辺7.1~8.6mの方形を基調とする間仕切り住居である。2段目は、長さ6.6m・幅5.9mの隅丸長方形を呈し、中央には長径1.8m・短径1.4mの楕円形を呈する土坑がある。その底面には泥化炭化物が広がっていた。主柱穴は深さ64~85cmの小pit 4基で、中央やや北寄りに位置する。中央土坑周辺の底面には、厚さ1~2cmの貼り床が施されている。

出土遺物は少なく(第88図-435~437)、時期比定は困難である。

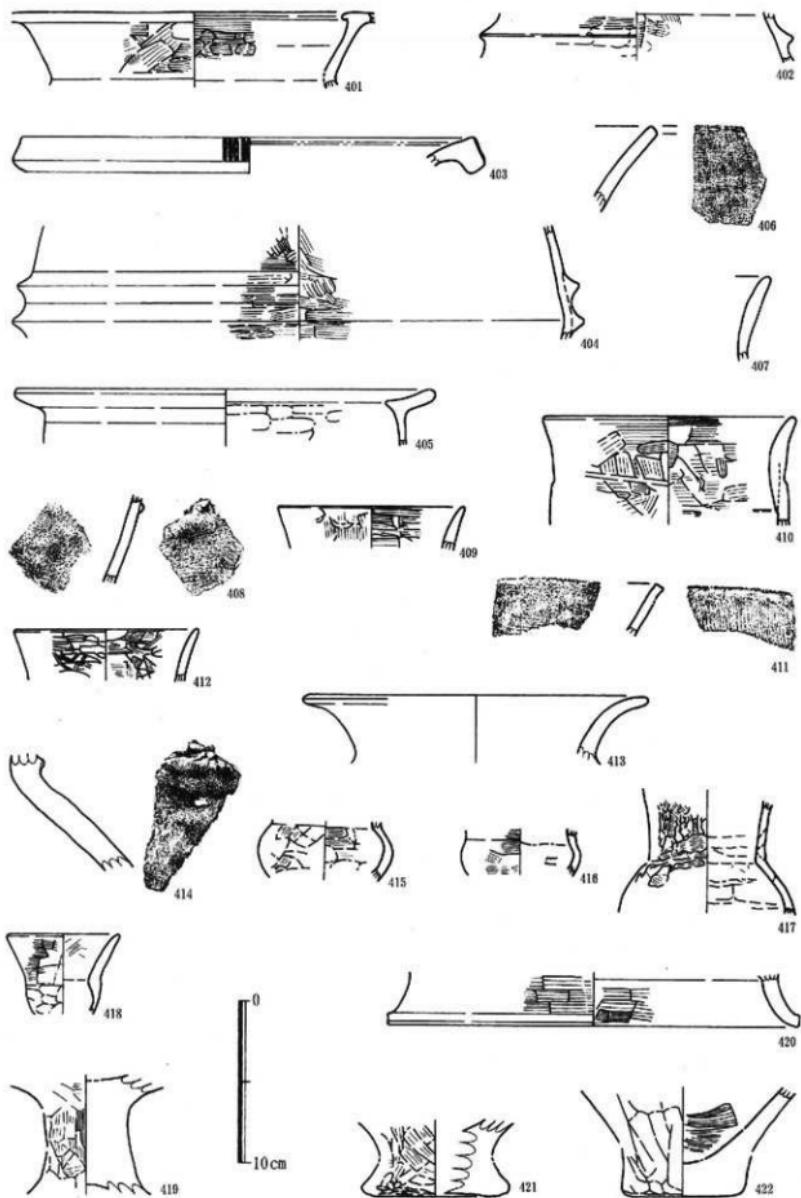
S A-16 (第83図) 調査区南縁東寄りで南壁沿いに深掘坑を設定して掘り下げた時に検出した、直径6.3~6.4mと推定される略円形の堅穴住居である。中央部は貼り床(第7層)上面のほか2面(2次面・3次面)の泥化炭化物層が認められた。柱穴は未確認である。

出土遺物は少なく、図化できたのも2点(438・439)のみである。土器以外では、砥石が2点(705・711)出土している。

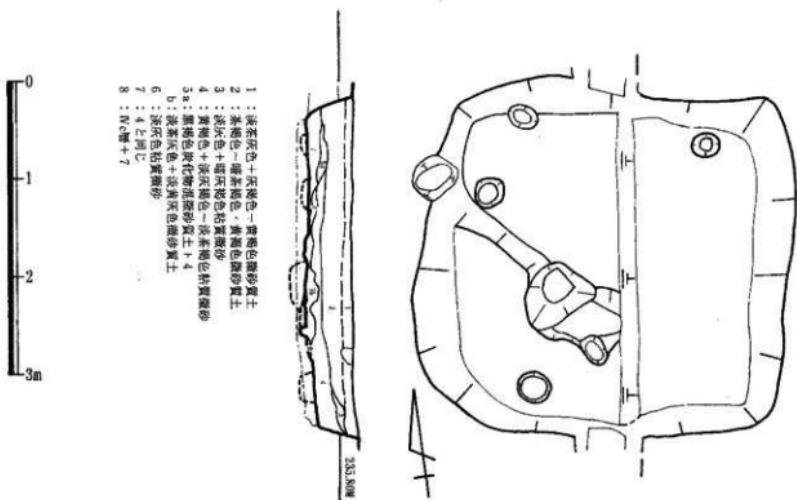
S A-17 (第84図) 調査区の西端中央部に位置した、長径4.14m・短径3.6m程の楕円形住居である。西~南にかけては、幅30~90cmのベッド状遺構があり、中心部は貼り床(第5・6層)が施さ



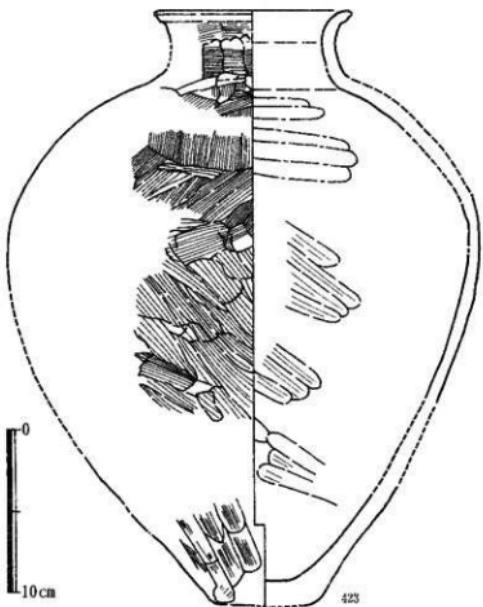
第77図 S A-13 造構実測図



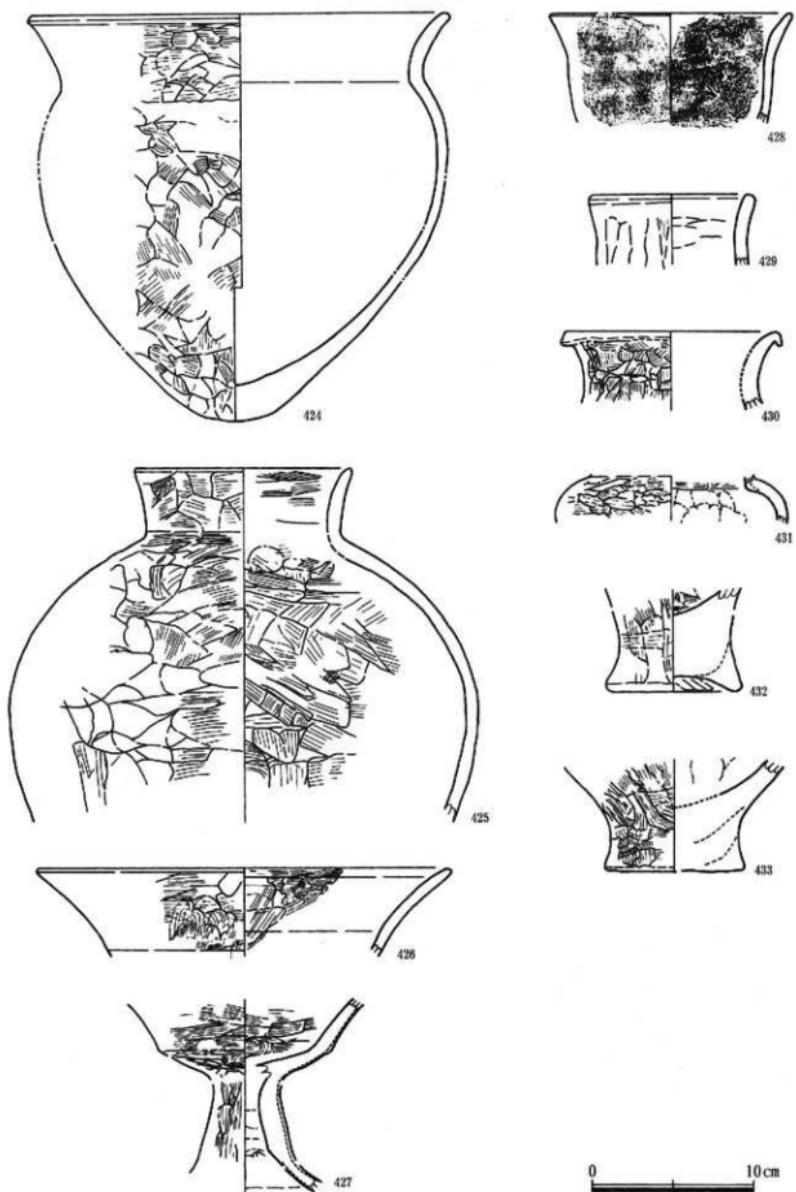
第78図 S A-13 出土遺物実測図



第79図 SA-14 造構実測図



第80図 SA-14 出土遺物実測図 (1)



第81図 S A-14 出土遺物実測図（2）

表27 S A-14出土遺物観察表

No	出土地	器種	法量 (m)		調査		地土	焼成	色調		備考
			口徑	底径	高さ	外面	内面		外面	内面	
第80回 423	S A-14	壺	123	63	369	ハケ	ナダ	微細砂少量 粗工具ナダ	ややあまい	淡黄褐色～淡褐色	淡黄褐色～淡褐色
第81回 424	S A-14	壺	257-265	—	253	工具ナダ	工具ナダ	粗細砂多量	ややあまい	棕褐色～淡黃褐色	淡黃褐色～暗茶褐色
425	S A-14	壺	135	—	—	工具ナダ	工具ナダ	微細砂少量	ややあまい	淡黃褐色～黑色	淡黃褐色～黑色
426	S A-14	壺	257	—	—	半ミガキ～ハケ	半ミガキ	粗細砂少量	ややあまい	基灰～淡灰褐色	灰褐色～黑色
427	S A-14	壺	—	—	—	ハケ～ミガキ ハケ～ミガキ	ハケ～工具ナダ	微細砂少量	ややあまい	淡褐色～淡茶褐色	淡褐色～淡茶褐色
428	S A-14	壺	149	—	—	ナダ～ハケ	ハケ～工具ナダ	粗細砂少量 茶褐色及少量 鐵褐色及少量 小量	良	淡褐色～黑色	淡褐色～黑色
429	S A-14	壺	102	—	—	ナダ～ ナダ～(具ナダ)	ナダ～具ナダ	粗細砂少量 茶褐色及少量 鐵褐色及少量 小量	ややあまい	淡褐色～淡茶褐色	淡褐色～淡茶褐色
430	S A-14	壺	136	—	—	工具ナダ	工具ナダ	粗細砂少量 茶褐色及少量 鐵褐色及少量 小量	良	淡褐色～淡褐色	淡褐色～淡褐色
431	S A-14	壺	—	—	—	半ミガキ	工具ナダ～ナダ	粗細砂少量 茶褐色及少量 鐵褐色及少量 小量	良	淡褐色～淡褐色	淡褐色～淡褐色
432	S A-14	壺	—	—	85	工具ナダ	工具ナダ～ナダ	粗細砂少量	良	淡褐色～淡褐色	淡褐色～淡褐色
433	S A-14	壺	—	—	87	工具ナダ	ナダ	粗細砂少量	良	淡褐色～暗褐色	淡褐色～暗褐色
434	S A-14	壺	—	—	—	ハケ	ハケ	角右側面	良	淡褐色～暗褐色	淡褐色～暗褐色

れる。泥化炭化物（第4層）の上下には厚さ5mm前後の酸化鉄が集積しており、上下が床面として機能したと推定される。

出土遺物は少なく、図化できたのは2点（440・441）のみである。

S A-18（第85図） 調査区の南西寄りに位置した、1辺5.2～6.8mの方形を基調とする間仕切り住居として検出した。南西寄りには深さ5～10cmの土坑があり、西壁面にのみ貼り床が施されている。

出土遺物は少なく、442の壺形土器片のみ図化できた。

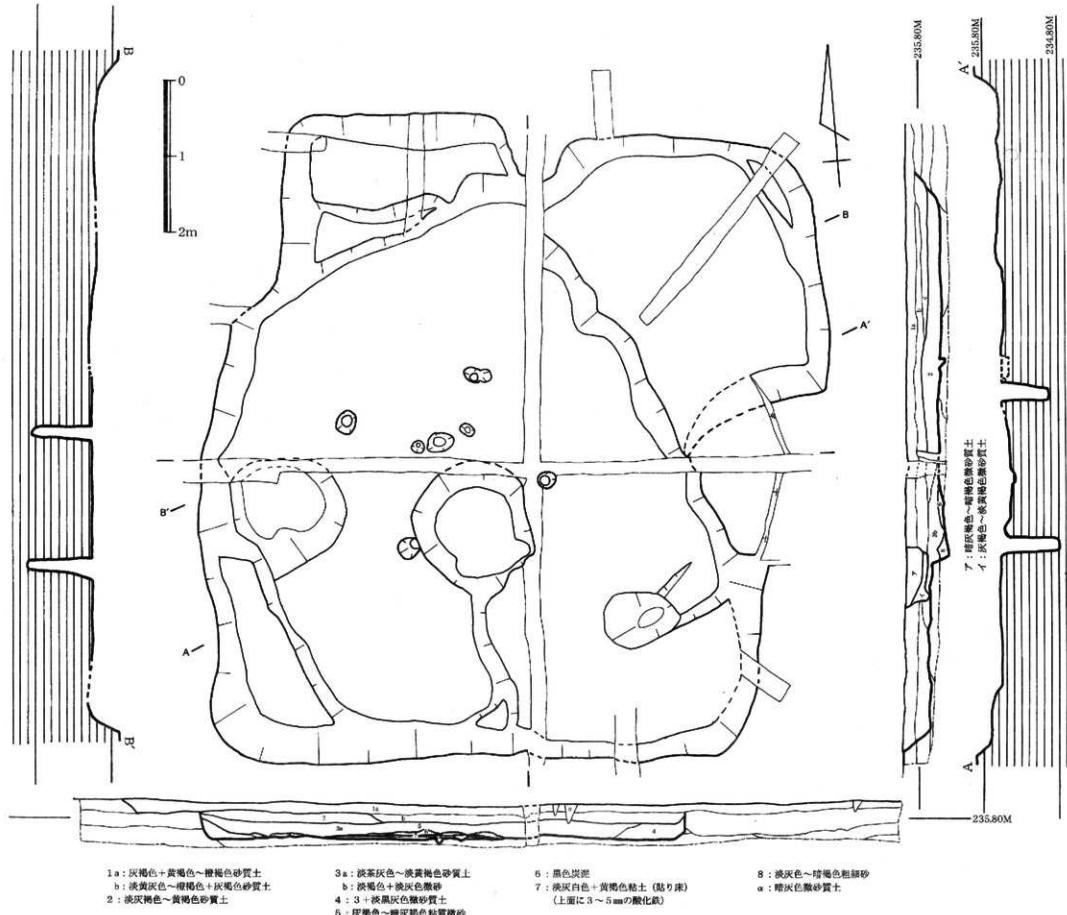
S A-19（第86図） 調査区の西南部に位置する。当初は、直径1.5m程の土坑として検出して掘り下げた結果、泥化炭化物と貼り床を確認した。そこで急速サブトレーナーを設定し、竪穴住居としてのプランを検出した。本来は直径6m程の円形プランであったかもしれないが、東半分は隅丸方形を確認して調査した。中央部は直径3.14～3.5mの不整円形に掘り下げられ、法面で深さ44～90cmの主柱穴4基を確認した。

出土遺物は少なく、2点（第89図-443・444）のみ図化できた。土器以外では、器面調整具と推定される石器1点（699）が出土した。

S A-20（第87図） 18号住居の2m西に位置する。当初は、沖積層の堆積状況の把握のために遺構が無いと思われた範囲に深掘坑を設定して掘り下げた結果、2ヶ所（20・21号住居）の炉跡を確認した。そこでサブトレーナーを設定し、検出面まで周辺を掘り下げて遺構検出をした結果、長径8m・短径6mの不整梢円形の間仕切り住居と推定した。ベッド状遺構は極めて不整形で、中央土坑は北西部に片寄り、底面と2・3次面上には泥化炭化物が堆積している。主柱穴は明瞭ではなく、南西部には土坑を伴う。

出土遺物は少なく（第89図）小破片である。

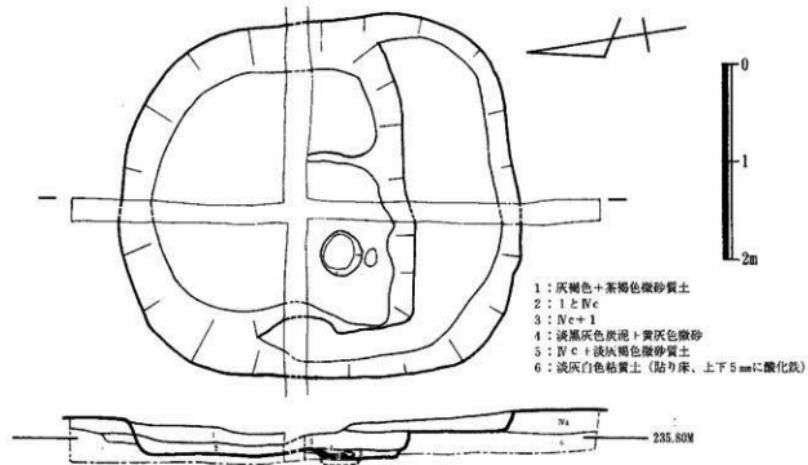
S A-21（第90図） 20号住居の西に隣接した、1辺5.7～6mの隅丸方形状を呈する竪穴住居で、中央南寄りに長さ3.2m・幅2.1mの隅丸長方形の土坑を有する。底面北半部には厚さ1～2cmの貼り床の上に泥化炭化物が認められた。主柱穴は不明である。他の住居の構築（土坑は中央に構築するという規則的なこと）状況から観ると、南側は掘り足らなかった可能性もある。



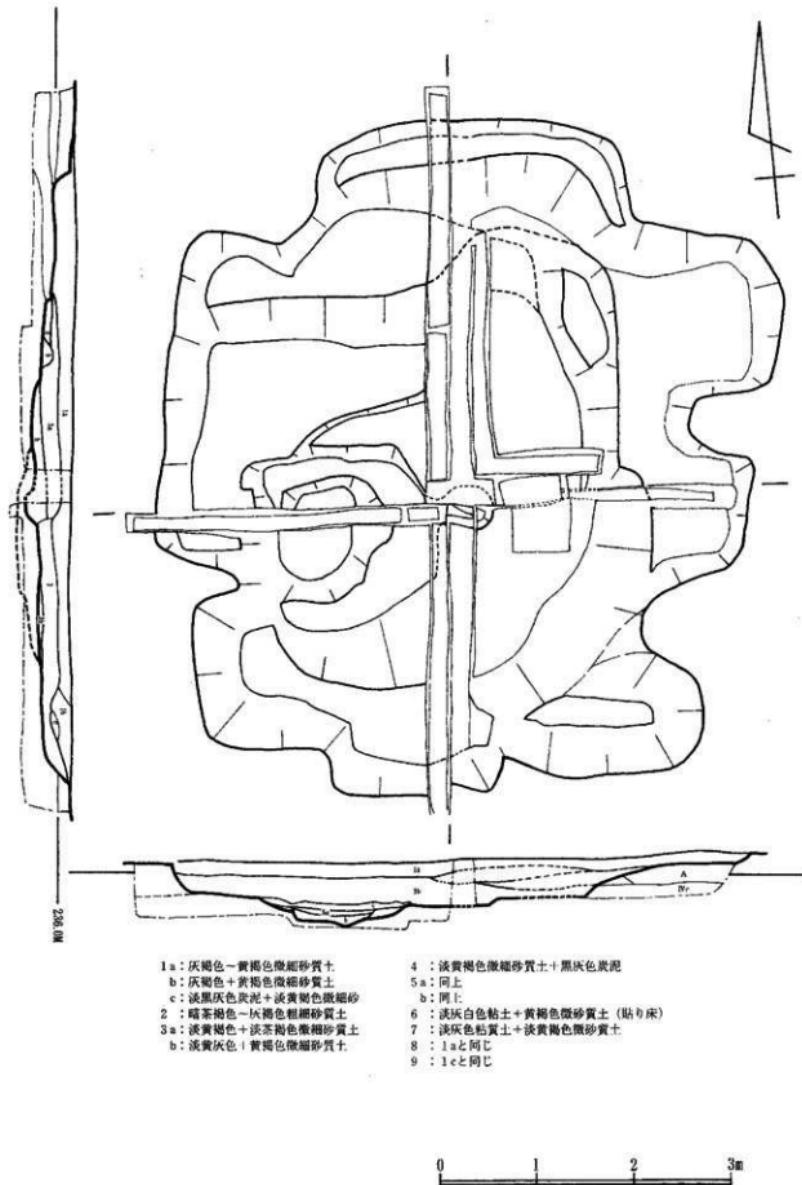
第82図 SA-15 遺構実測図



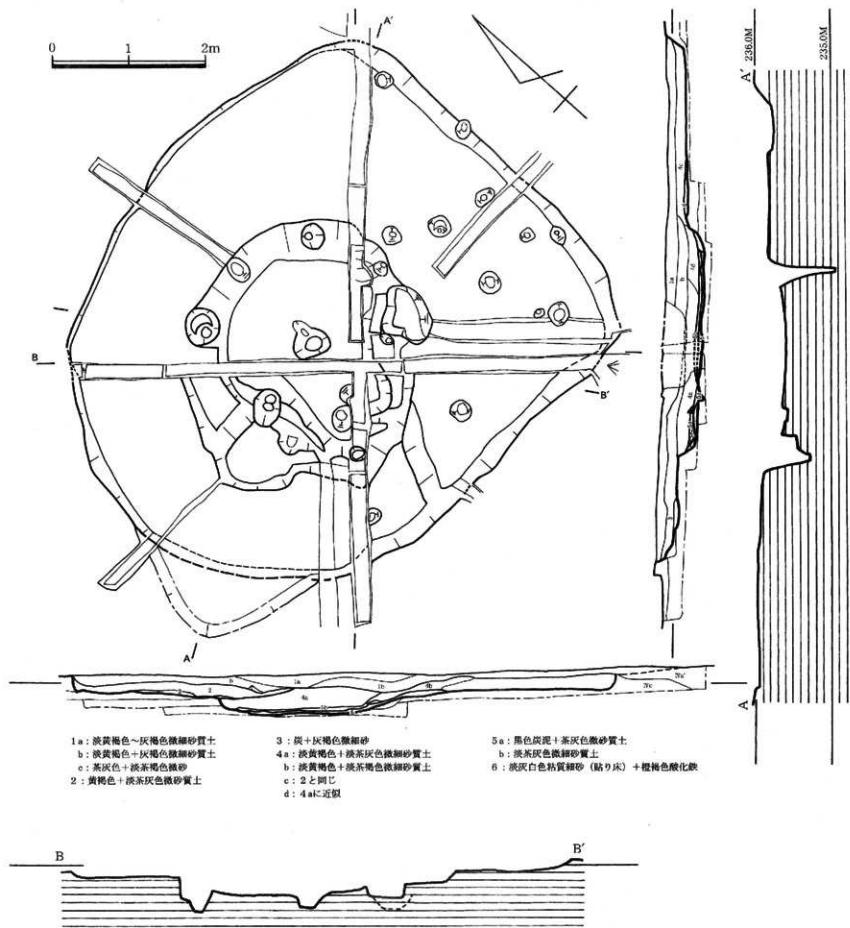
第83図 S A-16 遺構実測図



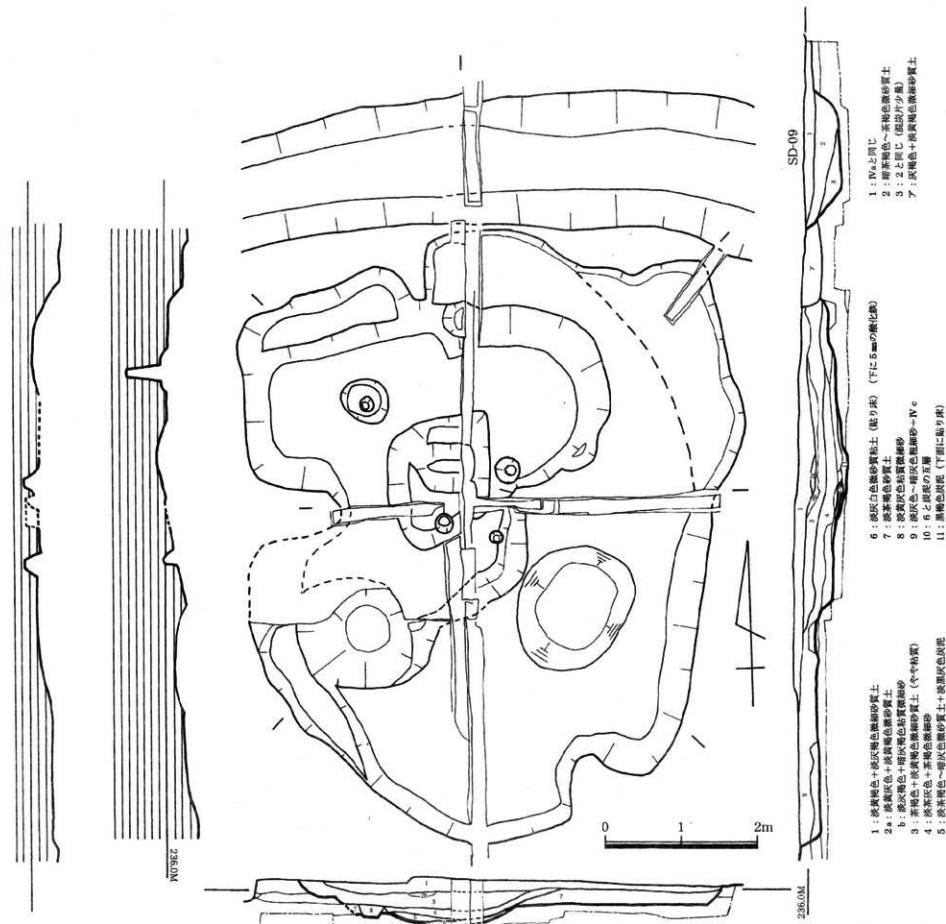
第84図 S A-17 遺構実測図



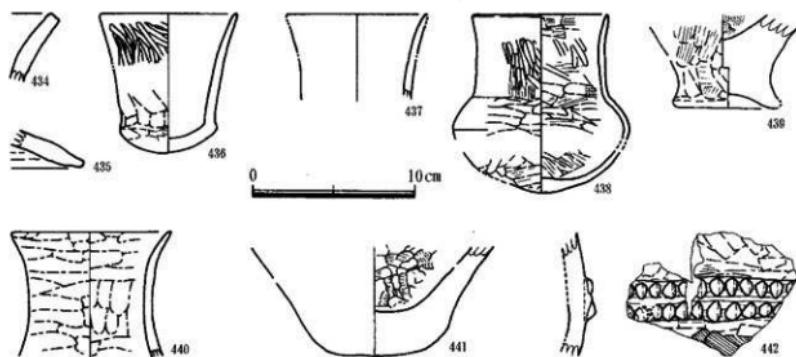
第85図 SA-18 造構実測図



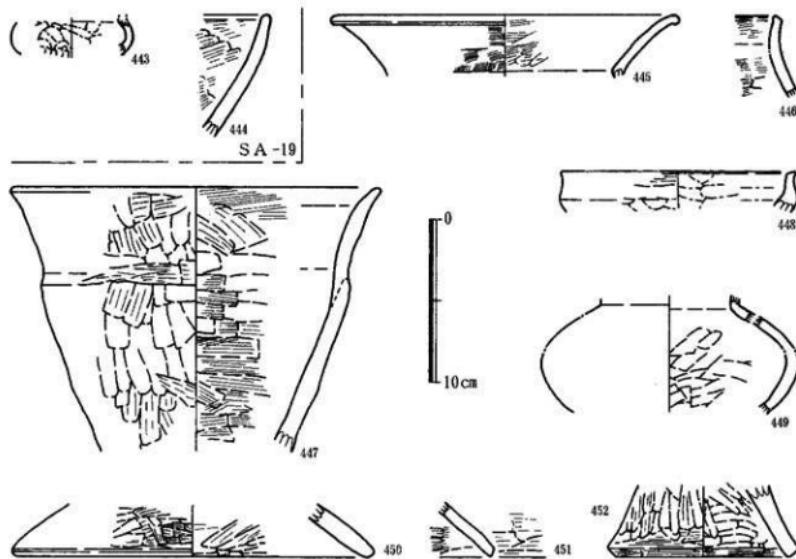
第86図 SA-19 造構実測図



第87図 SA-20 造構実測図



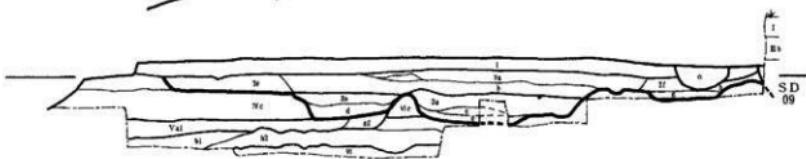
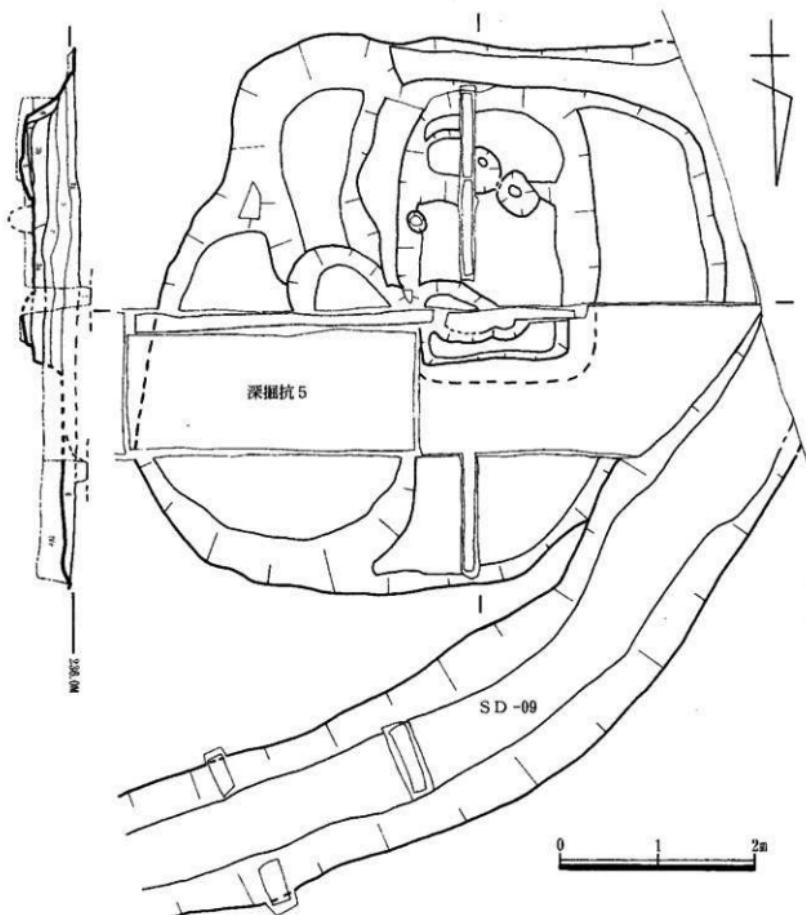
第88図 SA-15~18 出土遺物実測図 434~437 : SA-15 438~439 : SA-16 440~441 : SA-17 442 : SA-18



第89図 SA-19・20 出土遺物実測図

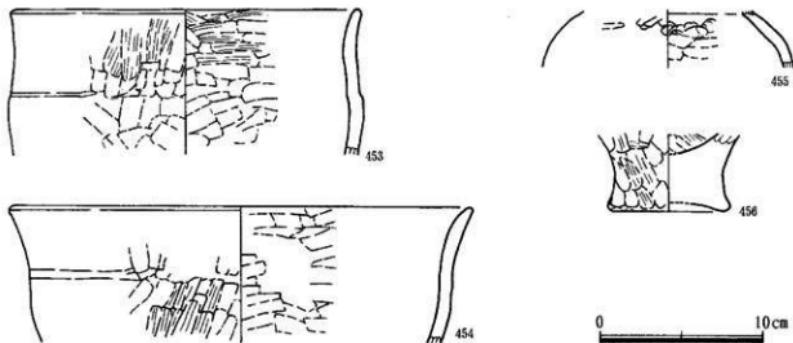
表28 SA-15・16出土遺物観察表

No.	出土 地	器種	法 量 (m)			調 節		胎 土	焼 成	色 調		備 考
			口径	底径	器高	外 面	内 面			外 面	内 面	
435	SA-15	瓶	—	—	—	粗砂多量 工具ナデ	工具ナデ	粗砂多量	良	淡褐色～褐色灰 褐色～褐色灰	褐色～褐色灰	肉面：マツブ 腹面：ソマツ 縁部：不明確
436	SA-15	壺	83	55~60	85	ミガキ一 工具ナデ	—	微細砂少量	—	褐色～褐色灰 淡褐色～淡褐色	褐色～褐色灰	外側：マツブ 内側：ソマツ 縁部：不明確
437	SA-15	小型丸底壺	87	—	—	粗砂微量	—	粗砂微量	—	褐色～褐色灰 淡褐色～淡褐色	褐色～褐色灰	外側：マツブ 内側：ソマツ 縁部：不明確
438	SA-16	小型丸底壺	80	—	109	ナガニーミガキ 工具ナデ	工具ナデ	粗砂微量	良	褐色～褐色灰 青褐色～褐色	褐色～褐色灰	外側：マツブ 内側：ソマツ 縁部：不明確
439	SA-16	甌	—	64×68	—	工具ナデ	工具ナデ	粗砂やや多い 小砂少量	良	褐色～褐色灰 褐色～褐色灰	褐色～褐色灰	外側：マツブ 内側：ソマツ 縁部：不明確



- | | | |
|----------------------|---------------------------|---------------------|
| 1 : 黄褐色 + 淡灰褐色微细砂质土 | 2 e : 茶灰色 ~ 淡黄褐色微细砂质土 | 5 : 灰褐色 + 淡黄褐色微细砂质土 |
| 2 : 淡茶灰色 + 灰褐色微细砂质土 | f : 淡黄褐色 + 淡黄褐色粗砂质土 | 6 : N e - 淡灰褐色微细砂质土 |
| b : 2 a 与 2 c, 微砂质土。 | g : 茶灰色 ~ 黄褐色粘质粉砂 + 暗灰色粗砂 | |
| c : 同上, 微细砂质土。 | 3 a : 茶灰色 + 淡茶褐色微细砂质土 | |
| d : 灰褐色微细砂质土 + 2 a | b : 淡茶褐色 + 淡黄褐色微细砂质土 | |

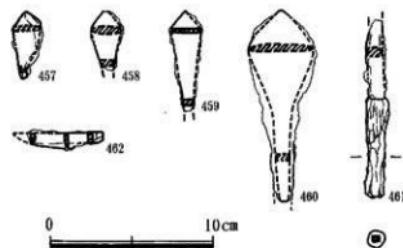
第90図 SA-21 遺構実測図



第91図 SA-21 出土遺物実測図

表29 SA-17~21出土遺物観察表

No.	出土地	器種	法 量 (mm)			外 面	内 面	胎 土	焼 成	色 調		備 考
			口径	底径	高さ					外 面	内 面	
440	SA-17	長頭蓋	98	—	—	ナデ+キガキ	ハケーナデ	良	ややあまい	淡褐色~輕褐色	淡褐色	
441	SA-17	蓋	—	72	—	—	工具ナデ	白褐色や少々 赤褐色少々	ややあまい	青褐色~黃褐色	同褐色~淡褐色	
442	SA-18	蓋	—	—	—	丁寧工具ナデ	粗面砂少量	良	淡褐色~灰褐色	淡褐色~灰褐色	淡褐色	
443	SA-19	壇	—	—	—	ナデ	ナデ	精良	ややあまい	茶褐色~黑褐色	淡灰褐色	外面: 刻落
444	SA-19	錫	—	—	—	粗工具ナデ	工具ナデ	粗面砂多量	ややあまい	淡茶褐色~橙褐色	淡褐色~淡灰褐色	画面: マメツ
445	SA-20	壇	216	—	—	丁寧ハケ	丁寧ハケ	粗面砂少量	ややあまい	茶褐色~暗茶褐色	茶褐色~淡茶褐色	画面: ややマメツ
446	SA-20	壇	—	—	—	ハケー	ハケー	粗面砂少量	良	茶褐色~暗茶褐色	茶褐色~淡茶褐色	
447	SA-20	壇	227	—	—	粗工具ナデ	ハケ	粗面砂少量	ややあまい	茶褐色~黑褐色	淡褐色~淡灰褐色	内面: マメツ
448	SA-20	壇	138	—	—	工具ナデ	ナデ	粗面砂少量	良	茶褐色~黑褐色	淡褐色~淡灰褐色	
449	SA-20	壇	—	—	—	丁寧工具ナデ	良	あまい	淡褐色~淡灰褐色	淡褐色~淡灰褐色	画面: マメツ	
450	SA-20	壇か	—	223	—	粗工具ナデ	丁寧工具ナデ	微細砂少量	良	淡褐色~灰褐色	淡褐色~淡灰褐色	
451	SA-20	壇	—	—	—	工具ナデ	工具ナデ	微細砂少量	良	灰褐色~暗灰褐色	淡褐色~暗茶褐色	
452	SA-20	壇	—	—	116	工具ナデ	粗工具ナデ	青銅砂少量	良好	茶褐色~淡茶褐色	淡褐色~淡茶褐色	
453	SA-21	壇	217	—	—	工具ナデ	工具ナデ	粗面砂多量	ややあまい	茶褐色~暗茶褐色	茶褐色~淡茶褐色	外面: ややマメツ
454	SA-21	壇	277	—	—	工具ナデ	工具ナデ	粗面砂多量	ややあまい	灰褐色~淡褐色	—	外面: マメツ
455	SA-21	壇	—	—	—	半ミガキ	良	あまい	淡褐色~灰褐色	淡褐色	外面: マメツ	
456	SA-21	壇	—	—	75	工具ナデ	工具ナデ	粗面砂や多い	良	淡褐色~淡灰褐色	淡褐色	



第92図 調査区出土鐵器実測図

表30 調査区出土鐵器観察表

No.	出 土 地	器種	法 量 (mm)		
			長さ	幅	厚さ
457	V区Ⅱb'層	鉄錐	41	17	3
458	SA-04	鉄錐	36	19	5
459	SA-07	鉄錐	62	19	2
460	SA-02	鉄錐	118	39	4
461	SA-08	刀子小	109	14	5
462	SA-03	刀子小	42	10	2

出土遺物は少なく（第91図）、小破片である。

S D-09 (第90図) 21号住居調査時に検出した、内径9.3m・幅1.37~1.89m・深さ33~45cmの弧状の溝状構造である。西側の覆土は深掘坑4のIV d層と同質であるが、東側20号住居の北~東部になるとIV層との区別が困難になり、18号住居内では検出できない（収束するかもしれない）。覆土には砂礫層を含まず、人為的構造としてとらえている。

土坑は大小様々であるが、すべてIV a層上面で検出した。機能的には殆どが不用物廃棄坑と思われ、54号土坑のみはその形態から土壤墓であろうと推定している。以下、明瞭な不要物廃棄土坑から述べる。

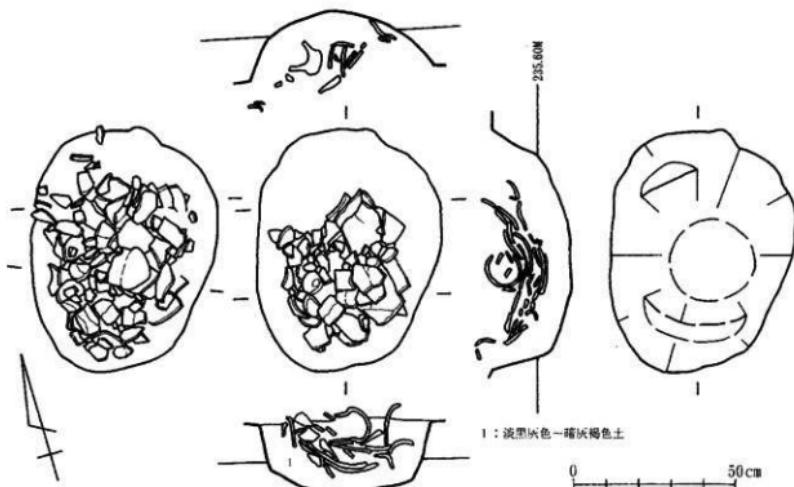
S K-28 (第93図) 調査区の北東縁に位置した、長径76cm・短径54cmの楕円形を呈する小型の土坑で、最深部は24cmを測る。覆土は単純1層で、中位~上位にかけて土器片が密に集積している。

出土遺物は壺の破片が多い（第94・95図）が、完形品は童形土器1点（472）のみである。464の壺の腹部には、クタキ痕が部分的に残っている。弥生時代後期後半~終末にかけての土坑である。

S K-29 (第96図) 調査区の南東縁、10号住居の東4mに位置した、長径73cm・短径66cmの楕円形を呈する小型土坑である。深さは36cmを測り、遺物の殆どは上層に集積している。

出土遺物は全て破片で（第97図）、壺が多い。

S K-39 (第98図) 07号住居の東4.5m、06・05・11・13・14・04号住居で囲んだ中央付近に位置した、長径145cm・短径79cmの不整楕円形を呈する中型土坑である。深さは、34~40cmを測る。出土遺物は1・3~4層に集中し（第99~102図）、完形の壺2点（494・495）を含む壺が主体である。



第93図 S K-28 遺構実測図

第94図 SK-28 出土遺物実測図 (1)

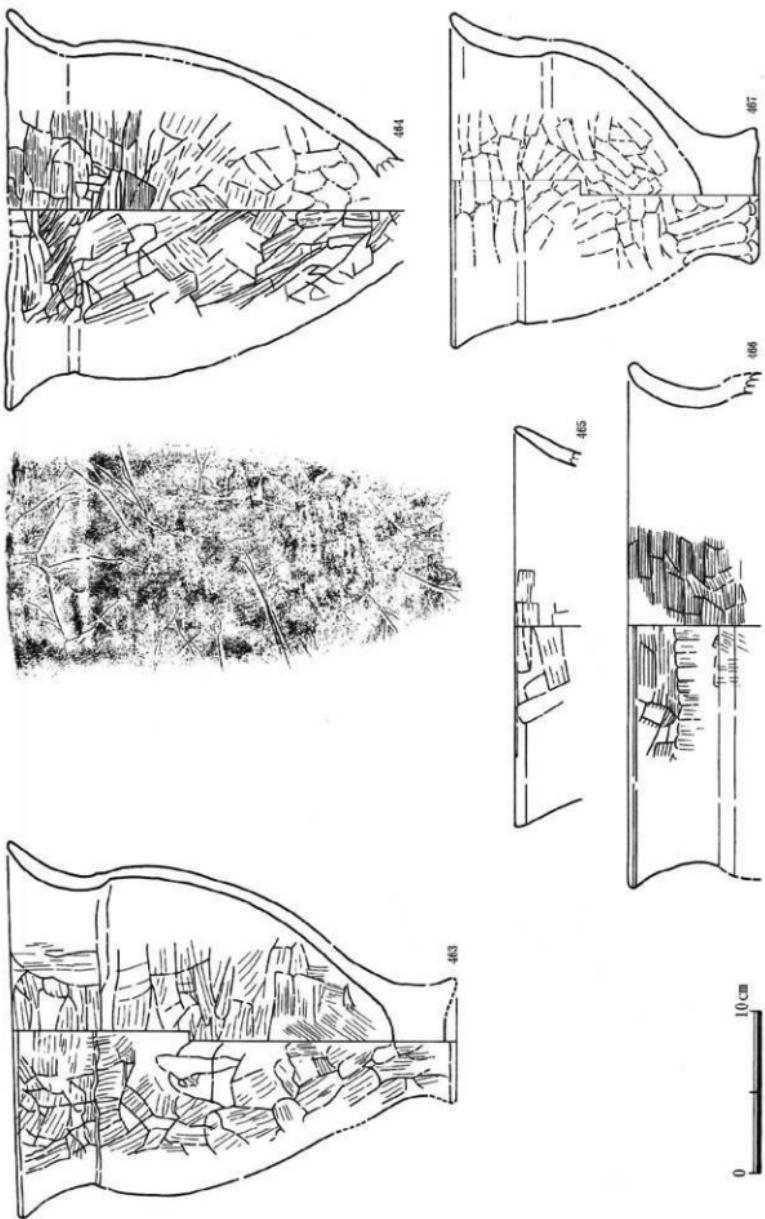
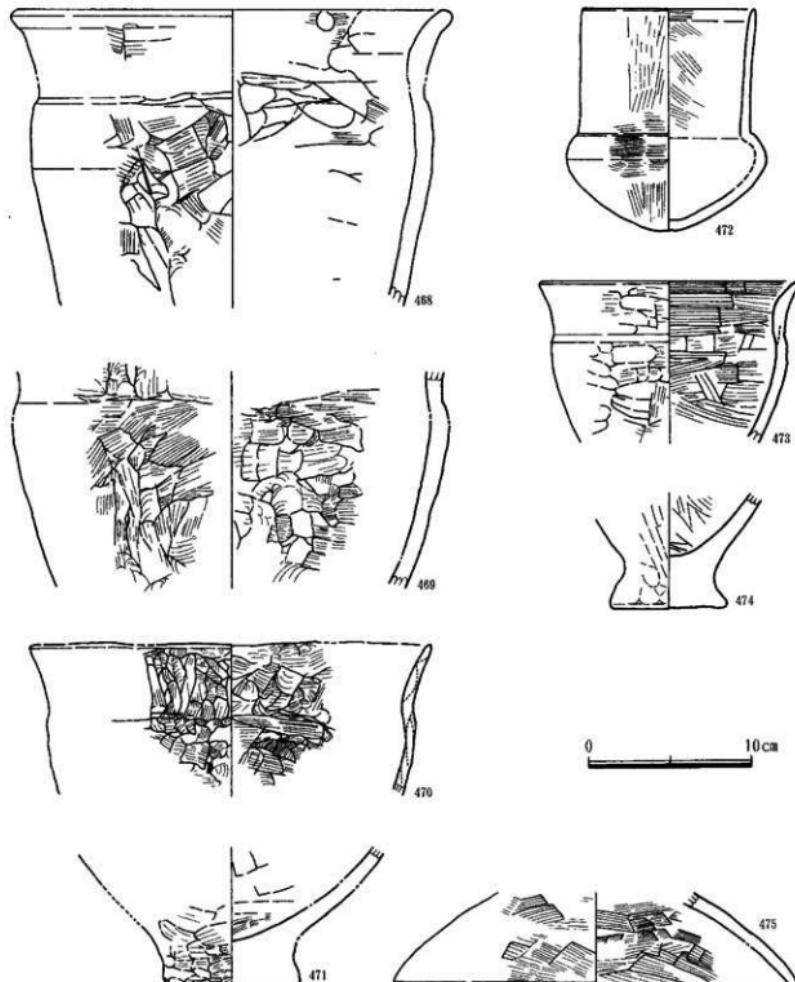


表31 SK-28出土遺物観察表（1）

No	出土地	器種	法量 (mm)			調査		胎土	焼成	色調		考
			口径	底径	器高	外面	内面			外面	内面	
463	SK-28 中一下部 上一下部	要	228-236	77	274	T.貝ナデ	丁寧工具ナデ	陶粒少 粗粒少	良	淡黄褐-燒褐	黃褐-深褐	やや変形
464	SK-28 上一下部	要	247	-	-	ナメル-貝ナデ	工具ナメル-丁寧 工具ナメル-貝ナデ	粗粒少 粗粒少	良好	淡灰褐-灰褐	褐褐-暗茶褐	
465	SK-28上層	要	246	-	-	工具ナデ	工具ナデ	粗粒少 粗粒少	良	淡茶褐-次青	褐-深褐灰	内面: マメツ
466	SK-28 上-F層	要	325	-	-	ヨコハケ	ヨコハケ	粗粒少 粗粒少	ややあまい	褐-深黄	淡青褐-淡青	
467	SK-28 下-F層	要	208	83	189	ナメル二貝ナデ	丁貝ナデ	粗粒少 粗粒少	良	淡青褐-淡青	淡青褐-淡青灰	やや変形



第95図 SK-28 出土遺物実測図 (2)

表32 SK-28出土遺物観察表(2)

No	出土地	器種	法量(cm)			調査		胎土	焼成	色調		備考
			口径	底径	器高	外面	内面			外面	内面	
425	SK-28 中一下層	甕	273	—	—	ハケ	ハケ	粗繊維多量	やや多い	棕褐色～淡黃褐色	橙褐色～淡褐色	
458	SK-28中層	甕	—	—	—	—	工具ナデ	粗繊維やや多い	良	淡黃褐色～灰黃褐色	橙褐色～淡黃褐色	
469	SK-28上層	甕	250	—	—	工具ナデ	ハケ	粗繊維やや多い	良	淡黃褐色～灰黃褐色	淡黃褐色～淡黃褐色	
470	SK-28下層	甕	—	—	74～78	工具ナデ	工具ナデ～工具ナデ	粗繊維やや多い	良	黄褐色～淡褐色	黃褐色～淡褐色	
471	SK-28下層	甕	—	—	—	—	—	—	—	—	—	

特徴的なこととして、小型の鉢が7点(505～511)出土している。

SK-41(第103図) 05号住居から西へ9mの位置にある、直径1.44m前後の略円形土坑と長径2.32m・短径1.5m前後の略楕円形土坑が重複した遺構である。出土遺物の殆どは略楕円形土坑の上面～上層に集中しており、甕が主体である(第104図)。

SK-47(第105図) 調査区の中央北寄り、09号住居の北西6mに位置した、長径3.74m・短径2.62mの大型楕円形土坑で、最深部は44cmを測る。機能を特徴付ける要素は無く、遺物は北東部に集中するが、中央部中層において脚台部を欠く高壙1点が出土した。

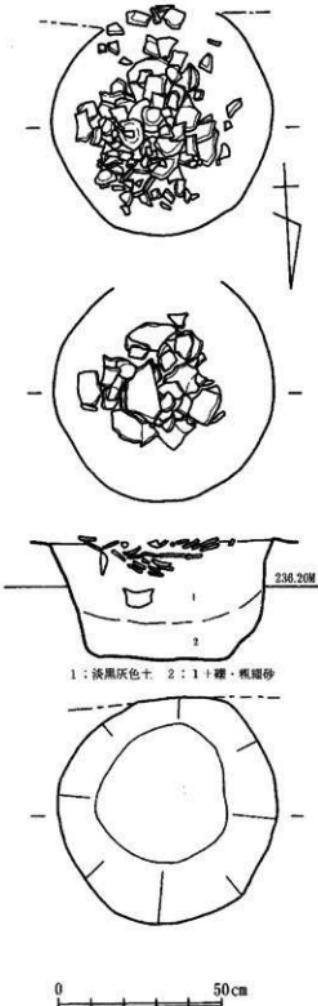
出土遺物は小破片が多く、高壙(574)以外は殆ど図化できない。高壙の器壁は薄く、搬入品と推定される。

SK-80(第106図) 09号住居の北東6.5mに位置した、長径1.88m・短径1.16mの楕円形を呈する中型土坑である。最深部は40cmを測り、遺物は中央寄りの中～上位に集積している。

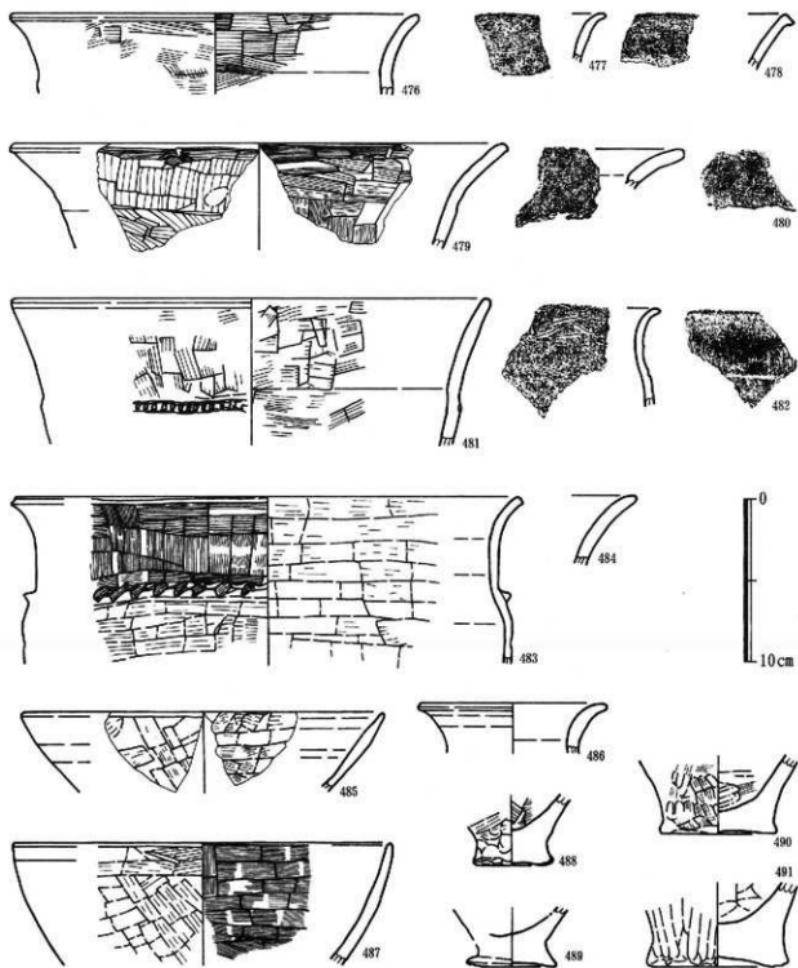
出土遺物は多いが(第107～109図)、完形品は甕2点(543・544)のみである。弥生時代後期の遺物が主体である。

以下、出土遺物が少ない土坑を列記する。

SK-33(第110図) 02号住居の北西2mに位置した、長径1.60m・短径1.10mの楕円形を呈した中型土坑である。底面は段掘りで最深部は40cmを測る。上面において甕1点(554)が出土し、Ⅲ～Ⅳa層から出土した3片と接合した。



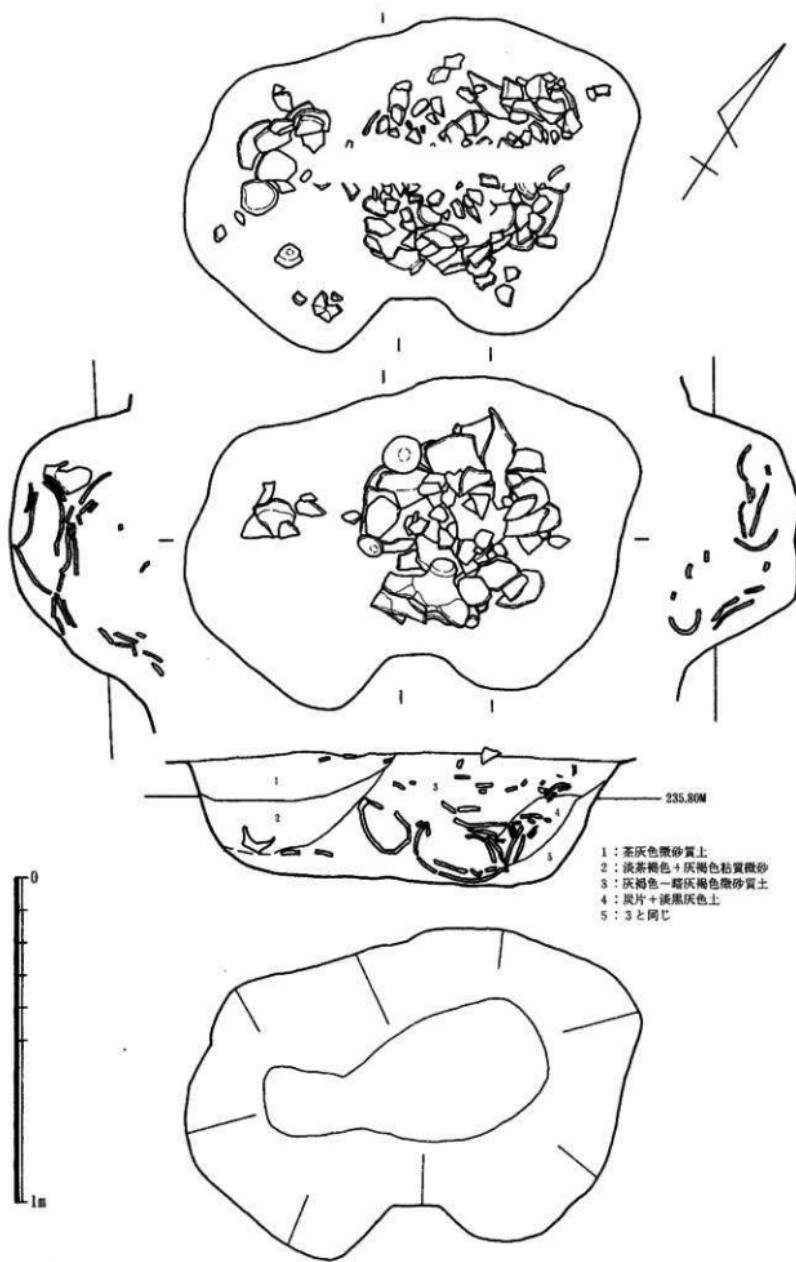
第96図 SK-29 遺構実測図



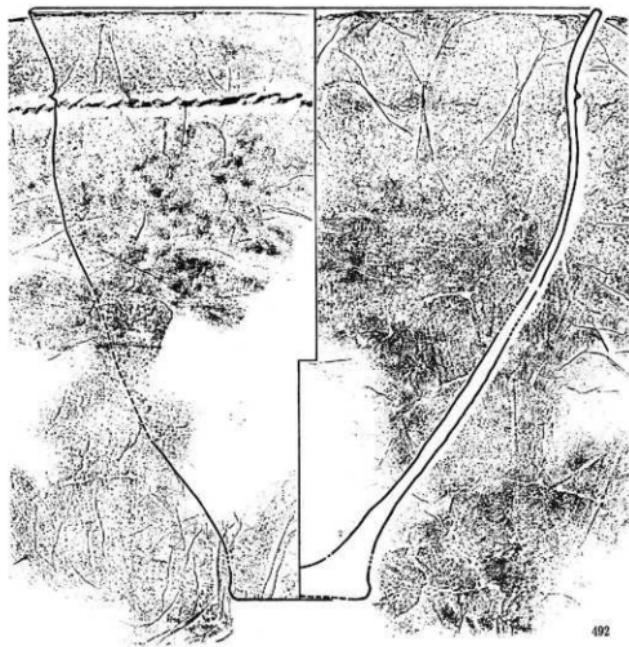
第97図 SK-29 出土遺物実測図

表33 SK-28出土遺物観察表 (3)

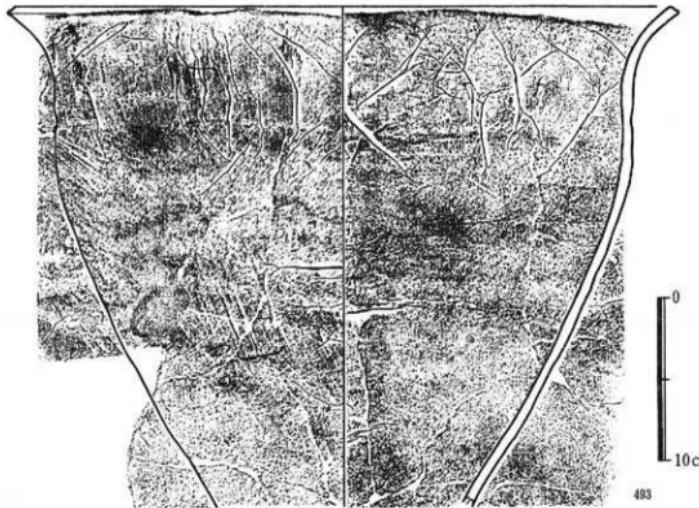
No.	出 土 地	器 様	法 量 (mm)		調 整		胎 土	焼 成	色 調		備 考
			口径	底径	器高	外 面			外 面	内 面	
472	SK-28上層	罐	108	—	137	日本ハケ —タハケ	ナナメハケ	ややあまい	淡黄褐色— 淡褐色、黒斑	淡黄褐色— 淡灰褐色	
473	SK-28 中—下層	甕	157	—	—	堆工具ナゲ	ハケ	白色粘土の外 面	青褐色— 淡褐色	青褐色— 淡褐色	
474	SK-28上層	甕	—	73	—	工具ナゲ	ハケ	細砂多量	白	白	外側：マツツ 内側：マツツ
475	SK-28下層	甕	249	—	—	ハケ	ハケ	粗粒砂や多い	ややあまい	淡黄褐色— 淡黃褐色	外側：マツツ 内側：マツツ



第98図 SK-39 遺構実測図



492

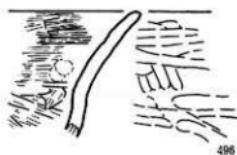


493

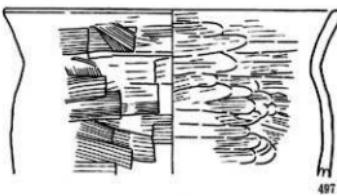
第99図 SK-39 出土遺物実測図 (1)



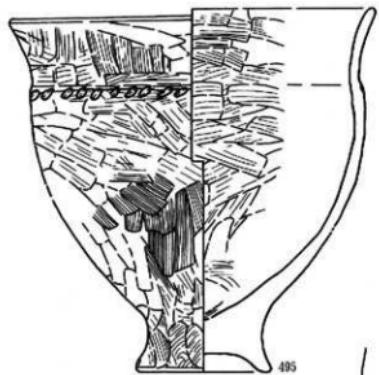
494



496



497



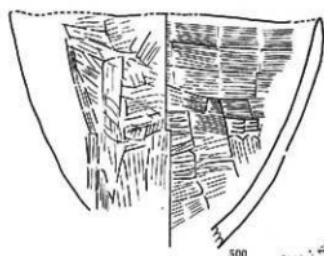
495



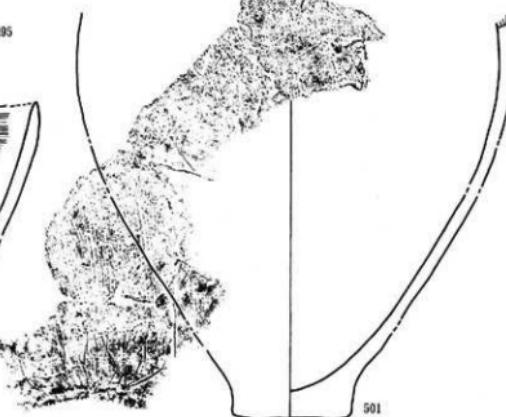
498



499



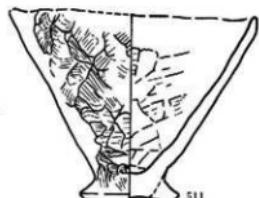
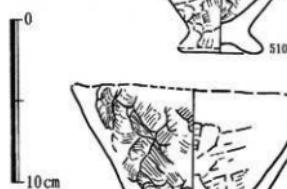
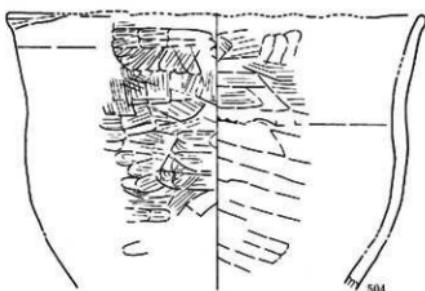
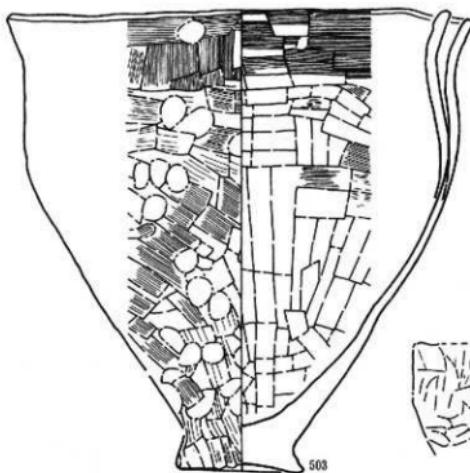
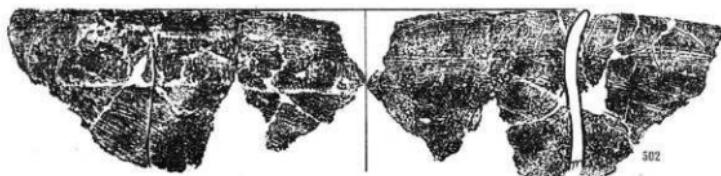
500



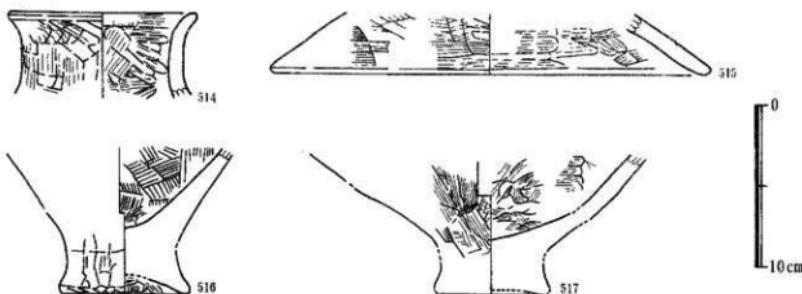
501

0 10 cm

第100図 SK-39 出土遺物実測図 (2)



第101図 SK-39 出土遺物実測図 (3)



第102図 SK-39 出土遺物実測図 (4)

表34 SK-29出土遺物観察表

No	出土地	部種	法量 (mm)			調査		胎上	焼成	色調		備考
			口径	底径	器高	外面	内面			外面	内面	
39776 476	SK-29上層	甕	249	-	-	-	ヨコハケ	粗織砂少量	あまり	茶灰-淡橙黄	黄褐色-淡黃	外面: マメツ 606と同型
477	SK-29上層	甕	-	-	-	ヨコハケ	ヨコハケ	粗織砂少量	良	淡茶褐-褐色	淡茶褐-灰褐色	
478	SK-29上層	甕	-	-	-	ナデ	ヨコハケ	粗織砂少量	ややあまり	茶灰-褐色	茶灰-褐色	
479	SK-29上層	甕	300	-	-	ヨコハケ-ナデ	ヨコハケ	粗織砂少量	良	淡茶褐-褐色	淡茶褐-褐色	
480	SK-29上層	甕	-	-	-	ナデ	ヨコハケ	粗織砂少量	良	淡灰褐-茶灰	淡茶褐-淡褐色	
481	SK-29上層	甕	290	-	-	ハケ	ハケ	粗織砂多量	ややあまり	淡褐-茶褐色	淡茶褐-淡黑色	
482	SK-29中層	甕	-	-	-	ヨコハケ	ハケ	粗織砂少量	良	淡褐褐-淡褐色	茶灰-淡褐色	
483	SK-29中層	甕	309	-	-	工具ナデ	工具ナデ	粗織砂や多い	良	淡茶褐-褐色	茶灰-褐色	外面: マメツ 606と同型 内面: オゴク少量
484	SK-29上層	甕	-	-	-	ヨコハケ-ナデ	ヨコ工具ナデ	粗織砂やや多い	ややあまり	茶褐	茶褐-褐色	
485	SK-29上層	粗製鉢	220	-	-	工具ナデ	工具ナデ	粗織砂やや多い	良	淡灰褐色-灰褐色	淡茶褐-褐色	
486	SK-29中層	甕	114	-	-	ヨコハケ	粗工具ナデ	粗織砂少量	良	淡茶褐-淡褐色	淡褐色-淡褐色	
487	SK-29中層	甕	232	-	-	工具ナデ	ヨコハケ-工具ナデ	粗織砂多量	良	淡褐-淡橙黃	淡褐色-淡褐色	
488	SK-29中層	甕	--	47-50	-	工具ナデ	ハケ	粗織砂多量	ややあまり	橙黃-淡黃	淡褐色-淡褐色	外面: マメツ
489	SK-29上層	甕	-	50×56	-	工具ナデ	-	粗織砂少量	ややあまり	茶褐-淡褐色	茶褐-淡褐色	内面: マメツ
490	SK-29中層	甕	-	72	-	粗工具ナデ	工具ナデ	粗織砂多量	ややあまり	茶灰-暗茶褐色	暗褐色-灰褐色	外底: 深青白-白色付着物
491	SK-29下層	甕	-	HP	-	工具ナデ	工具ナデ	粗織砂少量	良	暗褐色-茶灰	淡灰褐色-褐色	

表35 SK-39出土遺物観察表 (1)

No	出土地	器種	法量 (mm)			調査		胎上	焼成	色調		備考
			口径	底径	器高	外面	内面			外面	内面	
39979 492	SK-39	甕	320×352	88	369	ハケ-工具ナデ -ヨコハケ	工具ナデ	粗織砂や多い 粗砂少	良好	淡茶褐-茶褐色 -褐色-褐色	淡褐色-淡褐色	外底: ややマメツ 内面: ややマメツ
493	SK-39	甕	405	-	-	ナデ-ヨコハケ -横ハケ	工具ナデ-ナデ -横ハケ	粗織砂や多い 粗砂少	良	淡茶褐-褐色 -褐色-褐色	淡茶褐-褐色	
第100回 494	SK-39	甕	234-240	86	234	工具ナデ	工具ナデ -直下工具ナデ	粗織砂やや多い 粗砂少	良	淡茶褐-淡灰褐色 -褐色-褐色	淡褐色-淡褐色	外底: 鋸齿状に焼成 内面: ややマメツ
495	SK-39	甕	220×222	84	225	工具ナデ-ハケ	工具ナデ-ナデ	粗織砂やや多い 粗砂少	ややあまり	淡褐-淡褐色	淡褐色-淡褐色	
496	SK-39	甕	-	-	-	工具ナデ	ナデ	粗織砂やや多い 粗砂少	良	淡茶褐-淡灰褐色 -褐色-褐色	淡褐色-淡褐色	
497	SK-39	甕	203	-	-	ハケ	丁寧工具ナデ	粗織砂やや多い 粗砂少	ややあまり	淡茶褐-褐色	淡褐色-淡褐色	
498	SK-39	甕	294	-	-	ハケ	工具ナデ	粗織砂や多い 粗砂少	ややあまり	青褐色-灰褐色	淡褐色-淡褐色	画面: マメツ
499	SK-39	甕	-	-	-	工具ナデ	丁寧工具ナデ	粗織砂やや多い 粗砂少	良	淡茶褐-褐色	淡褐色-淡褐色	
500	SK-39	甕	181×193	-	-	工具ナデ	工具ナデ -粗ハケ	粗織砂やや多い 粗砂少	ややあまり	淡茶褐-褐色	淡褐色-淡褐色	外底: ややマメツ
501	SK-39	甕	-	74	-	工具ナデ	工具ナデ-粗ハケ	粗織砂少 小粒	良	茶灰-暗茶褐色 -褐色-褐色	暗褐色-褐色	
第101回 502	SK-39	甕	273	-	-	ハケ	ハケ	粗織砂やや多い 粗砂少	良	暗茶褐-茶褐色 -褐色-褐色	暗褐色-褐色	
503	SK-39	甕	154×183	75×79	286	ナデ-ヨコハケ -工具ナデ	工具ナデ	粗織砂やや多い 粗砂少	ややあまり	淡茶褐-褐色	淡褐色-淡褐色	内面: ややマメツ
504	SK-39	甕	255	--	-	工具ナデ	工具ナデ	粗織砂少 小粒	ややあまり	淡茶褐-褐色	淡褐色-褐色	
505	SK-39	小口合付鉢	88	59	73	粗工具ナデ	粗工具ナデ	粗織砂少 中位	良	淡茶褐-褐色	淡褐色-褐色	内面: 黒底
506	SK-39	小口合付鉢	80	41	66	工具ナデ	工具ナデ-ナデ	粗織砂少 中位	良	淡茶褐-淡褐色	淡褐色-褐色	内面: 茶褐色-褐色
507	SK-39	小口合付鉢	92	61	89	粗工具ナデ	粗工具ナデ	粗織砂少	ややあまり	淡灰褐色-淡褐色	淡褐色-褐色	

表36 SK-39出土遺物観察表(2)

No	出土地	器種	法量(mm)			調査		胎上	焼成	色調	備考
			口径	底径	高さ	外面	内面				
第101回 508	SK-39	小型台付鉢	—	—	—	粗工具ナダ	粗工具ナダ	繊維粉少量	ややあるいは	淡青灰～淡墨灰	淡灰灰～暗灰
509	SK-39	牛型台付鉢	101	—	—	粗工具ナダ	粗工具ナダ	—	淡黄褐	淡黄褐	淡灰灰～暗灰
510	SK-39	小型台付鉢	122	52	96	粗工具ナダ	粗工具ナダ	繊維粉少量	ややあるいは	淡灰灰	淡灰灰～暗灰
511	SK-39	小型鉢	145×156	62	117	粗工具ナダ	粗工具ナダ	繊維粉少量	ややあるいは	淡青灰～淡黄灰	外側：マメツ
512	SK-39	鉢	—	72	—	工具ナダ	工具ナダ	繊維粉やや多い	良	淡青灰～淡黄灰	外側：マメツ
513	SK-39	壺	300	—	—	工具ナダ～ナダ	工具ナダ	繊維粉やや多い	良	淡青灰～淡黄灰	外側：マコケ
第102回 514	SK-39	壺	111	—	—	工具ナダ	工具ナダ	繊維粉やや多い	良	淡青灰～淡黄灰	内面：マメツ
515	SK-39	壺	261	—	—	工具ナダ～ハケ	工具ナダ	繊維粉少量	良	淡青灰～淡黄	内面：マメツ
516	SK-39	壺	—	80	—	工具ナダ	工具ナダ	繊維粉やや多い	良	淡灰灰	外側：マメツ
517	SK-39	壺	—	70	—	工具ナダ	工具ナダ	粗繊粉・小塊少量	良	淡青灰～淡黄	外側：マメツ



第103図 SK-41 造構実測図

S K-40 (第110図) 04号住居から南西に3m・07号住居から東へ3mに位置した、2~3基の土坑が重複したようなプランである。長軸2.27m・短軸1~1.18m・深さ5cm前後の1段目掘削の後、長径102cm・短径92cm・深さ40cmの楕円形の穴と、直径83cm・深さ40cmの不整円形の穴が6cm離れて掘り込まれている。出土遺物は少量で（第112図）、壺のほか、台付鉢が1点出土している。

S K-42 (第110図) 05号住居の南西9mに位置した、長径1.25m・短径0.95mの楕円形を呈する土坑で、北寄りに直径93cmの不整円形土坑が2段目に掘り込まれ、深さは42cmを測る。出土遺物は少量で（第113図-562~564）、南端には、直径55cm前後・深さ20cmの別の土坑がある。